

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	アジア消費・流通論	後期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	原田 優也	3年	研究室(5633) mongkhol@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい アジア市場の特徴および地域物流システムについて理解できる。	メッセージ 演習、実習の形式を併用して授業を行う。
	到達目標 アジア市場に関するビジネス課題に対して、自分で考える力を身につける。 アジア消費・流通市場に関するレポート作成能力を身につける。	

学びの準備	到達目標 アジア市場に関するビジネス課題に対して、自分で考える力を身につける。 アジア消費・流通市場に関するレポート作成能力を身につける。
-------	---

学びの実践	学びのヒント 授業計画(テーマ・時間外学習の内容含む) 第01回 オリエンテーション：授業計画および評価の方法の説明 第02回 アジアビジネスの課題説明(課題の選択、情報収集方法など) 第03回 アジア市場の特徴(ASEAN市場、中国市場、インド市場など) 第04回 グローバル・セグメンテーションとポジショニング 第05回 日本企業とアジア中間層 第06回 アジア市場参入戦略1 第07回 アジア市場参入戦略2 第08回 海外企業との提携およびM&A 第09回 中間テスト 第10回 小売業(アジア市場における日本型コンビニエンスストア(FamilyMartと7-eleven)の出店戦略) 第11回 家電企業(インド市場) 第12回 自動車(タイ・中国市場) 第13回 アジアビジネスの課題 発表1 第14回 アジアビジネスの課題 発表2 第15回 アジアビジネスの課題 発表3 第16回 期末試験・レポート提出
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：大久保昭平(2015)『東南アジア進出戦略』中央経済社 マーケティング史研究会(2014)『日本企業のアジア・マーケティング戦略』同文館 参考資料：渡部千春(2010)『日本ブランドが世界を巡る』日経BP社

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：大久保昭平(2015)『東南アジア進出戦略』中央経済社 マーケティング史研究会(2014)『日本企業のアジア・マーケティング戦略』同文館 参考資料：渡部千春(2010)『日本ブランドが世界を巡る』日経BP社
-------	--

学びの実践	学びの手立て 授業に参加し、積極的に学ぶ姿勢(報告に対する質疑応答、パティシペーションなど)が必要である。
-------	--

学びの実践	評価 中間テスト(20%)、期末試験(30%)、レポート(35%)、平常点(15%)
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 企業システム学科の卒業論文演習I・II
-------	------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	アジアの企業と文化	集中	集中	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	一桑原 浩	3年	e9wahara@gmail.com	

学びの準備	ねらい 日本企業と多国籍企業が東南アジア、東アジア諸国でマーケティング活動を行った事例に焦点を当て、特に各地域の文化的背景とマーケティングとの関係を議論しながら、グローバルマーケティング論の基礎的概念の習得を目指します。	メッセージ 日本企業のアジア圏でのマーケティング活動のリアルな現実を、事例を通じて学ぶ授業です。そのために、現地で日系企業が実際に製造販売している製品のいくつかを、体験してもらう予定です。
	到達目標 1. グローバルマーケティングに関する基盤的知識を理解できること。 2. 実際のアジア地域のマーケティング活動に対して、活用可能なマーケティング概念を理解できること。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	消費者行動への越境的な視点（1）；「カップヌードル」他を事例として	第一回宿題
	3	消費者行動への越境的な視点（2）；「TOTO」を事例として 第1回宿題の発表あり	
	4	国のセグメンテーションとターゲット（1）；「かっぱえびせん」他を事例として	
	5	国のセグメンテーションとターゲット（2）；「かっぱえびせん」他を事例として	
	6	国内市場のセグメンテーションとターゲット（1）；「大戸屋」他を事例として	
	7	国内市場のセグメンテーションとターゲット（2）；「大戸屋」他を事例として	
	8	前半期間(2-7回)の補足とまとめ、中間テスト	
9	ポジショニング（1）；緑茶飲料他を事例として		
10	ポジショニング（2）；緑茶飲料他を事例として	第二回宿題	
11	ブランディング（1）；「スターバックス」他を事例として		
12	ブランディング（2）；「スターバックス」他を事例として		
13	市場参入（1）；「吉野家」他を事例として		
14	市場参入（2）；「大戸家」他を事例として		
15	沖縄県企業のアジアマーケティング	期末課題	
16			
	テキスト・参考文献・資料など 資料、講義ノート等をテキストとし、プリントで提供します。以下、参考文献です。 『グローバル・マーケティング入門』 相原 修・嶋 正・三浦 俊彦 著、2009年発行、日本経済新聞出版社 『日本企業のグローバル・マーケティング』 グローバルマーケティング研究会著、大石芳裕（編集）、2009年発行、白桃書房		
	学びの手立て マーケティングの入門科目が履修済みの学生を想定して授業が行われます。これまでマーケティング関係の科目を履修していないが本科目を履修したいと望む学生は、必ず初回授業でそのことを教員に連絡し、適当な指示を受けてください。		
	評価 1) 中間テスト 25% 2) 期末課題 25% 3) 宿題(2回) 50%		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	eコマース・マーケティング	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮森 正樹	3年	miyamori@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この授業を通して、eコマース・マーケティングの成り立ちとその活用方法を学ぶ。そしていかにして企業が自社の商品・サービスをeコマースを通して消費者の元に届けるかを知る。	メッセージ 専門科目を単なる単位・学ぶべきものとするのではなく、授業を通してその科目の楽しさ、面白さ、社会への影響に気づくことが大切です。
	到達目標 1. eコマース・マーケティングの概要を知る。 2. マーケティングとウェブの基本理論を学ぶ。 3. インターネットとマーケティングの関係性を知る。 4. 基本的なウェブ・マーケティングの企画が作成できるようになる。	

学びの準備	到達目標 1. eコマース・マーケティングの概要を知る。 2. マーケティングとウェブの基本理論を学ぶ。 3. インターネットとマーケティングの関係性を知る。 4. 基本的なウェブ・マーケティングの企画が作成できるようになる。
-------	---

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	eコマース・マーケティングとは	eコマースの内容等調査
	3	インターネットとマーケティングとの関係	eコマースの内容等調査
	4	eコマース事例研究1	eコマースの内容等調査
	5	eコマース事例研究2	eコマースの内容等調査
	6	eコマース事例研究3	eコマースの内容等調査
	7	ネット通販とは	eコマースの内容等調査
	8	ネット通販の現状と将来	eコマースの内容等調査
	9	ネット通販への提言	eコマースの内容等調査
	10	eコマースの流通戦略	eコマースの内容等調査
	11	eコマースの販売促進政策	eコマースの内容等調査
	12	eコマースの価格政策	eコマースの内容等調査
	13	eコマース実習1	eコマースの内容等調査
	14	eコマース実習2	eコマースの内容等調査
	15	eコマース実習3	eコマースの内容等調査
16	期末試験		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：授業にて指定する。また、必要に応じて授業の中でプリントを配布する。参考文献も必要な時に発表する。
-------	---

学びの実践	学びの手立て 履修の心構え： ①出席・授業への積極的参加を強く求める、②自分から動く、③課題提出は期日を守る、④他の学生に迷惑を掛けない。  学びを深めるために： ①マーケティングとウェブの関係を知る、②議論に積極的に参加する、③日経MJを読む。
-------	--

学びの実践	評価 評価は次の項目の総合的な観点から行われる。 ①出席、②期末試験、③レポート、④授業での態度、⑤課題提出物。
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 ビジネス関連科目を多く受講すること。マーケティングに関連した書籍を読むこと。一般教養科目をしっかりと学ぶこと。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	英文簿記・会計	後期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	清村 英之	2年	・研究室：5627室 ・メール：hkiyomura@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	企業活動・ビジネスに国境がないように、簿記・会計の世界でも徐々に国境がなくなりつつあります。国境がなくなった時、世界標準の貸借対照表や損益計算書は、当然ながら英語で作成されます。この講義では、「商業簿記Ⅰ」で学んだ簿記一巡の手続を英語で行えるようになることを目指します。	英文簿記・会計に関する資格として、東京商工会議所主催の国際会計検定BATIC (Bookkeeping and Accounting Test for International Communication) があります。この講義はSubject1に対応しています。直前対策講座も実施する予定なので、是非、チャレンジしてください。
到達目標	① 商品売買取引、手形取引、資金調達取引などの諸取引を英語で仕訳（記録）できる。 ② 上記①の諸取引を英語でSpecialized journal（特殊仕訳帳）へ記帳し、Ledger（元帳）に転記できる。 ③ 決算を行い、Income statement（損益計算書）とBalance sheet（貸借対照表）を英語で作成できる。	

学びの実践	学びのヒント			
	授業計画			
	回	テーマ	時間外学習の内容	
	1	Guidance（ガイダンス）	-	
	2	Basic Concepts of Bookkeeping and Accounting（簿記・会計の基礎概念）	講義内容の復習	
	3	Transactions and Journal Entries（取引と仕訳）	同上	
	4	Transactions and Journal Entries（取引と仕訳）	同上	
	5	Journals and Ledgers（仕訳帳と元帳）	同上	
	6	Journals and Ledgers（仕訳帳と元帳）	同上	
	7	Trial Balance（試算表）	同上	
8	Test①（中間テスト）	-		
9	Adjusting Entries（決算整理仕訳）	講義内容の復習		
10	Worksheet（精算表）	同上		
11	Closing Entries（帳簿の締切り）	同上		
12	Financial Statements（財務諸表）	同上		
13	Financial Statements（財務諸表）	同上		
14	Financial Statement Analysis（財務諸表分析）	同上		
15	Internal Control（内部統制）	同上		
16	Test②（期末テスト）	-		
テキスト・参考文献・資料など	テキスト・参考文献・資料など ・テキスト：清村英之『英文会計が基礎からわかる本』同文館出版，平成27年10月，2,200円＋税。 ・参考文献：講義中に紹介します。			
学びの手立て	○履修上の注意事項／心構え： ・「商業簿記Ⅰ」を履修済みの学生（またはそれと同等の能力を持つ学生）しか登録できません。 ・例年、遅刻や欠席の多い学生は単位を修得できていません。遅刻・欠席をしないよう心がけてください。 ○学びを深めるために： ・映画、音楽、雑誌等、日常的に英語に触れる機会を作るといいでしょう。			
評価	・平常点……20点（講義中の取組みを評価します） ・テスト……80点（上記「到達目標」を評価します）			

学びの継続	次のステージ・関連科目 国際会計検定BATICは、7月と11月に行われます。「メッセージ」にも書いたように、検定試験の前には直前対策講座を実施する予定です。是非、チャレンジを！
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	オフィス・マネジメント I	前期	木 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-及川 卓郎	2年	下記のE-mailで質問を受け付けます。tkroikawa@gmail.com	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>社会に出てからは、いろいろな場面で指導的な立場で人を引っ張っていきが多くなると思います。その時、人に自分の主張を理解してもらうためには表現力、説得力が重要です。具体的には客観的な結果の導入とそのプレゼンテーションです。この講義では、エクセルを学ぶことでこの2点について基本的な技術を身に付けることができます。</p>	<p>エクセルの利用を主題にしている科目です。エクセルを使った表計算、エクセル上の便利なツール類、事例の積み重ねによるエクセルマクロプログラミングの範囲を学びます。授業の最後にはマクロによるエクセルの自動処理に挑戦します。</p>
到達目標	実社会で利用可能かエクセルによる分析能力、プレゼンテーション能力を身につけることを目標としています。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	授業ガイダンス	
	2	エクセルの成り立ち	
	3	エクセルの基本操作	
	4	エクセルによる文字列操作	
	5	エクセルによる関数計算	
	6	エクセルがもつデータベース機能	
	7	ケーススタディー 1	
8	中間試験		
9	ピボットテーブルの利用方法		
10	ケーススタディー 2		
11	ケーススタディーのまとめ		
12	関数の利用		
13	ケーススタディー 3		
14	グラフ機能の利用		
15	ケーススタディー 4		
16	期末試験		
実践	テキスト・参考文献・資料など プリントを配付して授業を行います。		
学びの手立て	できるだけ前の席にすわるようにしてください。前に座っている人の方が学習効果が高い結果が出ています。		
評価			

学びの継続	次のステージ・関連科目 本講義の内容は、経営情報処理 I と II で必要になります。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	オフィス・マネジメントⅡ	後期	木4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-及川 卓郎	2年	下記のE-mailで質問を受け付けます。tkroikawa@gmail.com	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>社会に出てからは、いろいろな場面で指導的な立場で人を引っ張っていきることが多くなると思います。その時、人に自分の主張を理解してもらうためには表現力、説得力が重要です。具体的には客観的な結果の導入とそのプレゼンテーションです。この講義では、エクセルを学ぶことでこの2点について基本的な技術を身に付けることができます。</p>	<p>エクセルの利用を主題にしている科目です。エクセルを使った表計算、エクセル上の便利なツール類、事例の積み重ねによるエクセルマクロプログラミングの範囲を学びます。授業の最後にはマクロによるエクセルの自動処理に挑戦します。</p>
到達目標	実社会で利用可能かエクセルによる事務処理、数値処理、統計分析能力、プレゼンテーション能力を身につけることを目標としています。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	授業ガイダンス	
	2	エクセルの成り立ち	
	3	エクセルの基本操作	
	4	エクセルによる文字列操作	
	5	エクセルによる関数計算	
	6	エクセルがもつデータベース機能	
	7	ケーススタディー1	
	8	中間試験	
	9	ピボットテーブルの利用方法	
	10	ケーススタディー2	
	11	ケーススタディーのまとめ	
	12	関数の利用	
	13	ケーススタディー3	
14	グラフ機能の利用		
15	ケーススタディー4		
16	期末試験		
実践	テキスト・参考文献・資料など プリントを配付して授業を行います。		
学びの手立て	できるだけ前の席にすわるようにしてください。前に座っている人の方が学習効果が高い結果が出ています。		
評価			

学びの継続	次のステージ・関連科目 本講義の内容は、経営情報処理ⅠとⅡで必要になります。
-------	---

※ポリシーとの関連性 キャリア教育の一環として、会計監査の実務経験に基づく講義により、実践的な知識や経験を学びます。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	会計監査	前期	火1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-友利 健太	3年	授業終了後に教室で受け付けます。 tomori@umuyasu-law.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	この講義では、会計監査と、これを担う公認会計士とその仕事内容について、公認会計士である講師の実務経験を交えて解説します。メッセージに記載したツールとなるように、会計監査の特に「考え方」と「社会的な役割」を理解してもらいます。	学生みなさんが、将来社会人となって触れることとなる情報（特に財務情報）の信頼性がどのように担保されているのかを理解することは、さまざまな分野で活躍するうえで活用できるツールになると思います。

到達目標
①会計監査の「背景」、「内容」、「考え方」、「手法」、「社会的な役割」が理解できる。 ②公認会計士の「社会的な役割」と「仕事内容」が理解できる。 ③上記のことを、社会人となったときにどのように活用するかイメージできる。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	イントロダクション	講義内容の復習
	2	監査とは何か？なぜ必要なのか？	同上
	3	監査の基礎概念「監査意見」、「重要な虚偽の表示」ほか	同上
	4	監査の基礎概念「監査証拠」ほか	同上
	5	身の回りの監査「会社法監査」、「金融商品取引法監査」	同上
	6	広がる監査&公認会計士のニーズ	同上
	7	監査制度を支える要件	同上
	8	監査基準について	同上
	9	内部統制とは何か？	同上
	10	監査の手法「リスクアプローチ」とは何か？	同上
	11	監査計画	同上
	12	監査の実施（監査手続の基本とこれから）	同上
	13	同上	同上
	14	公認会計士とはどのような人？（試験内容、勉強方法を含む）	同上
15	監査報告書	同上	
16	期末テスト		

テキスト・参考文献・資料など
テキストとして以下の書籍を使用します。 「監査論を学ぶ（第2版）」 著者：蟹江 章、高原 利栄子、藤岡 英治 出版社：税務経理協会 出版年：2017年1月 価格：2,000円（税抜）

学びの手立て
①履修上の心構え ・「商業簿記Ⅰ」程度の簿記の知識があると望ましいですが、無くても受講できます。 ・遅刻、欠席をしないよう心がけてください。 ②学びを深めるために 以下のことを並行して行うことで講義内容の理解が深まります。 ・自分の興味のある会社や組織の「財務諸表」（決算書）を入手して、中身を見てみてください。HPなどで公表されている場合もあります。 ・経済やビジネスに関する新聞記事・ニュースに目を向けてみてください。

評価
平常点20%：講義中の取り組み・姿勢を評価します。 テスト80%：上記「到達目標」を評価します。

学びの継続
次のステージ・関連科目 関連科目 ・会計コースの諸科目

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	会計学特別講義	集中	集中	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	非常勤教員	2年	講義終了後に教室で受け付けます (又はuike@okiu.acまで)	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>この会計基準の解説ではなく、現代の大きな会計の変容をトータルに理解することに焦点を当てています。単なる知識ではなく、「現代の会計がよく見えてくる」力を身につけることができるよう、学修を進めていきます。</p>	<p>本講義において、企業活動がどのように変化し、これを補足・報告する「会計」がこの変化に対してどのように変わっていくかをそれぞれが考えることのできるよう、意識を持って学修してください。</p>
到達目標	<p>現在生じている企業活動の変化とそれに対応する会計の変遷がとらえられるようになる。</p> <p>具体的には</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 企業のビジネス行為の変遷を理解する</li> <li>○ ビジネス行為がどのように会計的に認識され報告されているかを知る</li> <li>○ 企業活動の変化をどのように捉え、どのように利害関係者に開示していくかを思考できる。</li> </ul>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	新たな会計基準と「企業会計原則」 1回～4回	会計の概要を確かめる
	2	現代企業の変容を包括的に捉える 4回～7回	企業活動のとらえ方を確認する
	3	現代企業の変容の形と方向を考える 8回～9回	ビジネス環境の変化を確認する
	4	新たな会計秩序を考える 10回～13回	「新」会計基準について確認する
	5	日本的会計制度の変容を考える 14回～15回	「トライアングル体制」を再考する
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
15			
16			

テキスト・参考文献・資料など
<p>テキスト 「変貌する現代会計」 石川純治著 日本評論社</p>

<p>学びの手立て</p> <p>講義が連続する集中講義ですので、意識を持って参加してください。受講にあたっては、事前、また講義期間中に新聞や雑誌などで現代の企業がどのような活動を行い、どのような問題に直面しているかを幅広く見聞し、意識してください。</p>
---

<p>評価</p> <p>講義での参加（講義への理解や問題に対する応答など）20% 筆記試験 80%</p>
--

<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目 財務会計 経営分析 資金会計 意思決定会計 次のステージ 本講義で学修した、変化するビジネス環境での企業行動とそれに対応する会計の変化とその考え方を今後とも継続的に補足していくことで、ビジネスにおける会計報告やそれに基づいた企業行動を理解していく。</p>
---

※ポリシーとの関連性

企業の経営活動が、どのような理論・技法に基づいて写体化されるかをテーマに、理解力を深める学習を展開し、学士力を高める。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	会計学 I	前期	木 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-上江洲 由正	2年	uezu@tm.u-ryukyu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 企業の経営活動は体系的・組織的に貸借対照表や損益計算書などの財務諸表に写体化される。したがって、財務諸表は企業の姿が映し出された大変重要な情報である。本講義では、このような財務諸表の作成原理や技法を学び、情報から実態を的確に捉える洞察力・観察力および情報処理能力を涵養する。	メッセージ 本講義は暗記の学習ではなく理解の学習をねらいとしている。したがって、一方通行的な講義ではなく、ケース・スタディーを取り入れ、質問に答えてもらいながらの講義展開という双方向的な授業を行う。
	到達目標 財務諸表から企業の収益力や財務内容などを的確に把握できるようになり、対企業との関係において適切な意思決定を下せるようになる。また、本講義で学んだ学習内容は地方自治体・NPOなどの非営利組織にも応用できるので、非営利組織の実態もかなりの的確に把握できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	会計とは何か、会計学とは何か。	テキスト第1章を読んでおくこと
	2	会計基準と一般原則（その1）	講義内容の復習
	3	一般原則（その2）	講義内容の復習
	4	一般原則（その3）	講義内容の復習
	5	資産の意義と評価	講義内容の復習
	6	当座資産	関連する簿記問題を解いておくこと
	7	棚卸資産（その1）	関連する簿記問題を解いておくこと
	8	棚卸資産（その2）	関連する簿記問題を解いておくこと
	9	中間テスト	
	10	固定資産会計（その1）	関連する簿記問題を解いておくこと
	11	固定資産会計（その2）	関連する簿記問題を解いておくこと
	12	繰延資産会計	関連する簿記問題を解いておくこと
	13	負債会計（その1）	関連する簿記問題を解いておくこと
	14	負債会計（その2）	関連する簿記問題を解いておくこと
	15	純資産会計	関連する簿記問題を解いておくこと
	16	期末テスト	
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：『財務会計の基礎理論と展開』上江洲由正、大城建夫編著、同文館		
	学びの手立て 簿記の基礎知識が必要となります。毎回の授業は理論と計算を融合したケース・スタディーを中心としたものとなるため、欠席するとその授業内容を全く理解していないものとなるので、遅刻することなく毎回出席するという心構えが求められる。また、理論問題・計算問題は解くにあたっては授業中や休み時間に積極的に質問したり、クラスメートとディスカッションするということを推奨する。		
	評価 成績の評価は中間テストおよび期末テストで80%、受講態度20%で行う。講義内容の理解度を理論および計算の両面から評価するため、中間テスト、期末テストとも理論問題および計算問題を中心とした出題となる。受講態度ははじめに受講しているかどうかを中心に評価する。なお、本講義はテキストの持参がないと実質的に授業に参加できないので、その場合は欠席扱いとなる。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 会計学 I の発展的学習として上位科目である財務会計 I の履修を推奨する。
-------	---

※ポリシーとの関連性

企業の経営活動が、どのような理論・技法に基づいて写体化されるかをテーマに、理解力を深める学習を展開し、学士力を高める。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	会計学Ⅱ	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-上江洲 由正	2年	uezu@tm.u-ryukyu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>企業の経営活動は体系的・組織的に貸借対照表、損益計算書およびキャッシュ・フロー計算書などの財務諸表に写体化される。したがって、財務諸表は企業の姿が映し出された大変重要な情報である。本講義では、このような財務諸表の作成原理や技法を学び、情報から実態を的確に捉える洞察力・観察力および情報処理能力を涵養する。</p> <p>到達目標</p> <p>財務諸表から企業の収益力や財務内容などを的確に把握できるようになり、対企業との関係において適切な意思決定を下せるようになる。また、本講義で学んだ学習内容は地方自治体・NPOなどの非営利組織にも応用できるので、非営利組織の実態もかなりの確に把握できるようになる。</p>	<p>本講義は暗記の学習ではなく理解の学習をねらいとしている。したがって、一方通行的な講義ではなく、ケース・スタディーを取り入れ、質問に答えてもらいながらの講義展開という双方向的な授業を行う。</p>

学びの実践	学びのヒント	授業計画	
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	損益会計（その1）	関連する簿記問題を解いておくこと
	2	損益会計（その2）	関連する簿記問題を解いておくこと
	3	損益会計（その3）	関連する簿記問題を解いておくこと
	4	財務諸表の作成（その1）	会計学Ⅰを復習しておくこと
	5	財務諸表の作成（その2）	損益会計を復習しておくこと
	6	連結会計（その1）	講義内容を復習しておくこと
	7	連結会計（その2）	講義内容を復習しておくこと
	8	連結会計（その3）	講義内容を復習しておくこと
9	中間テスト		
10	金融商品会計（その1）	講義内容を復習しておくこと	
11	金融商品会計（その2）	講義内容を復習しておくこと	
12	外貨建取引会計（その1）	講義内容を復習しておくこと	
13	外貨建取引会計（その2）	講義内容を復習しておくこと	
14	外貨建取引会計（その3）	講義内容を復習しておくこと	
15	わが国の会計基準と国際会計基準	講義内容を復習しておくこと	
16	期末テスト		
実践	テキスト・参考文献・資料など	テキスト：『財務会計の基礎理論と展開』上江洲由正、大城建夫編著、同文館	
	学びの手立て	簿記の基礎知識が必要となります。毎回の授業は理論と計算を融合したケース・スタディーを中心としたものとなるため、欠席するとその授業内容を全く理解していないものとなるので、遅刻することなく毎回出席するという心構えが求められる。また、理論問題・計算問題は解くにあたっては授業中や休み時間に積極的に質問したり、クラスメートとディスカッションするということを推奨する。	
	評価	成績の評価は中間テストおよび期末テストで80%、受講態度20%で行う。講義内容の理解度を理論および計算の両面から評価するため、中間テスト、期末テストとも理論問題および計算問題を中心とした出題となる。受講態度はまじめに受講しているかどうかを中心に評価する。この授業はテキストの持参がないと実質的に講義に参加できないので、その場合は欠席扱いとなる。	

学びの継続	次のステージ・関連科目
	会計学Ⅱの発展的学習として上位科目である財務会計Ⅱおよび資金会計の履修を推奨する。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	会社法	後期	月4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	伊達 竜太郎	3年	r.date@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 我々が生きる現代社会において、「会社」は人々の生活と密接に関係している。ここで取り扱う「会社」では、会社内部の株主や取締役などの意思決定の下で、会社内部の権限・利益配分や会社外部の債権者との取引を行う。本講では、このような会社をめぐる利害関係者を規制する「会社法」を中心に議論を進める。	メッセージ 皆さんの質問にも丁寧に答えつつ、分かりやすく解説したい。「会社法」の楽しさと奥深さを一緒に学びましょう。
	到達目標 法と経済学や国際会社法などの現代的なトピックを交えつつ、諸制度の基本的知識を理解し、実社会に出た後も活用できる法的考察力の獲得を目指す。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	会社法総論
	2	ベンチャー・ビジネスと法規制
	3	会社形態：株式会社・持分会社
	4	設立：総論・設立手続など
	5	株式（1）総論・株主の権利と義務
	6	株式（2）株式の譲渡とその制限
	7	新株発行（1）意義・資金調達
	8	新株発行（2）是正措置
	9	機関（1）総論
	10	機関（2）株主総会
	11	機関（3）取締役・取締役会・代表取締役
	12	機関（4）監査役・監査役会
	13	機関（5）会計参与・会計監査人・委員会設置会社
	14	企業組織再編：合併・敵対的企業買収など
	15	国際会社法：会社従属法・外国会社など
	16	期末試験
	テキスト・参考文献・資料など （1）徳本穰『会社法』（法律文化社、2018年） または、伊藤靖史＝大杉謙一＝田中亘＝松井秀征『会社法〔第4版〕（LEGAL QUEST）』（有斐閣、2018年） ⇒ 初回講義時に指定する （2）最新版の六法	
	学びの手立て 講義を通して、基本概念と立法趣旨を理解する。 講義を受ける姿勢として、常に就職を意識しましょう。大学は、社会人になるための大事なプロセスです。	
	評価 期末試験および講義における受講態度により評価する。期末試験の成績が70で、授業参加度が30の割合である。テストは期末試験1回を予定し、選択式6題および論文式2題の問題を予定している。	

学びの継続	次のステージ・関連科目 手形・小切手法、経済法、法務研究Ⅰ（法学検定試験の対策講座）、法政特論Ⅱ（ビジネス実務法務検定試験の対策講座）
-------	--

※ポリシーとの関連性

ホスピタリティ&観光マーケティングを学習することで、観光・サービス産業分野で活躍できる人材を育成する。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	観光マーケティング	前期	月4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	李 相典	3年	i. sanjon@okiu. ac. jpまたは授業終了後	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	ホスピタリティ&観光マーケティングの基礎知識を学ぶとともに、新たな観光商品の開発・企画に関する演習を通じて観光産業で活躍できる実務的な感覚を身に付ける。	本講義では、日本または沖縄の観光産業の発展のために何が必要なのかを想像しながら、履修学生たちが思い出した観光商品のアイデアを如何に表現すればよいかについて一緒に考えてみます。本講義は履修する受講生とともに観光マーケティングの面白さや観光客の多様な観光活動が持たれる意義について一緒に考えてみる時間です。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ホスピタリティ&amp;観光マーケティングに関する基礎的な知識を習得できるようになる。</li> <li>2. 新しい観光市場を創出するために必要な観光商品やサービスとは何かについて考えてみることによって自分の創造力を向上させる。</li> <li>3. 観光マーケティング分野で活躍できるような力を獲得できるようになる。</li> </ol>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	観光マーケティングとは何か	
	3	観光マーケティング戦略Ⅰ. 市場細分化とトレンド	
	4	観光マーケティング戦略Ⅱ. ポジショニングと目標	
	5	観光マーケティング実行Ⅰ. 商品開発	
	6	観光マーケティング実行Ⅱ. サービスと品質管理	
	7	観光マーケティング実行Ⅲ. パッケージングとプログラミング	
8	観光マーケティング実行Ⅳ. 流通ミックス		
9	グループ別課題オリエンテーション	グループ分け	
10	観光商品企画Ⅰ. 概念と構成要素	グループ課題準備	
11	観光商品企画Ⅱ. アイデア創出	同上	
12	観光商品企画Ⅲ. 需要予測	同上	
13	グループ発表Ⅰ	グループ別発表	
14	グループ発表Ⅱ	同上	
15	グループ発表Ⅲ	同上	
16	期末テスト	個人レポート提出	
実践	テキスト・参考文献・資料など	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. テキスト：使用しません。配布資料で対応します。</li> </ol>	
	学びの手立て	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 遅刻や無断欠席は成績評価に積極的に反映しますので、ご注意ください。 ※やむを得ず遅刻・欠席の場合、事前・事後にメールで連絡してください ※欠席については、欠席届を提出した場合、その内容に従って認定します。</li> </ol>	
	評価	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 出席・受講態度50%： *5回以上の遅刻や無断欠席の場合は履修できません。 *授業中またはディスカッションへの積極的な参加には加点があります。</li> <li>2. グループ・レポート(発表)1回30%</li> <li>3. 個人レポート1回20%(他グループ発表に対する評価レポート)</li> </ol>	

学びの継続	次のステージ・関連科目
	<p>関連科目：『サービス・マーケティング』や『広告論』のような科目とともに履修すると、さらに観光マーケティングの面白さを感じられると思います。</p> <p>次のステージ：なし。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	外書講読 I	前期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	佐久本 朝一	2年		

学びの準備	ねらい ビジネスに関する英文の読解力を養成する。具体的には大学院進学のために経営に関する専門書を翻訳できる技術を学ぶことにある。	メッセージ 授業前後の予習復習をすることが不可欠となる。
	到達目標 ビジネスに関する英文の専門書を翻訳することを可能にする。	

学びの準備	到達目標 ビジネスに関する英文の専門書を翻訳することを可能にする。
-------	--------------------------------------

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Management of Carlos Ghoson	
	2	Management of Jack Welch	
	3	Management of Bill Gates	
	4	Management of Robert Iger	
	5	Management of Nevill Isdell Predident of Coca-Cola company	
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
16			

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
-------	----------------

学びの実践	学びの手立て
-------	--------

学びの実践	評価 各自に毎回割り当てられた専門書の箇所を翻訳し、教員との翻訳を照合をしてチェックを行う。
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	外書講読Ⅱ	後期	金1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	佐久本 朝一	2年		

学びの準備	ねらい ビジネスに関する専門書を翻訳する。	メッセージ
	到達目標	

学びの準備	到達目標

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む) Japan Economic in Every life edited by James Mak

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは適時プリントして配布する。

学びの実践	学びの手立て

学びの実践	評価 毎回、割り当てられた箇所をチェックするので予習をしていくことが必要である。

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	企業者史	後期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩橋 建治	2年	kiwahashi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 「ひと」としての企業者に注目し、そこから学ぶ。授業ではさまざまな企業者を取りあげる。	メッセージ 企業者の活動（経営戦略、経営管理、人材育成など）は、どのような時代的・社会的環境のもとで行われたのか。それにより彼らはいかにして社会を変えていったのか。さらに、困難におちいった彼らを支え続けてきた経営理念、あるいは夢や信念とは、何だったのか。主に以上の問いかけから学んでいく。
	到達目標 時代がひとをつくることと、ひとが時代をつくることを、中長期的な視野でとらえられること。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	企業者史への視角	講義内容の復習
	2	鈴木敏文（セブン・イレブン・ジャパン）	同上
	3	松下幸之助（松下電器産業、現パナソニック）	同上
	4	小倉昌男（ヤマト運輸）	同上
	5	カルロス・ゴーン（日産自動車）	同上
	6	稲盛和夫（京セラ・KDDI）	同上
	7	スティーブ・ジョブズ（アップル）①	同上
	8	スティーブ・ジョブズ（アップル）②	同上
9	南場智子（DeNA）	同上	
10	安藤百福（日清食品）	同上	
11	本田宗一郎（本田技研工業）	同上	
12	孫正義（ソフトバンク）	同上	
13	山田昭男（未来工業）	同上	
14	沖縄の企業者の事例	同上	
15	グループディスカッション	同上	
16	まとめ	同上	
	テキスト・参考文献・資料など 適宜プリントを配布する。		
	学びの手立て この講義は受講生の意見や質問から展開していく。そのため常に考えることが必要とされる。		
	評価 期末試験（80%）、中間レポート（20%）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ベンチャー経営論Ⅰ、ベンチャー経営論Ⅱ、および経営コースの各科目。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	企業の成長戦略と税務	後期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	堀江 徹、一藤 隆弘、大竹 明子、板橋 靖久、片岡 輝男、毛利 隆、金城 久美子	2年	070-2161-0745	

学びの準備	ねらい グローバルプロフェッショナルファームでの数多くの事例に基づき、日本企業のグローバル展開の動向と、税を中心とした経済の動向を学ぶ。BEPS、海外相続税等、グローバル展開する日系企業にとってホットなトピックスを織り交ぜながら、いかに税務が企業の成長戦略に貢献できるかを議論します。	メッセージ 会計、税務、プロフェッショナルファームの仕事の面白さをグローバル企業のビジネスと税務の観点からお伝えしたいと考えています。 ※受講対象：企業システム学科2年次以上
	到達目標 各税務領域について、日系企業がかかえる代表的な課題を理解したうえで、論理的にソリューションを想定できる。現在の日本経済やクロスボーダーなビジネス背景の中での税のあり方を理解した上で、常に変動する最先端の税の状況を理解する。プロフェッショナルファームの役割を理解する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	オリエンテーション
	2	グローバルマインドと国際間異動
	3	給与の仕組み
4	所得税の仕組みと申告納税の基本	
5	暮らしの中の税①	
6	暮らしの中の税②	
7	外国人と税	
8	国際間人材交流と税	
9	決算書と税	
10	税とは	
11	法人税の仕組み	
12	法人税申告の基本	
13	相続税	
14	消費税	
15	プロフェッショナルファームでのキャリア	
16		
	時間外学習の内容	
	テキスト・参考文献・資料など 各回の講義ごとに、講師から準備された資料が配布されます。また、この講義に関する参考書はありません。適宜指示します。	
	学びの手立て 授業は、講義と対話／ケーススタディ等の組み合わせで構成されます。感じたことをその場でオープンに発言していただくことを期待しています。	
	評価 レポート 【100%】・・・レポート課題（2回）に対する課題抽出、分析、提案の質	

学びの継続	次のステージ・関連科目 講義で学習した会計・事務に関わるビジネスソリューションに関わる知識を持ち、経営分析、財務会計、税務会計、戦略会計などへ学習を展開していきましょう。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習 I	前期	木 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮森 正樹	2年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>大学での本格的な学習及び研究の始まりとして、また、産業情報学部・企業システム学科の学生としての基礎的・応用的な学習能力、コミュニケーション能力、表現力を高めることを目的とします。</p>	<p>基礎演習は、4年間の学びの毎日が豊かで実りあるものになるための基礎的及び応用的な学習能力を身につける授業です。また、残り3年間共に勉学に励む仲間との交流の場でもあるので、積極的に授業に参加してください。</p>

到達目標
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 目的・課題に対して適切に情報を収集することができる。</li> <li>2. プレゼンテーション能力を身につける。</li> <li>3. ビジネスに興味・関心を持ち、問題解決のためにディスカッションをすることができる。</li> </ol>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	ケースの研究に関する講義及び班分け。プロジェクトの決定と班分け。	ケースを読む
	3	ケース1の発表（マーケティングを学ぶ）	ケースを読む
	4	ケース2の発表（競争戦略）	ケースを読む
	5	ケース3の発表（セグメンテーション）	ケースを読む
	6	社会人講師の招聘	
	7	ケース4の発表（ポジショニング）	ケースを読む
	8	ケース5の発表（消費者行動）	ケースを読む
	9	ケース6の発表（マーケティングリサーチ）	ケースを読む
	10	プロジェクトの進行確認と中間報告	プロジェクト発表準備
	11	ケース7の発表（新製品開発）	ケースを読む
	12	ケース8の発表（価格戦略）	ケースを読む
	13	プロジェクトのプレゼンテーション1	プロジェクト発表準備
	14	プロジェクトのプレゼンテーション2	プロジェクト発表準備
15	プロジェクトのプレゼンテーション3	プロジェクト発表準備	
16	期末試験		

テキスト・参考文献・資料など
<p>テキストは「ケースに学ぶマーケティング」有斐閣ブックスである。書店にて購入してください。また随時、プリント資料等を配布する。参考文献については、必要に応じて講義中に紹介する。</p>

学びの手立て
<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門必修科目なので、休まず出席してください。</li> <li>・積極的に多様なメディア（新聞、TV、インターネット、書籍等）で情報を収集してください。</li> <li>・前もってテキストを読んでくること。</li> </ul>

評価
授業への参加態度、課題提出、期末試験等によって総合評価する。

学びの継続
<p>次のステージ・関連科目</p> <p>ビジネス関連科目を多く受講すること。マーケティングに関連した書籍を読むこと。一般教養科目をしっかりと学ぶこと。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習 I	前期	火 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	清村 英之	2年	・研究室：5627室 ・メール：hkiyomura@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	簿記の技能は、会計コースで様々な専門科目を履修するに当たって不可欠です。したがって、この演習では、第一に日商簿記検定試験2級取得を目指します。また、会計学の全容を明らかにし、それぞれの領域を紹介することによって会計学への興味を喚起する、つまり会計学への誘いが第二の目的です。	現時点では、「簿記=会計」と理解をしている皆さんが多いと思いますが、簿記だけが会計ではありません。もっと様々な分野の会計があります。この演習では、会計に興味を持った皆さんに、これらを紹介するとともに、今後、会計学を深く学んでいくための基礎を提供します。

到達目標
① リース取引や外貨建取引などの高度な諸取引、株式会社に固有の諸取引を仕訳（記録）できる。 ② 株式会社の損益計算書と貸借対照表を作成できる。 ③ 連結会計の必要性を理解し、連結財務諸表を作成できる。 ④ 会計学の各領域を理解し、説明できる。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	—
	2	会計学の全体像	講義内容の復習
	3	会計学の全体像	同上
	4	会計の歴史	同上
	5	会計の歴史	同上
	6	日商簿記検定試験 6月試験に向けての学習	同上
	7	日商簿記検定試験 6月試験に向けての学習	同上
	8	日商簿記検定試験 6月試験に向けての学習	同上
	9	財務諸表の作り方	同上
	10	財務諸表の作り方	同上
	11	財務諸表の読み方	同上
	12	財務諸表の読み方	同上
	13	財務諸表の読み方	同上
	14	短期利益計画	同上
15	短期利益計画	同上	
16	まとめ	—	

テキスト・参考文献・資料など
・テキスト：使用しません。プリントを配布します。 ・参考文献：講義中に紹介します。

学びの手立て
○履修上の注意事項／心構え： ・会計コースを選択した学生しか登録できません。 ・2年次になると大学生活にも慣れて、気が緩みがちです。遅刻・欠席のないよう心がけてください。 ○学びを深めるために： ・経済やビジネスに関する新聞記事／ニュースに興味を持ちましょう。会計の知識が付くにつれて、これらの記事／ニュースが理解できるようになります（新聞は図書館に各紙揃っています）。

評価
・平常点……20点（講義中の取組みを評価します） ・レポート……80点

学びの継続
次のステージ・関連科目 関連科目：工業簿記 I II（2年次）、会計学 I II（2年次）など、会計コースの諸科目

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習 I	前期	水 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩橋 建治	2年	kiwahashi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この授業では、国内・国外の企業研究を中心に、経営学に関する予備知識を身につけます。その過程で、大学で学ぶための、さらには実社会の現場での実践に役立つ、さまざまな方法を習得します。	メッセージ 経営学は、ヒト（人材育成）・モノ（商品やサービス）・カネ（資金の流れ）・情報などの経営資源を、総合的にどう組み合わせれば、組織としてより効果的な働きをもたらすのかを考える学問です。
	到達目標 ①テキストの輪読を通じて、問題と課題を見いだすためのトレーニングを行います。②討論を通じて、他者と共同して問題解決にあたるプロセスを学びます。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	はじめに： 班分けなど	演習内容の復習
	2	グループワーク (1)： ビジネスアイデアの探求	同上
	3	グループワーク (2)： ビジネスプランの作成	同上
	4	グループワーク (3)： 業界研究	同上
	5	企業経営の全体像	同上
	6	経営学の全体像	同上
	7	企業とインプット（金融資本・労働）市場との関わり： パナソニック	同上
	8	企業とアウトプット（製品・サービス）市場との関わり： 富士フイルム	同上
	9	競争戦略のマネジメント (1)： ソフトバンク	同上
	10	競争戦略のマネジメント (2)： ドトールとスターバックス	同上
	11	多角化戦略のマネジメント： キヤノン	同上
	12	国際化のマネジメント： ホンダ	同上
	13	マクロ組織のマネジメント： 3M	同上
	14	ミクロ組織のマネジメント： 未来工業	同上
15	グループワーク (4)： 優良企業のベンチマーキング	同上	
16	前期のまとめ	同上	
	テキスト・参考文献・資料など 加護野忠男・吉村典久 編著（2012）『1からの経営学 [第2版]』碩学舎（発売元：中央経済社）。		
	学びの手立て 討論では積極的な発言を求めます。積極的な発言は、みんなの理解を助けるだけでなく、発言者の表現力も高めます。		
	評価 授業参加度、演習への貢献度、および課題の完成度などにより総合的に評価します。なお、自分の班が報告班または討論班のときに正当な理由なく欠席した場合は、大きくペナルティーがつきます。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 基礎演習Ⅱ、および経営コースの各科目。
-------	------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅱ	後期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩橋 建治	2年	kiwahashi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この授業では、国内・国外の企業研究を中心に、経営学に関する予備知識を身につけます。その過程で、大学で学ぶための、さらには実社会の現場での実践に役立つ、さまざまな方法を習得します。	メッセージ 経営学は、ヒト（人材育成）・モノ（商品やサービス）・カネ（資金の流れ）・情報などの経営資源を、総合的にどう組み合わせれば、組織としてより効果的な働きをもたらすのかを考える学問です。
	到達目標 ①資料収集とパワーポイント作成を通じて情報の取捨選択と要約の仕方を理解します。②報告を通じて「自分が伝えたいこと」を簡潔かつ的確に伝えるためのスキルを高めます。③討論を通じて他者と共同して問題解決にあたるプロセスを学びます。	

学びの準備	到達目標 ①資料収集とパワーポイント作成を通じて情報の取捨選択と要約の仕方を理解します。②報告を通じて「自分が伝えたいこと」を簡潔かつ的確に伝えるためのスキルを高めます。③討論を通じて他者と共同して問題解決にあたるプロセスを学びます。
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	はじめに： 班分けなど
	2	企業を起こす： 大学発ベンチャー
	3	環境・戦略・組織： フォード、GM
	4	企業の知識体系： シャープ
	5	図書館ガイダンス
	6	いかに競争するか： マクドナルド、モスバーガー
	7	事業のリストラクチャリングと組織改革： GE
	8	M&Aと外部資源の利用： ソニー
	9	いかに国際化するか： ノキア
	10	日本的生産システム： トヨタ
	11	組織の革新と再生： 松下電器産業（現・パナソニック）
	12	日本的経営と人事管理制度： ブラザー工業
	13	消費者の変化に対応する事業システム： セブン-イレブン・ジャパン
	14	ニーズの絞り込みによる市場創造： ライオン
	15	ビジネスの倫理： 三菱ふそう
16	後期のまとめ	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 東北大学経営学グループ（2008）『ケースに学ぶ経営学 [新版]』有斐閣ブックス。
-------	---

学びの実践	学びの手立て 積極的な発言を求めます。各班のパワーポイント報告では、ビジュアルに関する効果的手法や、聴き手に関心をもたせる話し方など、プレゼンテーションのスキルについても適宜指導していきます。
-------	---

学びの実践	評価 授業参加度、演習への貢献度、および課題の完成度などにより総合的に評価します。なお、自分の班が報告班または討論班のときに正当な理由なく欠席した場合は、大きくペナルティーが付きまます。
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 専門演習Ⅰ、および経営コースの各科目。
-------	------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅱ	後期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮森 正樹	2年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>大学での本格的な学習及び研究の始まりとして、また、産業情報学部・企業システム学科の学生としての基礎的・応用的な学習能力、コミュニケーション能力、表現力を高めることを目的とします。</p>	<p>基礎演習は、残り3年間の学びの毎日が豊かで実りあるものになるための基礎的及び応用的な学習能力を身につける授業です。また、3年間共に勉学に励む仲間との交流の場でもあるので、積極的に授業に参加してください。</p>

到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 目的・課題に対して適切に情報を収集することができる。</li> <li>2. プレゼンテーション能力を身につける。</li> <li>3. マーケティングやビジネスに興味・関心を持ち、問題解決のためにディスカッションをすることができる。</li> </ol>
------	---

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	ケースの班分け、プロジェクトの班分け、今後の振興計画作成	前期のプロジェクト復習
	3	ケース1の発表（流通チャンネル戦略）	ケースを読む
	4	ケース2の発表（マーケティングコミュニケーション）	ケースを読む
	5	ケース3の発表（ブランド構築）	ケースを読む
	6	社会人講師招聘	
	7	ケース4の発表（サービスマネジメント）	ケースを読む
	8	ケース5の発表（経験価値マーケティング）	ケースを読む
	9	ケース6の発表（リレーショナルマーケティング）	ケースを読む
	10	ケース7の発表（ウェブマーケティング）	ケースを読む
	11	ケース8の発表（これからのマーケティング）	ケースを読む
	12	プロジェクトのプレゼンテーション1	プロジェクトの報告準備
	13	プロジェクトのプレゼンテーション2	プロジェクトの報告準備
	14	プロジェクトのプレゼンテーション3	プロジェクトの報告準備
15	プロジェクトの講評と今後の発展		
16	期末試験		

テキスト・参考文献・資料など	<p>テキストは「ケースに学ぶマーケティング」有斐閣ブックスである。書店にて購入してください。また随時、プリント資料等を配布する。参考文献については、必要に応じて講義中に紹介する。</p>
----------------	--

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門必修科目なので、休まず出席してください。</li> <li>・積極的に多様なメディア（新聞、TV、インターネット、書籍等）で情報を収集してください。</li> <li>・前もってテキストを読んでくること。</li> </ul>
--------	---

評価	授業への参加態度、課題提出、期末試験等によって総合評価する。
----	--------------------------------

学びの継続	次のステージ・関連科目
	<p>ビジネス関連科目を多く受講すること。マーケティングに関連した書籍を読むこと。一般教養科目をしっかりと学ぶこと。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	基礎演習Ⅱ	後期	火1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	清村 英之	2年	・研究室：5627室 ・メール：hkiyomura@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	簿記の技能は、会計コースで様々な専門科目を履修するに当たって不可欠です。したがって、この演習では、第一に日商簿記検定試験2級取得を目指します。また、会計学の全容を明らかにし、それぞれの領域を紹介することによって会計学への興味を喚起する、つまり会計学への誘いが第二の目的です。	現時点では、「簿記＝会計」と理解をしている皆さんが多いと思いますが、簿記だけが会計ではありません。もっと様々な分野の会計があります。この演習では、会計に興味を持った皆さんに、これらを紹介するとともに、今後、会計学を深く学んでいくための基礎を提供します。

到達目標
① リース取引や外貨建取引などの高度な諸取引、株式会社に固有の諸取引を仕訳（記録）できる。 ② 株式会社の損益計算書と貸借対照表を作成できる。 ③ 連結会計の必要性を理解し、連結財務諸表を作成できる。 ④ 会計学の各領域を理解し、説明できる。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	—
	2	貨幣の時間価値	講義内容の復習
	3	貨幣の時間価値	同上
	4	設備投資意思決定	同上
	5	設備投資意思決定	同上
	6	日商簿記検定試験11月試験に向けての学習	同上
	7	日商簿記検定試験11月試験に向けての学習	同上
	8	日商簿記検定試験11月試験に向けての学習	同上
	9	会計の国際化	同上
	10	会計の国際化	同上
	11	会計の国際化	同上
	12	キャッシュ・フロー計算書の作成	同上
	13	キャッシュ・フロー計算書の作成	同上
	14	会計監査	同上
15	会計監査	同上	
16	まとめ	—	

テキスト・参考文献・資料など
テキスト：使用しません。プリントを配布します。 参考文献：講義中に紹介します。

学びの手立て
○履修上の注意事項／心構え： ・会計コースを選択し、「基礎演習Ⅰ」を履修済みの学生しか登録できません。 ・2年次になると大学生活にも慣れて、気が緩みがちです。遅刻・欠席のないよう心がけてください。 ○学びを深めるために： ・経済やビジネスに関する新聞記事／ニュースに興味を持ちましょう。会計の知識が付くにつれて、これらの記事／ニュースが理解できるようになります（新聞は図書館に各紙揃っています）。

評価
・平常点……20点（講義中の取組みを評価します） ・レポート……80点

学びの継続
次のステージ・関連科目 関連科目：工業簿記ⅠⅡ（2年次）、会計学ⅠⅡ（2年次）など、会計コースの諸科目

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	業績管理会計	前期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	菅森 聡	3年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>管理会計は経営管理を能率的に実施できるように、会計情報を提供することで、経営管理活動を支援します。本講義では管理会計の練習問題を解くことで、各種の管理会計技法の習得を目的とします。</p>	<p>管理会計は経営管理のための会計です。経営管理を行う経営者の立場を想像しながら受講するとよいでしょう。</p>

到達目標
<ul style="list-style-type: none"> <li>・マネジメントのための会計である管理会計に関する知識を習得する。</li> <li>・管理会計技法を習得し、実際に計算できるようになる。</li> </ul>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	該当する章の予習と復習
	2	管理会計のフレームワーク	
	3	原価概念 I	
	4	原価概念 II	
	5	原価概念 III	
	6	標準原価計算 I	
	7	標準原価計算 II	
	8	利益計画 I	
	9	利益計画 II	
	10	利益計画 III	
	11	予算管理 I	
	12	予算管理 II	
	13	事業部制会計 I	
	14	事業部制会計 II	
15	事業部制会計 III		
16	テスト		

<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>『管理会計入門ゼミナール [改訂版]』高栢真一編著、創成社</p>
--

<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回、練習問題を解いてもらいますので計算機を持ってくるようにしてください。</li> <li>・小テストを2回行う予定ですのでしっかり復習するようにしてください。</li> </ul>
--

<p>評価</p> <p>小テスト30%とテスト70%で評価します。</p>
--

<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目 工業簿記、原価計算</p>
--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	グローバル観光ビジネス	後期	月4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	李 相典	2年	i. sanjon@okiu.ac.jp または授業終了後	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代の観光産業を実質的に引っ張っていく様々な観光ビジネスの状況とその特徴に関して基礎的な知識を習得する。</li> <li>2. 世界の多様な観光目的地の環境と観光資源によって、観光ビジネスはどのような違いがあるのかを理解する。</li> </ol>	<p>本講義を履修する学生は、自分が興味を持っている世界の様々な観光地へ旅行に行くことを想像しながら、自分の旅行であったら嬉しい観光サービスについて考えてみてください。本講義は観光ビジネスが観光客に利便性と楽しさを伝えるための多様な活動について説明します。</p>

到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 多様で複雑になっている現在の観光ビジネスに関する基礎的な知識を習得する</li> <li>2. 世界の重要な観光目的地の観光ビジネスの特徴を学習する</li> <li>3. 観光分野で活躍できるような力を得ることを講義の目標とする。</li> </ol>
------	---

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	観光事業のマネジメント特性	
	3	観光事業のイノベーション	
	4	観光事業のグローバル経営	
	5	観光のマーケティング・マネジメント	
	6	観光とWEBビジネス	レポート①の課題
	7	観光関連産業の基幹事業__旅行業	
	8	観光関連産業の基幹事業__宿泊業	レポート①の提出
	9	観光関連産業の基幹事業__航空輸送業	
	10	観光関連産業の基幹事業__テーマパーク	
	11	観光事業の展開モデル__総合型リゾート	
	12	観光事業の展開モデル__地域の観光まちづくり事業	レポート②の課題
	13	観光事業の展開モデル__地域ブランドの構築	
	14	観光事業の展開モデル__地域のインバウンド事業	レポート②の提出
15	学習内容のまとめ		
16	期末テスト		

テキスト・参考文献・資料など	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. テキスト：高橋一夫・柏木千春 編著『1からの観光事業論 第1版』碩学舎、2016年。</li> <li>2. その他、読んでもらいたい資料は適宜授業で紹介します。</li> </ol>
----------------	--

学びの手立て	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 遅刻や無断欠席は成績評価に積極的に反映しますので、ご注意ください。 ※やむを得ず遅刻・欠席の場合、事前・事後にメールで連絡してください ※欠席については、欠席届を提出した場合、その内容に従って認定します。</li> <li>2. テキストを中心として学習し、積極的に講義に参加してください。</li> </ol>
--------	--

評価	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 出席・受講態度50%： *5回以上の遅刻や無断欠席の場合は履修できません。 *授業中またはディスカッションへの積極的な参加には加点があります。</li> <li>2. レポート2回20%(それぞれ10%ずつ)</li> <li>3. 期末テスト30%</li> </ol>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：『消費者行動概論』科目の履修を通じて、観光客行動とを消費者行動との違いを勉強してみることも、いい勉強になると思います。 次のステージ：『観光マーケティング』や『サービス・マーケティング』のような科目を履修すると、さらに観光ビジネスや観光マーケティングの面白さを感じられると思います。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	グローバル・マーケティング演習	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-董 宜嫻	2年	ptt801@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 授業プリントを読んで内容を理解できる。県系企業の海外進出に興味を持ち、各事例の内容を大まかに理解できる。沖縄ブランドのマーケティングを考える。	メッセージ 毎回、写真付きのプリントを配布します。このプリントを通して、沖縄のいいところを再認識できます。
	到達目標 初歩的な国際マーケティングの実際を理解できる。特産品について自分で調べ、レポートを作成できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	クラス予定やレポート・テーマの説明(特産品の国際マーケティング)	課題の報告手法を検討する
	2	講義・討論(沖縄特産品海外市場の分析)(国際観光都市化と沖縄物産革命の課題)	プリント読み&報告の準備
	3	講義・討論(ソフトパワーと沖縄音楽の文化マーケティング戦略)	プリント読み&報告の準備
	4	講義・討論(沖縄総合ウェルネス産業ー健康美容複合産業のケース)	プリント読み&報告の準備
	5	講義・報告(差別化と沖縄自然派コスメのコンセプト)	プリント読み&報告の準備
	6	講義・報告(沖縄ブランドの確立ー黒糖・塩産業のケース)	プリント読み&報告の準備
	7	講義・報告(島おこしと那覇市の文化マーケティング戦略)	プリント読み&報告の準備
	8	講義・報告(沖縄ブランドグローバル化ー泡盛&オリオンビールのケース)	プリント読み&報告の準備
	9	講義・報告(沖縄スタイルのブランド化ーかりゆしウェア産業のケース)	プリント読み&報告の準備
	10	講義・報告(世界へのクリエイション発信と沖縄のフアッション文化戦略)	プリント読み&報告の準備
	11	講義・報告(沖縄伝統文化の復活ー伝統工芸・建築資材業界のケース)	プリント読み&報告の準備
	12	講義・報告(沖縄料理・食材のマーケティング法ー地域ブランドのグローバル化)	プリント読み&報告の準備
	13	講義・報告(差別化と新しい商品の開発ーお菓子産業のケース)	レポートの作成
	14	講義・報告(訪沖外国人観光客の滞在中消費行動の分析)	レポートの作成
15	レポートの最終提出(県産品の国際マーケティング)	レポートの作成	
16	期末テスト		
テキスト・参考文献・資料など 参考文献①宮城弘岩(2010)『沖縄物産の展開』ポードーインク			
学びの手立て ①テキストを指定しないので、必ず授業プリントを持参する。②レポート提出前に、関連する授業プリントを再確認しておくこと。③レポートは個別に行う(グループ報告は行わない)。④『グローバル・マーケティング総論』の受講を前提とせずに補足説明を加える。			
評価 レポート・期末テストと出席状況で総合的に評価する。レポート約50点・期末テストや30点・平常点約20点の割合で評価する。無断欠席が5回以上になると、期末テストの参加を認めない。平常点は出席・授業態度を確認する。特に出席を重視する。			

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目としては、「アジアビジネス事情」「グローバルマーケティング総論」 次のステージ：授業で学んだ実践と知識は現実の世界に応用できる。マーケティング、沖縄の地域産業について、全般に知識を高められる。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	グローバル・マーケティング総論	前期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-董 宜嫻	2年	ptt801@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 入門的なマーケティングのテキストを自分で読んで内容を理解できる。現実の国際的なマーケティング活動に興味を持ち、全体像を一通り理解できる。	メッセージ 教科書と参考文献を併用し、プリントを配布します。外国で実際に行われているマーケティングの手法を写真等を用いて学習します。理論が多い内容です。
	到達目標 入門的なマーケティングの用語を自分で説明できる。	

学びのヒント	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスをよく読むこと
	2	グローバル・マーケティング戦略の枠組み&グローバル経営の考え方	テキスト3章&参②2章
	3	国際市場細分化戦略(進出国&当該国でのターゲット市場の決定)	テキスト6章&参①9章
	4	グローバル・マーケットとSTPの決定(進出国でのポジショニング戦略)	テキスト6章
	5	外部環境分析(富裕層 新興国中間層の市場)	テキスト5章&参考①13章6章
	6	タイプ別のグローバル市場参入戦略&折衷理論	テキスト7章&参考①6章
	7	マーケティング理論の説明(グローバル活動の配置と調整)	テキスト8章&参考①6章
	8	経営理論の説明(グローバル・マーケティングの組織)	テキスト9章&参②4章
学びの実践	9	経営理論の説明(多国籍企業の経営志向&本社-海外子会社関係)	参②2章5章
	10	グローバル・マーケティング戦略1(グローバル企業のナレッジ・マネジメント)	参②7章12章9章
	11	グローバル・マーケティング戦略2(国際製品開発の類型)	参考①8章
	12	グローバル・マーケティング戦略3(消費者のブランド選択&企業のブランド戦略)	
	13	グローバル・マーケティング・プランの設定1(グローバル製品の選定・グローバル価格競争)	テキスト5章&参①3章
	14	グローバル・マーケティング・プランの設定2(国際プロモーション戦略)	参②7章参①11章
	15	ビューティー・ビジネスのグローバル化(資生堂のケース)	参②9章
	16	テスト	
	テキスト・参考文献・資料など テキスト①丸谷雄一郎(2010)『グローバル・マーケティング』創成社。参考文献①諸上茂登(2013)『国際マーケティング講義』同文館。②浅川和宏(2003)『グローバル経営入門』日本経済新聞社		
	学びの手立て ①テキストを購入する必要がない。②自力でテキストを理解するのは難しいので、毎回出席することが肝要である。		
	評価 期末テストと出席・態度で総合的に評価する。期末テスト70点・平常点30点(出席)の割合で評価する。無断欠席が5回以上になると、期末テストの参加を認めない。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目としては、「アジアビジネス事情」、「グローバル・マーケティング演習」がある。次のステージ:授業で学んだ知識は現実のビジネス世界に応用できる。マーケティング、経営学について、全般に知識を高められる。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	グローバル流通論	後期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	髭白 晃宜	3年	t.higeshiro@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>①流通に関する基礎知識を習得し、今日の流通実態を理解する。                  ②小売業の国際展開と日本市場の変容について理解する。                  ③企業の社会的責任について考える機会を持つ。</p>	<p>流通は、生産と消費をつなぐことで商業活動を円滑に行う手助けをするという役割を持っています。流通チャンネルが多様であるがゆえに、私たちは便利で豊かな生活を送ることができます。                  本講義では、主にグローバルな視点から小売流通を眺め、日本市場が世界の流通業者（小売業、卸売業）によってどのような変容を遂げてきたのかについて学びます。</p>
到達目標	<p>①流通に関する基礎的な知識を習得し、今日の流通実態について理解できる。                  ②世界の流通を取り巻く市場環境の変化についての理解を深めると同時に、日本市場の変化について考える。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	グローバル流通とは何か	
	3	日本における流通の変化とグローバル市場の形成	日本流通の変化の要因について
	4	小売業・サービス業のグローバル化	小売業の国際展開について
	5	小売業態の類型	世界における小売業態の類型
	6	巨大小売業の台頭と国際的競争	巨大小売業の事例研究
	7	流通チャンネルにおけるパワー関係の変容	流通における小売業者の台頭
8	中間試験		
9	総合商社	総合商社の特徴について	
10	サプライチェーンマネジメントの進展	SCMの特徴について	
11	日本における小売業の国際化	日本小売企業の国際展開	
12	商品調達行動の国際化	開発輸入の拡大について	
13	外資系小売企業の日本市場への参入	出店行動のグローバル化	
14	グローバル流通と企業の社会的責任	CSRの定義について	
15	これまでのまとめ		
16	期末試験		
実践	テキスト・参考文献・資料など ※以下のテキストを講義の際に必ず持参すること。 使用テキスト： 番場博之編著『基礎から学ぶ流通の理論と政策（新版）』八千代出版，2016年		
	学びの手立て ①テキストは必ず購入して、時間外に予習・復習ができる態勢を整えてください。 ②欠席5回以上で成績評価は「不可」となります。また、30分以上の遅刻は欠席扱いとします。 ③スーパーマーケット、コンビニエンスストアなどをよく観察し、流通チャンネルの重要性を学ぶこと。 ④新聞やニュースに目を通し、外資系大手小売業の動向についてチェックする。		
	評価 ◆中間試験：40点 ◆期末試験：40点 ◆平常点：20点 合計：100点		

学びの継続	次のステージ・関連科目 世界における流通業の役割および日本市場の変容について学び、今後の小売企業のありかたを考える。事前に「日本流通論」を履修していることが望ましい。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経営管理論Ⅰ	前期	水1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	天野 敦央	2年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>年間テーマを「経営計画と経営統制」とする。本科目は、通年科目(全年科目)合計4.00単位に相当する。経営管理は①生産管理、②労務管理、③販売管理、④財務管理、および⑤経営組織の、各部に分ち把握せられる。前期は、このなかでも、①生産管理と②労務管理の部分に、おおくの時間をさいて論じていく。(なお各学期の初回講義(4,9月)には必ず出席し、登録手続を行なってください。)</p> <p>到達目標</p>	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <p>授業の展開計画 なお、本講義においては、ビデオやチャートなどの教材を多用するなどして学生諸君が興味をもって研究にとりくめるような運用をめざしていきたい。</p> <p>講義の展開計画</p> <p>回数 内容</p> <p>1回 講義のすすめ方、評価のしかた</p> <p>2回 経営概念</p> <p>3回 企業概念</p> <p>4回 経営職能</p> <p>5回 テーラー=システム</p> <p>6回 フォード=システム</p> <p>7回 オートメーション</p> <p>8回 「労働科学」</p> <p>9回 人間関係論</p> <p>10回 「行動科学」</p> <p>11回 テーラー式組織</p> <p>12回 伝統的組織論</p> <p>13回 自生組織と成分組織</p> <p>14回 まとめ講義</p> <p>15回 講評</p> <p>16回 (予備日)</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>(テキスト) 未定</p> <p>(参考文献)</p> <p>小松『経営学 第3版』サイエンス社。</p> <p>占部都美『新訂経営管理論』白桃書房。</p> <p>藻利重隆『経営管理総論』千倉書房。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>遅刻・私語は控えてもらいたい。定期試験は今のところ予定していないが、講義中1～3回程度のショートの実施を計画している。実施日時などは開講時に指示するので、準備不足・受験忘れ等なきよう注意されたい。</p>
	<p>評価</p> <p>概ね次の通りとする。</p> <p>平常点(発言・質問・課題・ショートテストの達成度)が 85%，その他が15%。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>経営管理論ⅠⅠ</p>
-------	-----------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経営管理論Ⅱ	後期	水1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	天野 敦央	2年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	年間テーマを「経営計画と経営統制」とする。本科目は、通年科目（全年科目）合計4.00単位に相当する。経営管理は①生産管理、②労務管理、③販売管理、④財務管理、および⑤経営組織の、各部に分かち把握せられる。前期は、このなかでも、①生産管理と②労務管理の部分に、おおくの時間をさいて論じていく。（なお各学期の初回講義(4,9月)には必ず出席し、登録手続を行なってください）	
到達目標		

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>なお、本講義においては、ビデオやチャートなどの教材を多用するなどして、学生諸君が興味をもって研究にとりくめるような運用をめざしていきたい。</p> <p>講義の展開計画</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>16</td><td>経営戦略概論</td></tr> <tr><td>17</td><td>戦略的組織</td></tr> <tr><td>18</td><td>企業成長</td></tr> <tr><td>19</td><td>生存領域の規定（1）</td></tr> <tr><td>20</td><td>生存領域の規定（2）</td></tr> <tr><td>21</td><td>生存領域の規定（3）</td></tr> <tr><td>22</td><td>資源展開の戦略（1）</td></tr> <tr><td>23</td><td>資源展開の戦略（2）</td></tr> <tr><td>24</td><td>競争の戦略（1）</td></tr> <tr><td>25</td><td>競争の戦略（2）</td></tr> <tr><td>26</td><td>競争の戦略（3）</td></tr> <tr><td>27</td><td>組織間関係の戦略（1）</td></tr> <tr><td>28</td><td>組織間関係の戦略（2）</td></tr> <tr><td>29</td><td>教材学習（1）</td></tr> <tr><td>30</td><td>教材学習（2）・ショートテスト</td></tr> <tr><td>31</td><td>[予備日]</td></tr> </tbody> </table>	回数	内容	16	経営戦略概論	17	戦略的組織	18	企業成長	19	生存領域の規定（1）	20	生存領域の規定（2）	21	生存領域の規定（3）	22	資源展開の戦略（1）	23	資源展開の戦略（2）	24	競争の戦略（1）	25	競争の戦略（2）	26	競争の戦略（3）	27	組織間関係の戦略（1）	28	組織間関係の戦略（2）	29	教材学習（1）	30	教材学習（2）・ショートテスト	31	[予備日]
	回数	内容																																	
	16	経営戦略概論																																	
	17	戦略的組織																																	
18	企業成長																																		
19	生存領域の規定（1）																																		
20	生存領域の規定（2）																																		
21	生存領域の規定（3）																																		
22	資源展開の戦略（1）																																		
23	資源展開の戦略（2）																																		
24	競争の戦略（1）																																		
25	競争の戦略（2）																																		
26	競争の戦略（3）																																		
27	組織間関係の戦略（1）																																		
28	組織間関係の戦略（2）																																		
29	教材学習（1）																																		
30	教材学習（2）・ショートテスト																																		
31	[予備日]																																		
<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>(テキスト) 未定 (参考文献) 小松『経営学 第3版』サイエンス社。 占部都美『新訂経営管理論』白桃書房。 藻利重隆『経営管理総論』千倉書房。</p>																																			
<p>学びの手立て</p> <p>遅刻・私語は控えてもらいたい。定期試験は今のところ予定していないが、講義中1～3回程度のショートテストの実施を計画している。実施日時などは開講時に指示するので、準備不足・受験忘れ等なきよう注意されたい。</p>																																			
<p>評価</p> <p>概ね次の通りとする。 平常点(発言・質問・課題・ショートテストの達成度)が 85%。その他が15%。</p>																																			

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経営学総論 I	前期	月 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	天野 敦央	1年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>経営学に関する基礎的な知識を学ぶ。前期は経営システムの実態分析を行う。特に企業文化や経営概念などの観点から、企業者活動について述べる。後期は経営の成立条件について、先行研究やケーススタディから理解していく。</p> <p>なお本講義は抽選科目である。各学期の初回講義(4,9月)では面談のうえ、受講許可者(抽選結果)を発表するので必ず出席されたい。</p>	
到達目標		

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <p>(講義の展開計画)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1回</td><td>オリエンテーション (本講義の概要・授業の進め方・成績評価・その他)</td></tr> <tr><td>2回</td><td>経営人事システムの特質</td></tr> <tr><td>3回</td><td>経営の編成原理 (1)</td></tr> <tr><td>4回</td><td>経営の編成原理 (2)</td></tr> <tr><td>5回</td><td>集団意識と行動特性 (1)</td></tr> <tr><td>6回</td><td>集団意識と行動特性 (2)</td></tr> <tr><td>7回</td><td>経営と経営理念 (1)</td></tr> <tr><td>8回</td><td>経営と経営理念 (2)</td></tr> <tr><td>9回</td><td>経営におけるコミュニケーション (1)</td></tr> <tr><td>10回</td><td>組織におけるコミュニケーション (2)</td></tr> <tr><td>11回</td><td>日本的経営の普遍性と特殊性 (1)</td></tr> <tr><td>12回</td><td>日本的経営の普遍性と特殊性 (2)</td></tr> <tr><td>13回</td><td>経営学の諸問題 (1)</td></tr> <tr><td>14回</td><td>経営学の諸問題 (2)</td></tr> <tr><td>15回</td><td>まとめ・その他</td></tr> </tbody> </table>	回数	内容	1回	オリエンテーション (本講義の概要・授業の進め方・成績評価・その他)	2回	経営人事システムの特質	3回	経営の編成原理 (1)	4回	経営の編成原理 (2)	5回	集団意識と行動特性 (1)	6回	集団意識と行動特性 (2)	7回	経営と経営理念 (1)	8回	経営と経営理念 (2)	9回	経営におけるコミュニケーション (1)	10回	組織におけるコミュニケーション (2)	11回	日本的経営の普遍性と特殊性 (1)	12回	日本的経営の普遍性と特殊性 (2)	13回	経営学の諸問題 (1)	14回	経営学の諸問題 (2)	15回	まとめ・その他
	回数	内容																															
	1回	オリエンテーション (本講義の概要・授業の進め方・成績評価・その他)																															
	2回	経営人事システムの特質																															
3回	経営の編成原理 (1)																																
4回	経営の編成原理 (2)																																
5回	集団意識と行動特性 (1)																																
6回	集団意識と行動特性 (2)																																
7回	経営と経営理念 (1)																																
8回	経営と経営理念 (2)																																
9回	経営におけるコミュニケーション (1)																																
10回	組織におけるコミュニケーション (2)																																
11回	日本的経営の普遍性と特殊性 (1)																																
12回	日本的経営の普遍性と特殊性 (2)																																
13回	経営学の諸問題 (1)																																
14回	経営学の諸問題 (2)																																
15回	まとめ・その他																																
<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>(テキスト)</p> <p>佐久間信夫『経営学概論』創成社。</p> <p>(重要参考文献)</p> <p>佐久本朝一『能力主義管理の国際比較』東京図書出版会。</p> <p>上間隆則『経営学要論』中央経済社。</p>																																	
<p>学びの手立て</p>																																	
<p>評価</p> <p>定期試験は今のところ予定していないが、講義中1～3回程度のショートの実施を計画している。実施日時などは開講時に指示するので、準備不足・受験忘れ等なきよう注意されたい。評価は概ね次の通りとする。</p> <p>平常点(発言・質問・課題・ショートテストの達成度)が 85%、その他が15%。</p>																																	

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>1年次 → 経営学総論 I I</p> <p>2年次 → 基礎演習 (経営)</p> <p>3年次 → 経営管理論 I・国際経営論 I</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経営学総論 I	前期	月 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	佐久本 朝一	1年		

学びの準備	ねらい 経営学に関する基礎的な知識を学ぶ	メッセージ
	到達目標	

学びの準備	到達目標
-------	------

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む) 日本人の集団意識と行動特性 2 日本的経営と経営理念 1 日本的経営と経営理念 2 日本型組織におけるコミュニケーション 1 日本型組織におけるコミュニケーション 2 日本的経営の普遍性と特殊性 1 日本的経営の普遍性と特殊性 2 日本的経営の問題点 1 日本的経営の問題点 2
	テキスト・参考文献・資料など 佐久本朝一著『技術革新下の日本型企业社会』ユージン伝, 1997年.

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 佐久本朝一著『技術革新下の日本型企业社会』ユージン伝, 1997年.
-------	--

学びの実践	学びの手立て
-------	--------

学びの実践	評価
-------	----

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経営学総論Ⅱ	後期	月1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	天野 敦央	1年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>日本の経営がどのようなものであるかを理解するために、前期は経営システムの実態分析を行う。特に企業文化や経営概念などの観点から、企業者活動について述べる。後期は経営の成立条件について、先行研究やケーススタディから理解していく。</p> <p>なお本講義は抽選科目である。各学期の初回講義(4,9月)では面談のうえ、受講許可者(抽選結果)を発表するので必ず出席されたい。</p>	
到達目標		

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <p>講義の展開は、つぎのとおり予定している。</p> <p>回数 内容</p> <p>16 環境の変化と経営戦略</p> <p>17 多角化戦略</p> <p>18 競争戦略</p> <p>19 グローバル戦略</p> <p>20 アメリカにおける経営者の形成</p> <p>21 日本における経営者の形成</p> <p>22 所有と経営の分離</p> <p>23 経営者の職能</p> <p>24 コーポレート・ガバナンス理論</p> <p>25 アメリカのコーポレート・ガバナンス</p> <p>26 日本のコーポレート・ガバナンス</p> <p>27 アメリカの経営理念</p> <p>28 日本の経営理念</p> <p>29 日本の経営課題</p> <p>30 日本の経営課題(2)・ショートテスト</p> <p>31 [ 予備日 ]</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>(テキスト)</p> <p>佐久間信夫『経営学概論』創成社。</p> <p>(重要参考文献)</p> <p>佐久本朝一『技術革新下の日本型企业社会』ユージン。</p> <p>上間隆則『経営学要論』中央経済社。</p>
	<p>学びの手立て</p>
	<p>評価</p> <p>定期試験は今のところ予定していないが、講義中1～3回程度のショートの実施を計画している。実施日時などは開講時に指示するので、準備不足・受験忘れ等なきよう注意されたい。評価は概ね次の通りとする。</p> <p>平常点(発言・質問・課題・ショートテストの達成度)が85%、その他が15%。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>2年次 → 基礎演習(経営)</p> <p>3年次 → 経営管理論Ⅰ・国際経営論Ⅰ</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経営学総論Ⅱ	後期	月1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	佐久本 朝一	1年		

学びの準備	ねらい 日本の経営(日本的経営)がどのようなものであるのかを理解するために、前期は日本の経営システムの実態析を行う。特に日本企業の文化や経営理念などの観点から、日本の企業者活動について述べ、日本的経営が成立する条件とは何であるのかについて、先行研究やケーススタディから理解していく。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画(テーマ・時間外学習の内容含む) オリエンテーション(本講義の概要・授業の進め方・成績評価・その他) 日本型雇用システムの特質 日本的経営の編成原理1 日本的経営の編成原理2 日本人の集団意識と行動特性1 日本人の集団意識と行動特性2 日本的経営と経営理念1 日本的経営と経営理念2 日本型組織におけるコミュニケーション1 日本型組織におけるコミュニケーション2 日本的経営の普遍性と特殊性1 日本的経営の普遍性と特殊性2 日本的経営の問題点1 日本的経営の問題点2 まとめ・その他
	テキスト・参考文献・資料など 佐久本 朝一『技術革新下の日本型企業社会』ユージン伝、1997年。
	学びの手立て
	評価 2回のテストと出席状況により評価する。

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経営情報処理 I	前期	木 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-及川 卓郎	2年	Email:tkroikawa@gmail.com	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	この授業では皆さんが、卒業し企業に勤めた場合に必要になってくる品質管理(QC)の基礎的手法について身につけることおよびこの品質管理手法を発展させた統計的品質管理手法(TQC)について理解することを目的に講義と演習で進めていきます。なお、統計的品質管理は、統計的な分析により作業工程や生産システムの見直しを通して、品質の向上を図る手法のことであります。	多くの人に調査や分析の結果を納得してもらうためには、結果を客観的に説明する必要があります。この客観的分析に威力を発揮するのが、数理的な処理であり、グラフ表現を使った結果の視覚化です。これにより、だれでも同じ判断ができることとなります。この授業で経営分析の基礎的手法を身につけましょう。
到達目標	エクセルを使った分析を通じて、エクセルによる数値処理、データ変換、並べ替え、項目抽出、グラフ化、ピボットテーブル、関数計算、分析ツールを使えるようになる。QCに関する基本的手法、7つの手法について分析、作成をできるようにする。統計的な指標を読み取ることができるようになる。TQCの基礎となる統計手法について分析できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	エクセルの基礎	配布資料に基づく復習と予習
	3	エクセルによる文字列処理	配布資料に基づく復習と予習
	4	エクセルによる数値処理	配布資料に基づく復習と予習
	5	度数分布表の作成	演習問題の実施
	6	ヒストグラムの作成	演習問題の実施
	7	QC 7つ道具による分析	これまでの学習内容の復習
8	中間テスト		
9	中心極限定理と正規分布	資料にもとづく演習の実施	
10	正規分布の利用	学習内容の復習	
11	記述統計	自分のパソコンを使った復習	
12	回帰分析と相関分析	自分のパソコンを使った復習	
13	エクセルによる有意差検定	自分のパソコンを使った復習	
14	初歩的な分散分析の利用	これまでの学習内容の復習	
15	テスト		
16			
実践	テキスト・参考文献・資料など 配布資料で学習します。適宜、授業中に参考文献は紹介します。		
	学びの手立て これまでの担当経験から、教室の前の席に座る人と後ろの席に座る人では学習成果に違いがありますことがわかります。ひとり残らず前の席から座るようにしましょう。		
	評価 中間試験40%、期末試験40%、平常点20%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 調査研究授業や卒業論文を通じて、学習内容を自分で利用することにより、身に付けることを望みます。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経営情報処理Ⅱ	後期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-及川 卓郎	2年	Email:tkroikawa@gmail.com	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	この授業では皆さんが、卒業し企業に勤めた場合に必要になってくる品質管理(QC)の基礎的手法について身につけることおよびこの品質管理手法を発展させた統計的品質管理手法(TQC)について理解することを目的に講義と演習で進めていきます。なお、統計的品質管理は、統計的な分析により作業工程や生産システムの見直しを通して、品質の向上を図る手法のことであります。	多くの人に調査や分析の結果を納得してもらうためには、結果を客観的に説明する必要があります。この客観的分析に威力を発揮するのが、数理的な処理であり、グラフ表現を使った結果の視覚化です。これにより、だれでも同じ判断ができることとなります。この授業で経営分析の基礎的手法を身につけましょう。
到達目標	エクセルを使った分析を通じて、エクセルによる数値処理、データ変換、並べ替え、項目抽出、グラフ化、ピボットテーブル、関数計算、分析ツールを使えるようになる。QCに関する基本的手法、7つの手法について分析、作成をできるようにする。統計的な指標を読み取ることができるようになる。TQCの基礎となる統計手法について分析できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント	授業計画	
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	エクセルの基礎	配布資料に基づく復習と予習
	3	エクセルによる文字列処理	配布資料に基づく復習と予習
	4	エクセルによる数値処理	配布資料に基づく復習と予習
	5	度数分布表の作成	演習問題の実施
	6	ヒストグラムの作成	演習問題の実施
	7	QC7つ道具による分析	これまでの学習内容の復習
	8	中間テスト	
9	中心極限定理と正規分布	資料にもとづく演習の実施	
10	正規分布の利用	学習内容の復習	
11	記述統計	自分のパソコンを使った復習	
12	回帰分析と相関分析	自分のパソコンを使った復習	
13	エクセルによる有意差検定	自分のパソコンを使った復習	
14	初歩的な分散分析の利用	これまでの学習内容の復習	
15	テスト		
16			
学びの実践	テキスト・参考文献・資料など	配布資料で学習します。適宜、授業中に参考文献は紹介します。	
学びの手立て	これまでの担当経験から、教室の前の席に座る人と後ろの席に座る人では学習成果に違いがありますことがわかります。ひとり残らず前の席から座るようにしましょう。		
評価	中間試験40%、期末試験40%、平常点20%		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	調査研究授業や卒業論文を通じて、学習内容を自分で利用することにより、身に付けることを望みます。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経営数学	後期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	仲地 健	2年		

学びの準備	ねらい Excelを用いて、線形計画法、日程計画、在庫管理および待ち行列について学ぶ。	メッセージ 現代の企業経営においては、経営上の意思決定を下すために、大量な情報の処理が必要とされている。このような情報の処理をおこなうには、統計的および数学的な分析の考え方と方法を学ばなければならない。そのためのひとつの手法が経営数学である。
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	イントロダクション
	2	線形計画法 ①
	3	線形計画法 ②
	4	線形計画法 ③
	5	線形計画法 ④
	6	日程計画 ①
	7	日程計画 ②
	8	日程計画 ③
	9	日程計画 ④
	10	在庫管理 ①
	11	在庫管理 ②
	12	在庫管理 ③
	13	待ち行列 ①
	14	待ち行列 ②
	15	待ち行列 ③
	16	期末試験
	テキスト・参考文献・資料など 藤田勝康『ExcelによるOR演習』日科技連	
	学びの手立て	
	評価 試験結果で判断する。	

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経営戦略論 I	前期	木4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-與那原 建	3年	yonahara@tm.u-ryukyu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 持続的競争優位につながる経営戦略の内容を明らかにする	メッセージ 経営戦略というテーマに関心を持ち、真摯な姿勢で講義に取り組める学生を歓迎します
	到達目標 ①経営戦略にかかわる諸問題について、自分自身の意見や考えを論ずることができる ②経営戦略の解明に必要な情報を収集・整理・活用することができる ③経営戦略の思考方法を通じて経営現象をとらえることができる	

学びの準備	到達目標 ①経営戦略にかかわる諸問題について、自分自身の意見や考えを論ずることができる ②経営戦略の解明に必要な情報を収集・整理・活用することができる ③経営戦略の思考方法を通じて経営現象をとらえることができる
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション：本講義の概要説明	
	2	経営戦略とは何か	事後学習と疑問等の確認
	3	経営戦略のキーワード：競争優位と事業の定義	事後学習と疑問等の確認
	4	経営戦略のキーワード：環境適応と一連の基本的意思決定	事後学習と疑問等の確認
	5	経営戦略のレベル-全社レベルの戦略（企業戦略）	事後学習と疑問等の確認
	6	経営戦略のレベル-事業レベルの戦略（競争戦略）	事後学習と疑問等の確認
	7	まとめ①	
	8	ドメインの定義	事後学習と疑問等の確認
	9	経営資源の獲得：オーバーエクステンション	事後学習と疑問等の確認
	10	経営資源の配分：P P M	事後学習と疑問等の確認
	11	業界構造分析：ファイブフォース・モデル	事後学習と疑問等の確認
	12	業界構造の事例分析	事後学習と疑問等の確認
	13	競争戦略の基本型とトレードオフ：戦略グループと移動障壁	事後学習と疑問等の確認
	14	ビジネスシステムの構築と持続的競争優位	事後学習と疑問等の確認
	15	ビジネスシステムの事例分析	事後学習と疑問等の確認
16	まとめ②		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは使用せず、適宜資料を配付する。参考文献については、講義の中で紹介していく。
-------	--

学びの実践	学びの手立て 事後学習（復習）をしっかりと行い、学んだ内容を整理するとともに、疑問等があれば積極的に質問すること。メールでの質問も対応可。
-------	--

学びの実践	評価 クラスへの貢献度（到達目標①）、小レポート（到達目標②、③）、学期末試験（到達目標①、②、③）を総合して評価する。
-------	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 経営戦略論 II
-------	-------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経営戦略論Ⅱ	後期	木4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	天野 敦央	3年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント
	授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経営分析	前期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-高嶺 直	3年	ptt109@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 経営目標の達成を図るためには、財務状況を的確に把握し、経営分析によって抽出された経営課題を解決していく必要があります。本講義では、経営分析に必要な資料となる財務諸表について振り返ったうえで、経営分析の概要について学んでいきます。	メッセージ イメージだけで会社を判断すると、「就職先、失敗だった」「取引先に裏切られた」「株式投資で大損した」など、痛い目に遭うことが多々あります。そうならないためには、会社の本当の姿を知らなければなりません。そのために必要なツールが経営分析です。
	到達目標 ・経営分析に用いられる財務諸表について説明ができる。 ・経営分析を体系的に理解し説明できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	ガイダンス
	2	経営分析の意義
	3	企業会計の体系①
	4	企業会計の体系②
	5	会計諸制度と財務諸表
	6	財務諸表の見方①（損益計算書の仕組み）
	7	財務諸表の見方②（損益計算書の仕組み）
	8	財務諸表の見方③（損益計算書の仕組み）
	9	財務諸表の見方④（損益計算書の仕組み）
	10	経営分析の体系と手法
	11	実数分析の手法①
	12	実数分析の手法②
	13	比率分析の手法①
	14	比率分析の手法②
	15	損益分岐点分析
	16	期末試験
	テキスト・参考文献・資料など テキストは指定しない。ワークシート（講義ノート）を用いて講義を進める。	
	学びの手立て 「商業簿記Ⅰ」（4単位分）を履修済みの学生（またはそれと同等の能力を持つ学生）しか登録できません。毎回出席をとる。その時点で教室にいない場合は欠席となる。やむを得ず欠席する場合は、必ず欠席届を提出すること。講義はワークシート（講義ノート）を毎回使用するので、忘れずに必ず持参すること。	
	評価 期末試験50%、レポート提出30%、授業態度20% 出席状況については、無断欠席が5回以上になると「不可」となる。	

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経営分析演習	後期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-高嶺 直	3年	ptt109@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 経営目標の達成を図るためには、財務状況を的確に把握し、経営分析によって抽出された経営課題を解決していく必要があります。本講義では、経営分析の手法とその進め方について学んでいきます。	メッセージ 受講生各自が、それぞれ興味をもった企業の会社情報（会計データ）を入手し、それを分析していきます。分析結果を就活に活用するのによいかも知れません。
	到達目標 ・経営分析手法について説明ができる。 ・上記手法を活用した分析ができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	会社の成長性を見る①	
	3	会社の成長性を見る②	
	4	会社の収益力を見る①	
	5	会社の収益力を見る②	
	6	会社の収益力を見る③	
	7	会社の安全性を見る①	
	8	会社の安全性を見る②	
	9	会社の安全性を見る③	
	10	会社の生産性を見る①	
	11	会社の生産性を見る②	
	12	分析報告書の作成①	
	13	分析報告書の作成②	
	14	発表	
	15	発表	
	16		
	テキスト・参考文献・資料など テキストは指定しない。ワークシート（講義ノート）を用いて講義を進める。		
	学びの手立て 「経営分析」を履修済みの学生しか登録できません。 毎回出席をとる。その時点で教室にいない場合は欠席となる。やむを得ず欠席する場合は、必ず欠席届を提出すること。 講義はワークシート（講義ノート）を毎回使用するので、忘れずに必ず持参すること。		
	評価 発表80%、授業態度20% 出席状況については、無断欠席が5回以上になると「不可」となる。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経済原論Ⅰ	前期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	仲地 健	1年		

学びの準備	ねらい 経済学はミクロ経済学とマクロ経済学の二つに大きく分けられるが、「経済原論Ⅰ」ではミクロ経済学を学ぶ。 具体的には、経済を構成する個々の消費者や企業はどのような行動をとるのか、市場において財・サービスの価格や数量はどのように決定されるのかを学ぶ。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義内容と講義の進め方、成績評価方法などを説明する	
	2	需要曲線と供給曲線	
	3	市場均衡と均衡の安定性	
	4	需要曲線・供給曲線のシフト	
	5	価格弾力性	
	6	余剰分析①	
	7	余剰分析②	
8	消費者行動の理論①		
9	消費者行動の理論②		
10	消費者行動の理論③		
11	生産者行動の理論①		
12	生産者行動の理論②		
13	生産者行動の理論③		
14	パレート最適		
15	市場の失敗と独占		
16	期末試験		
	テキスト・参考文献・資料など 特に指定しない。		
	学びの手立て		
	評価 試験結果で評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 経済原論Ⅱ
-------	----------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	経済原論Ⅱ	後期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	仲地 健	1年		

学びの準備	ねらい マクロ経済学とは、一国の経済を個人の総体である家計部門、企業の総体である企業部門および政府部門の3つの主体による活動と捉え、社会全体を包括的に分析する学問である。マクロ経済学を学ぶ目的は、国民所得はどのように決定されるのか、デフレや失業といった経済現象がなぜ生じるのか、といったことを理解することにある。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	講義内容と講義の進め方、成績評価方法などを説明する	
	2	国民所得の諸概念	
	3	均衡所得の決定① 有効需要の原理、消費関数、投資関数	
	4	均衡所得の決定② 消費・投資需要と均衡国民所得	
	5	均衡所得の決定③ 需要の変化と乗数効果	
	6	均衡所得の決定④ 需要の変化と乗数効果	
	7	IS-LM分析① IS曲線①	
	8	IS-LM分析② LM曲線②	
	9	IS-LM分析② LM曲線①	
	10	IS-LM分析② LM曲線②	
	11	財政政策①	
	12	財政政策②	
	13	金融政策①	
	14	金融政策②	
15	講義の総括		
16	期末試験		
	テキスト・参考文献・資料など 特に指定しない。		
	学びの手立て		
	評価 試験の結果で評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	原価計算 I	前期	水 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	菅森 聡	3年		

学びの準備	ねらい 利益は売上から原価を引くことで導出される。そのため、原価計算は企業経営の基本である。本講義では、原価計算の基礎的な知識を理解し、練習問題を解くことで、各種の原価計算の習得を目的とします。	メッセージ 企業会計の中の原価計算に焦点を当てる講義です。企業の経営を想像しながら受講するとよいでしょう。
	到達目標 ・企業会計の基礎となる原価に関する知識の習得する。 ・原価計算技法を習得し、実際に計算をできるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	該当する章の予習と復習
	2	原価および原価計算の基礎知識	
	3	原価の費目別計算 I	
	4	原価の費目別計算 II	
	5	原価の費目別計算 III	
	6	製造間接費の計算 I	
	7	製造間接費の計算 II	
	8	単純個別原価計算 I	
	9	単純個別原価計算 II	
	10	単純個別原価計算 III	
	11	原価の部門別計算と部門別個別原価計算 I	
	12	原価の部門別計算と部門別個別原価計算 II	
	13	単純総合原価計算 I	
	14	単純総合原価計算 II	
15	単純総合原価計算 III		
16	テスト		
テキスト・参考文献・資料など 『テキスト原価計算（第二版）』高橋賢、中央経済社			
学びの手立て ・毎回、練習問題を解いてもらいますので計算機を持ってくるようにしてください。 ・小テストを2回行う予定ですのでしっかり復習するようにしてください。			
評価 小テスト30%とテスト70%で評価します。			

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目 工業簿記、業績管理会計、戦略管理会計
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	原価計算Ⅱ	後期	水1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	菅森 聡	3年		

学びの準備	ねらい 利益は売上から原価を引くことで導出される。そのため、原価計算は企業経営の基本である。本講義では、原価計算の基礎的な知識を理解し、練習問題を解くことで、各種の原価計算の習得を目的とします。	メッセージ 企業会計の中の原価計算に焦点を当てる講義です。企業の経営を想像しながら受講するとよいでしょう。
	到達目標 ・企業会計の基礎となる原価に関する知識の習得する。 ・原価計算技法を習得し、実際に計算をできるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	
	1	ガイダンス	
	2	単純総合原価計算Ⅰ	
		時間外学習の内容	
	3	単純総合原価計算Ⅱ	該当する章を読んでくること
	4	単純総合原価計算Ⅲ	
	5	工程別総合原価計算と組別総合原価計算Ⅰ	
	6	工程別総合原価計算と組別総合原価計算Ⅱ	
	7	等級別総合原価計算と連産品の原価計算Ⅰ	
	8	等級別総合原価計算と連産品の原価計算Ⅱ	
	9	標準原価計算Ⅰ	
	10	標準原価計算Ⅱ	
	11	標準原価計算Ⅲ	
	12	直接原価計算Ⅰ	
	13	直接原価計算Ⅱ	
	14	直接原価計算Ⅲ	
	15	直接原価計算Ⅳ	
	16	テスト	
	テキスト・参考文献・資料など 『テキスト原価計算（第二版）』高橋賢、中央経済社		
	学びの手立て ・毎回、練習問題を解いてもらいますので計算機を持ってくるようにしてください。 ・小テストを2回行う予定ですのでしっかり復習するようにしてください。		
	評価 小テスト30%とテスト70%で評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目 工業簿記、業績管理会計、戦略管理会計
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	工業簿記 I	前期	水 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	菅森 聡	2年		

学びの準備	ねらい 工業簿記は製造業における帳簿の記入の方法であり、商業簿記と同様に企業会計の基礎です。本講義では日商簿記2級程度の工業簿記の習得を目的とします。	メッセージ 工業簿記はシステムを理解したうえで、具体的な問題を繰り返し解く作業をすることで習得できるものです。工業簿記を習得するには復習をしっかりと行うことが近道となります。
	到達目標 ・工業簿記の基本的な知識と技法を習得する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	該当する章の予習と復習
	2	工業簿記とは何か	
	3	工業簿記のしくみ	
	4	材料費計算 I	
	5	材料費計算 II	
	6	労務費計算	
	7	経費計算	
	8	財務諸表 I	
	9	財務諸表 II	
	10	製造間接費計算 I	
	11	製造間接費計算 II	
	12	部門費計算 I	
	13	部門別計算 II	
	14	個別原価計算 I	
	15	個別原価計算 II	
	16	テスト	
	テキスト・参考文献・資料など ・『検定簿記講義/2級工業簿記』中央経済社		
	学びの手立て ・毎回、練習問題を解いてもらいますので計算機を持ってくるようにしてください。 ・工業簿記はシステムを理解するだけでなく、具体的な問題を繰り返し解くことで習得するものです。授業でやった内容をしっかりと復習するようにしてください。”		
	評価 小テスト30%とテスト70%で評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目 原価計算、業績管理会計、戦略管理会計
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	工業簿記 I	前期	水 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	菅森 聡	2年		

学びの準備	ねらい 工業簿記は製造業における帳簿の記入の方法であり、商業簿記と同様に企業会計の基礎です。本講義では日商簿記2級程度の工業簿記の習得を目的とします。	メッセージ 工業簿記はシステムを理解したうえで、具体的な問題を繰り返し解く作業をすることで習得できるものです。工業簿記を習得するには復習をしっかりと行うことが近道となります。
	到達目標 ・工業簿記の基本的な知識と技法を習得する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	該当する章の予習と復習
	2	工業簿記とは何か	
	3	工業簿記のしくみ	
	4	材料費計算 I	
	5	材料費計算 II	
	6	労務費計算 I	
	7	経費計算 I	
	8	経費計算 II	
	9	財務諸表 I	
	10	財務諸表 II	
	11	製造間接費計算 I	
	12	製造間接費計算 II	
	13	部門費計算 I	
	14	部門費計算 II	
15	個別原価計算 I		
16	個別原価計算 II		
テキスト・参考文献・資料など ・『検定簿記講義2級工業簿記』中央経済社			
学びの手立て ・この講義（水曜日3校時）は前期にⅠ・Ⅱを同時に開講する形態です。受講する学生は金曜日の2校時の工業簿記Ⅱも必ず同時に履修してください。 ・毎回、練習問題を解いてもらいますので計算機を持ってくるようにしてください。 ・工業簿記はシステムを理解するだけでなく、具体的な問題を繰り返し解くことで習得するものです。授業でやった内容をしっかりと復習するようにしてください。			
評価 小テスト30%とテスト70%で評価します。			

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目 原価計算、業績管理会計、戦略管理会計
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	工業簿記Ⅱ	後期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	菅森 聡	2年		

学びの準備	ねらい 工業簿記は製造業における帳簿の記入の方法であり、商業簿記と同様に企業会計の基礎です。本講義では日商簿記2級程度の工業簿記の習得を目的とします。	メッセージ 工業簿記はシステムを理解したうえで、具体的な問題を繰り返し解く作業をすることで習得できるものです。工業簿記を習得するには復習をしっかりと行うことが近道となります。
	到達目標 ・工業簿記の基本的な知識と技法を習得する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	該当する章の予習と復習
	2	総合原価計算Ⅰ	
	3	総合原価計算Ⅱ	
	4	総合原価計算Ⅲ	
	5	総合原価計算Ⅳ	
	6	標準原価計算Ⅰ	
	7	標準原価計算Ⅱ	
	8	標準原価計算Ⅲ	
9	原価・営業量・利益関係の分析Ⅰ		
10	原価・営業量・利益関係の分析Ⅱ		
11	直接原価計算Ⅰ		
12	直接原価計算Ⅱ		
13	直接原価計算Ⅲ		
14	本社・工場会計Ⅰ		
15	本社・工場会計Ⅱ		
16	テスト		
	テキスト・参考文献・資料など ・『検定簿記講義/2級工業簿記』中央経済社		
	学びの手立て ・毎回、練習問題を解いてもらいますので計算機を持ってくるようにしてください。 ・工業簿記はシステムを理解するだけでなく、具体的な問題を繰り返し解くことで習得するものです。授業でやった内容をしっかりと復習するようにしてください。		
	評価 小テスト30%とテスト70%で評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目 原価計算、業績管理会計、戦略管理会計
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	工業簿記Ⅱ	前期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	菅森 聡	2年		

学びの準備	ねらい 工業簿記は製造業における帳簿記入の方法であり、商業簿記と同様に企業会計の基礎です。本講義では日商簿記2級程度の工業簿記の習得を目的とします。	メッセージ 工業簿記はシステムを理解したうえで、具体的な問題を繰り返し解く作業をすることで習得できるものです。工業簿記を習得するには復習をしっかりと行うことが近道となります。
	到達目標 ・工業簿記の基本的な知識と技法を習得する。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	総合原価計算Ⅰ	該当する章の予習と復習
	2	総合原価計算Ⅱ	
	3	総合原価計算Ⅲ	
	4	総合原価計算Ⅳ	
	5	標準原価計算Ⅰ	
	6	標準原価計算Ⅱ	
	7	標準原価計算Ⅲ	
	8	原価・営業量・利益関係の分析Ⅰ	
9	原価・営業量・利益関係の分析Ⅱ		
10	原価・営業量・利益関係の分析Ⅲ		
11	直接原価計算Ⅰ		
12	直接原価計算Ⅱ		
13	直接原価計算Ⅲ		
14	本社・工場会計Ⅰ		
15	本社・工場会計Ⅱ		
16	テスト		
実践	テキスト・参考文献・資料など ・『検定簿記講義/2級工業簿記』中央経済社		
	学びの手立て ・この講義(金曜2校時)は前期にⅠ・Ⅱを同時に開講する形態です。受講する学生は水曜日3校時の工業簿記Ⅰも必ず同時に履修してください。 ・毎回、練習問題を解いてもらいますので計算機を持ってくるようにしてください。 ・工業簿記はシステムを理解するだけでなく、具体的な問題を繰り返し解くことで習得するものです。授業でやった内容をしっかりと復習するようにしてください。		
	評価 小テスト30%とテスト70%で評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目 原価計算、業績管理会計、戦略管理会計
-------	---

※ポリシーとの関連性 学ぶ姿勢と学ぶ力を付ける。自分で考えて、自ら動いていく力を付ける。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	広告論	後期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮森 正樹	3年	miyamori@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この授業を通して、広告の成り立ちとその活用方法学び、いかにして企業が自社の商品・サービスの情報を必要とされている消費者の元に届けるかを知る。	メッセージ 専門科目を単なる単位・学ぶべきものとするのではなく、授業を通してその科目の楽しさ、面白さ、社会への影響に気づくことが大切です。
	到達目標 1. 広告の概要を知る。 2. マーケティング・コミュニケーションの基本理論を学ぶ。 3. 広告とマーケティングの関係性を知る。 4. 基本的な広告の企画が作成できるようになる。	

学びの準備	到達目標 1. 広告の概要を知る。 2. マーケティング・コミュニケーションの基本理論を学ぶ。 3. 広告とマーケティングの関係性を知る。 4. 基本的な広告の企画が作成できるようになる。
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	広告とは	テキストを読む
	3	マーケティングミックス	テキストを読む
	4	マーケティング・コミュニケーション	テキストを読む
	5	広告のコミュニケーション的役割	テキストを読む
	6	マスコミュニケーション4媒体	テキストを読む
	7	テレビCM	テキストを読む
	8	ラジオ広告	テキストを読む
	9	新聞広告	テキストを読む
	10	雑誌広告	テキストを読む
	11	ウェブ広告	テキストを読む
	12	レスポンス広告	テキストを読む
	13	広告企画と戦略	テキストを読む
	14	広告会社と関連組織	テキストを読む
	15	まとめ	
16	期末試験		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：授業にて指定する。また、必要に応じて授業の中でプリントを配布する。参考文献も必要な時に発表する。
-------	---

学びの実践	学びの手立て 履修の心構え： ①出席・授業への積極的参加を強く求める、②自分から動く、③課題提出は期日を守る、④他の学生に迷惑を掛けない。 学びを深めるために： ①マーケティングと広告の関係を知る、②議論に積極的に参加する、③日経MJを読む。
-------	---

学びの実践	評価 評価は次の項目の総合的な観点から行われる。 ①出席、②期末試験、③レポート、④授業での態度、⑤課題提出物。
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 ビジネス関連科目を多く受講すること。マーケティングに関連した書籍を読むこと。一般教養科目をしっかりと学ぶこと。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	小売流通論 I	前期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	髭白 晃宜	3年	t.higeshiro@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>①小売流通に関する知識を得て、今日の流通実態を理解する。                  ②生活との関わりから、流通業の役割をより深く理解する。                  ③小売業態の発展について考えることができる。</p>	<p>小売業は、われわれ消費者に最も近い販売業者です。消費者の欲しいものを仕入れ販売する代理購買をはじめとして、小売業が社会から求められる役割は日増しに大きくなっています。                  本講義では、今日の成熟した市場において小売業が果たす役割とその重要性について学んでいきます。</p>
到達目標	<p>①日本における小売流通の全体像を俯瞰できる。                  ②小売業態についての知見を広げ、日本型流通システムの特徴を理解することができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
2	小売業とは何か	流通の機能について	
3	日本における小売業構造の特徴	日本に特徴的な小売業の構造	
4	小売業と国際化	欧米の小売業態について	
5	小売業の機能と基本的役割	小売業の社会的役割について	
6	小売業の物流	物流から見る小売業の役割	
7	中間試験		
8	商品別に見る流通の特徴	商品別流通経路の特徴について	
9	無店舗小売業	店舗販売と無店舗販売の相違	
10	業種から業態へ	業態型専門店チェーンの特徴	
11	百貨店	百貨店のサービスの特徴について	
12	総合品揃えスーパーと食品スーパー	レギュラーチェーンの特徴	
13	コンビニエンス・ストア	フランチャイズ・チェーンの特徴	
14	零細小売業と商店街	商店街の役割について	
15	これまでのまとめ		
16	期末試験		
テキスト・参考文献・資料など	<p>※以下のテキストを講義の際に必ず持参すること。                  使用テキスト：                  番場博之編著『基礎から学ぶ流通の理論と政策（新版）』八千代出版，2016年</p>		
学びの手立て	<p>①テキストは必ず購入して、時間外に予習・復習ができる態勢を整えてください。                  ②欠席5回以上で成績評価は「不可」となります。また、30分以上の遅刻は欠席扱いとします。                  ③スーパー、コンビニ、ドラッグストアなどをよく観察し、社会における小売業の役割を学ぶこと。</p>		
評価	<p>◆中間試験：40点                  ◆期末試験：40点                  ◆平常点：20点                  合計：100点</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>事前に「マーケティング総論」を履修していることが望ましい。                  小売業の機能や役割を知ること、小売流通業が生活に密着したものであることを理解する。                  また、販売実務や店舗運営の知識を得ること、小売業やサービス業への関心を喚起する。                  関連する科目として「販売管理論」があり、販売士検定に必要な知識を習得することができる。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	小売流通論Ⅱ	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	髭白 晃宜	3年	t.higeshiro@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>①小売流通に関する知識を得て、今日の流通実態を理解する。                  ②生活との関わりから、流通業の役割をより深く理解する。                  ③小売業態の発展について考えることができる。</p>	<p>小売業は、われわれ消費者に最も近い販売業者です。消費者の欲しいものを仕入れ販売する代理購買の機能をはじめとして、社会から求められる役割が日増しに大きくなってきています。                  本講義では、小売業の革新性に焦点を当て、小売業態の多様性に対して多角的にアプローチしていきます。また、沖縄県の小売業者を対象に調査・分析を行い、地方小売業の実態について考えます。</p>
到達目標	<p>①日本の小売流通の全体像を俯瞰できる。                  ②小売業態についての知見を広げ、日本型流通システムの特徴を理解することができる。                  ③小売業の事例研究から、小売業態の多様性と柔軟性について考えることができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	小売流通論Ⅰを振り返る	小売流通論Ⅰの復習
	3	組織小売業①：ボランティアチェーンと生協	卸売業と生協について
	4	組織小売業②：レギュラーチェーンとフランチャイズチェーン	チェーンオペレーションについて
	5	小売業のイノベーション①：百貨店の革新性	業態別に見る小売業の特徴
	6	小売業のイノベーション②：SCの革新性	同上
	7	小売業のイノベーション③：コンビニの革新性	同上
	8	小売業のイノベーション④：専門量販店の革新性	同上
	9	小売業界の再編①：百貨店業界の再編	小売業界の再編の動向
	10	小売業界の再編②：スーパー業界の再編	同上
	11	小売業界の再編③：コンビニ業界の再編	同上
	12	小売流通事例研究①：グループ報告	研究報告とレポート作成
	13	小売流通事例研究②：グループ報告	同上
14	小売流通事例研究③：グループ報告	同上	
15	これまでのまとめ		
16	期末試験		
実践	テキスト・参考文献・資料など ※以下のテキストを講義の際に必ず持参すること。 使用テキスト： 番場博之編著『基礎から学ぶ流通の理論と政策（新版）』八千代出版，2016年		
	学びの手立て ①テキストは必ず購入して、時間外に予習・復習ができる態勢を整えてください。 ②欠席5回以上で成績評価は「不可」となります。また、30分以上の遅刻は欠席扱いとします。 ③SC、スーパー、コンビニ、ドラッグストアなどをよく観察し、社会における小売業の役割を学ぶこと。 ④時間外にグループ作業を行います。各自協力して作業に取り組むように。		
	評価 ◆グループによる研究報告（プレゼンテーション）：30点 ◆グループによる研究報告書の作成と提出：30点 ◆期末試験：40点 合計：100点		

学びの継続	次のステージ・関連科目 事前に「小売流通論Ⅰ」を履修していることが望ましい。 小売業の機能や役割を知ることで、小売流通業が生活に密着したものであることを理解する。 また、販売実務や店舗運営の知識を得ることで、小売業やサービス業への関心を喚起する。 関連する科目として「販売管理論」があり、販売士検定に必要な知識を習得することができる。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国際経営論 I	前期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	天野 敦央	3年	第5-603番教室(研究室)	

学びの準備	ねらい 年間テーマを「中国経営」とする。本講義は、通年科目（全年科目）合計4.00単位に相当する。外国研究にあつては、国内研究と同様に、体系的に知識把握することが比較的有効であると思われる。たとえば経営管理を理解したいのであれば、①生産管理、②労働管理、③販売管理、④財務管理、および⑤経営組織といったような諸部分にそつて把握していくのである。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>上の「ねらい」で記したことは、どこの国 地域の経済・経営・商業・ビジネスを理解するうえでも妥当することといえよう。本講義では、中国本土（中華人民共和国）の工場管理を例にとり、外国経営研究にとりくんでいく。東側国家や、発展途上国に特有の事象についても言及したい。 (なお本講義は抽選科目である。各学期の初回講義(4,9月)では面談のうえ、受講許可者(抽選結果)を発表するので必ず出席されたい。)</p> <p>講義の展開計画</p> <table border="0"> <tr><td>回数</td><td>内容</td></tr> <tr><td>1</td><td>講義のすすめ方、評価のしかた</td></tr> <tr><td>2</td><td>経営・企業概念</td></tr> <tr><td>3</td><td>外国経営研究</td></tr> <tr><td>4</td><td>中国経営研究</td></tr> <tr><td>5</td><td>経済回復期</td></tr> <tr><td>6</td><td>第1次五カ年計画の時期</td></tr> <tr><td>7</td><td>大躍進の時期</td></tr> <tr><td>8</td><td>経済調整政策の時期</td></tr> <tr><td>9</td><td>プロレタリア文化大革命の時期</td></tr> <tr><td>10</td><td>第4次五カ年計画の時期</td></tr> <tr><td>11</td><td>華国鋒政権の時期</td></tr> <tr><td>12</td><td>経済改革政策への着手期</td></tr> <tr><td>13</td><td>経済改革政策の停滞期</td></tr> <tr><td>14</td><td>まとめ</td></tr> <tr><td>15</td><td>講評、ショートテスト</td></tr> </table>	回数	内容	1	講義のすすめ方、評価のしかた	2	経営・企業概念	3	外国経営研究	4	中国経営研究	5	経済回復期	6	第1次五カ年計画の時期	7	大躍進の時期	8	経済調整政策の時期	9	プロレタリア文化大革命の時期	10	第4次五カ年計画の時期	11	華国鋒政権の時期	12	経済改革政策への着手期	13	経済改革政策の停滞期	14	まとめ	15	講評、ショートテスト
	回数	内容																															
	1	講義のすすめ方、評価のしかた																															
	2	経営・企業概念																															
3	外国経営研究																																
4	中国経営研究																																
5	経済回復期																																
6	第1次五カ年計画の時期																																
7	大躍進の時期																																
8	経済調整政策の時期																																
9	プロレタリア文化大革命の時期																																
10	第4次五カ年計画の時期																																
11	華国鋒政権の時期																																
12	経済改革政策への着手期																																
13	経済改革政策の停滞期																																
14	まとめ																																
15	講評、ショートテスト																																
<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>(テキスト) 未定 (参考文献) 小川英次ほか(編)『経営学の基礎知識』有斐閣。 伊丹敬之ほか『ゼミナール経営学入門』日本経済新聞社。 芝川林也(編)『経営学演習』同文館。</p>																																	
<p>学びの手立て</p> <p>遅刻・私語は控えてもらいたい。定期試験は今のところ予定していないが、講義中1～3回程度のショートの実施を計画している。実施日時などは開講時に指示するので、準備不足・受験忘れ等なきよう注意されたい。</p>																																	
<p>評価</p> <p>概ね次の通りとする。 平常点(発言・質問・課題・ショートテストの達成度)が 85%、その他が15%。</p>																																	

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>国際経営論 I I</p>
-------	-------------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国際経営論Ⅱ	後期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	天野 敦央	3年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>年間テーマを「中国経営」とする。本講義は、通年科目（全年科目）合計4.00単位に相当する。外国研究にあつては、国内研究と同様に、体系的に知識把握することが比較的有効であると思われる。たとえば経営管理を理解したいのであれば、①生産管理、②労働管理、③販売管理、④財務管理、および⑤経営組織といったような諸部分にそつて把握していくのである。</p> <p>到達目標</p>	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>上の「ねらい」で記したことは、どこの国 地域の経済・経営・ビジネス・商業を理解するうえでも妥当なことといえよう。本講義では、中国本土（中華人民共和国）の工場管理を例にとり、外国経営研究にとりくんでいく。東側国家や、発展途上国に特有の事象についても言及したい。                  （なお本講義は抽選科目である。各学期の初回講義（4,9月）では面談のうえ、受講許可者（抽選結果）を発表するので必ず出席されたい。）</p> <p>講義の展開計画</p> <p>回数 内容</p> <p>16 経営管理原則</p> <p>17 内部経営管理組織</p> <p>18 上級経営管理組織</p> <p>19 経営管理制度（1）</p> <p>20 経営管理制度（2）</p> <p>21 国営工場の生産管理</p> <p>22 国営工場の労働管理</p> <p>23 国営工場の販売管理</p> <p>24 国営工場の財務管理</p> <p>25 企業形態</p> <p>26 工場におけるイデオロギー的活動</p> <p>27 工場における政治活動</p> <p>28 教材学習（1）</p> <p>29 教材学習（2）</p> <p>30 教材学習（3）・ショートテスト</p> <p>31 [予備日]</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>（テキスト） 未定</p> <p>（参考文献）</p> <p>小川英次ほか（編）『経営学の基礎知識』有斐閣。</p> <p>伊丹敬之ほか『ゼミナール経営学入門』日本経済新聞社。</p> <p>芝川林也（編）『経営学演習』同文館。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>遅刻・私語は控えてもらいたい。定期試験は今のところ予定していないが、講義中1～3回程度のショートテストの実施を計画している。実施日時などは開講時に指示するので、準備不足・受験忘れ等なきよう注意されたい。</p>
	<p>評価</p> <p>概ね次の通りとする。</p> <p>平常点（発言・質問・課題・ショートテストの達成度）が 85%，その他が 15%。</p>

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	国際経済学	前期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	俞 炳強	3年	yu@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	世界的に進展している経済活動のグローバル化の現状を把握し、その背後にあるメカニズムを理解するための国際経済学の基礎的理論を学習し習得する。	講義内容について不明な点があったら、積極的に質問し理解に努めてほしい。

到達目標
①国際経済学の基礎的理論を習得する。 ②国際貿易と経済発展との関係を理解する。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	国際経済学とは何か	
	2	国際経済の動き	当日内容の復習と次回の予習
	3	国際貿易の基礎理論（自由貿易の利益）	同上
	4	国際貿易の基礎理論（リカード・モデル）	同上
	5	国際貿易の基礎理論（ヘクシャー＝オーリン・モデル）	同上
	6	新しい国際貿易の理論	前半の復習
	7	中間まとめと中間テスト	中間テスト結果の点検
	8	貿易政策	当日内容の復習と次回の予習
	9	貿易と経済発展	同上
	10	生産要素の国際移動	同上
	11	国民所得と国際収支	同上
	12	為替レート	同上
	13	アジアの経済発展	同上
	14	中国の経済発展	当日内容の復習
15	まとめと復習	後半の復習	
16	期末テスト	期末テスト結果の点検	

テキスト・参考文献・資料など
テキストは特に指定しないが、教材や資料はプリントまたはPDFファイルで配布する。 参考図書：澤田康幸『基礎コース国際経済学』新世社、井川一宏ほか『基礎 国際経済学』中央経済社、上野秀夫ほか『国際経済学』ミネルバ書房など。

学びの手立て
①大幅な遅刻や無断欠席は減点となる。やむを得ず欠席の場合は欠席届を提出し、欠席した講義の内容は時間外に学習し、不明な点は積極的に質問する。 ②講義中に講義内容と無関係なこと（私語、スマートフォンの操作など）を行った場合は減点となる。

評価
平常点：40%、中間テスト点：30%、期末テスト点：30%

学びの継続
次のステージ・関連科目 アジアビジネス事情など

※ポリシーとの関連性

ビジネスでの実践的な理解と実践力のため企業活動を記録する簿記システムをコンピュータ処理、報告する理論、方法を学習する。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	コンピュータ会計	前期	水1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-上原 香代子	2年	講義終了後及びメール等	

学びの準備	ねらい 企業会計に欠かせない会計ソフトの演習を通して、現代の会計実務の基本を習得する。	メッセージ 企業人としての一般的な知識、特に事務系の職種に必要な学習です。
	到達目標 一年次で学習した簿記会計の知識を会計ソフトを使って、実務面でも活かせるようにします。各種のコンピュータ会計資格も取得可能となります。	

学びの準備	到達目標 一年次で学習した簿記会計の知識を会計ソフトを使って、実務面でも活かせるようにします。各種のコンピュータ会計資格も取得可能となります。

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス及び簿記の基礎確認	商業簿記の復習
	2	企業活動と会計処理	前講義の確認復習
	3	会計ソフトの操作と会計処理	前講義の確認復習
	4	現預金、売上の会計処理	前講義の確認復習
	5	仕入、経費の会計処理	前講義の確認復習
	6	人件費の会計処理	前講義の確認復習
	7	日常的処理と試算表の作成	前講義の確認復習
	8	企業に関わる税の会計処理	前講義の確認復習
	9	日常活動の入力処理と試算表の作成①	前講義の確認復習
	10	日常活動の入力処理と試算表の作成②	前講義の確認復習
	11	決算手続きと会計処理	前講義の確認復習
	12	月次活動の入力処理と財務諸表の作成①	前講義の確認復習
	13	月次活動の入力処理と財務諸表の作成②	前講義の確認復習
	14	会計データの新規作成	前講義の確認復習
	15	実践的データ処理と財務諸表の作成	前講義の確認復習
16	期末テスト		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：『コンピュータ会計基本テキスト』実教出版 (時間外『コンピュータ会計基本問題』実教出版) 参考文献：『電子会計 実務検定試験 公式ガイドブック』初級・中級 日本商工会議所編集

学びの実践	学びの手立て ビジネス社会に有用な知識習得のため、コンピュータ会計ソフトの処理及び確認方法、関連する報告内容などを学習する。

学びの実践	評価 授業参加度及び課題内容評価 (20%)、期末テスト (80%) の総合評価

学びの継続	次のステージ・関連科目 「関連科目」 会計学、原価計算、財務会計、管理会計、経営分析、資金会計
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	コンピュータ会計	後期	水1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-上原 香代子	2年	講義終了後及びメール	

学びの準備	ねらい 企業会計に欠かせない会計ソフトの演習を通して現代の会計実務の基本の修得する。	メッセージ 企業人としての一般的な知識、特に事務系の職種に、必要な学習です。
	到達目標 1年次で学習した簿記会計の知識を会計ソフトを使って、実務面でも活かせるようにします。各種のコンピュータ会計検定資格も取得可能となります。	

学びの準備	到達目標 1年次で学習した簿記会計の知識を会計ソフトを使って、実務面でも活かせるようにします。各種のコンピュータ会計検定資格も取得可能となります。

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス・簿記の基礎確認	商業簿記の基礎復習
	2	企業活動と会計処理	前講義の復習
	3	会計ソフトの操作と会計処理	前講義の復習
	4	現預金、売上の会計処理	前講義の復習
	5	仕入、経費の会計処理	前講義の復習
	6	人件費の会計処理	前講義の復習
	7	日常的処理と試算表の作成	前講義の復習
	8	起業に関わる税の会計処理	前講義の復習
	9	日常活動の入力処理と試算表の作成①	前講義の復習
	10	日常活動の入力処理と試算表の作成②	前講義の復習
	11	決算手続きと会計処理	前講義の復習
	12	月次活動の入力処理と財務諸表の作成①	前講義の復習
	13	月次活動の入力処理と財務諸表の作成②	前講義の復習
	14	会計データの新規作成	前講義の復習
	15	実践的データ処理と財務諸表の作成	前講義の復習
16	期末テスト		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：『コンピュータ会計基本テキスト』実教出版 (時間外『コンピュータ会計基本問題』実教出版) 参考文献：『電子会計 実務検定試験 公式ガイドブック』初級・中級 日本商工会議所編集

学びの実践	学びの手立て 基本的な簿記の知識(日商簿記3級以上)を前提にしています。 各項目での講義の後、必要に応じて知識の問題と会計ソフト入力問題があります。 講義は、テキストに沿って進めますので、欠席する場合、講義範囲を確認し、理解するようにしてください。 またパソコン操作の習得のため、練習量も確保してください。

学びの実践	評価 授業参加度及び課題内容評価 (20%)、期末テスト (80%) の総合評価

学びの継続	次のステージ・関連科目 「関連科目」会計学、原価計算、財務会計、管理会計、経営分析、資金会計
-------	---

※ポリシーとの関連性 学ぶ姿勢と学ぶ力を付ける。自分で考えて、自ら動いていく力を付ける。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	サービス・マーケティング	前期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮森 正樹	3年	miyamori@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この授業を通して、サービス・マーケティングの成り立ちとその活用方法学び、いかにして企業が自社のサービス商品の付加価値を必要とされている消費者の元に届けるかを知る。	メッセージ 専門科目を単なる単位・学ぶべきものとするのではなく、授業を通してその科目の楽しさ、面白さ、社会への影響に気づくことが大切です。
	到達目標 1. サービスの概要を知る。 2. サービス・マーケティングの基本理論を学ぶ。 3. サービスとマーケティングの関係性を知る。 4. 基本的なサービス・マーケティングのビジネスモデルが説明できるようになる。	

学びの準備	到達目標 1. サービスの概要を知る。 2. サービス・マーケティングの基本理論を学ぶ。 3. サービスとマーケティングの関係性を知る。 4. 基本的なサービス・マーケティングのビジネスモデルが説明できるようになる。
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	サービスとは	テキストを読む
	3	経済のサービス化	テキストを読む
	4	消費者の変化	テキストを読む
	5	サービス・マーケティングの概要	テキストを読む
	6	モノとサービスの違い	テキストを読む
	7	製造業とサービスの関係	テキストを読む
	8	サービス品質の考え方	テキストを読む
	9	品質評価の方法1	テキストを読む
	10	品質評価の方法2	テキストを読む
	11	サービス商品のプロモーション	テキストを読む
	12	サービス商品の流通	テキストを読む
	13	サービス商品の価格	テキストを読む
	14	サービスエンカウンターとは	課題発表の準備
	15	課題の発表	
16	期末試験		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：サービス・マーケティング入門。必要に応じて授業の中でプリントを配布する。参考文献も必要な時に発表する。
-------	--

学びの実践	学びの手立て 履修の心構え： ①出席・授業への積極的参加を強く求める、②自分から動く、③課題提出は期日を守る、④他の学生に迷惑を掛けない。  学びを深めるために： ①マーケティングとサービスの関係を知る、②議論に積極的に参加する、③日経MJを読む、④サービス企業のサービスを受けてみて感じた課題の改善策を考えてみる。
-------	---

学びの実践	評価 評価は次の項目の総合的な観点から行われる。 ①出席、②期末試験、③レポート、④授業での態度、⑤課題提出物。
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 ビジネス関連科目を多く受講すること。マーケティングに関連した書籍を読むこと。一般教養科目をしっかりと学ぶこと。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	財務会計 I	前期	木 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	鶴池 幸雄	3年	uike@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 企業活動の把握、報告を行う財務報告会計の中で概論と損益計算書について理解し、解題できる事を目指します	メッセージ 簿記・会計の知識を生かして、企業の利益獲得に関わる行動について理解できるようにしましょう
	到達目標 日本の会計原則の基礎理論の理解 企業の営利活動をあらかず損益計算書の理解	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	会計主体論	
	3	会計公準論	
	4	企業会計原則と会社法	
	5	企業会計の一般原則 I	
	6	企業会計の一般原則 II	
	7	損益計算書概論	
	8	収益・費用の認識と測定 I	
9	収益・費用の認識と測定 II		
10	収益・費用の認識と測定 III		
11	費用と収益の対応		
12	営業損益計算		
13	期間業績計算		
14	包括利益計算		
15	損益計算総論		
16	試験		
	テキスト・参考文献・資料など 財務会計講義 櫻井久勝 第18版		
	学びの手立て 講義で学修を進めるとともに、復習を十分に行ってください		
	評価 小レポート (20) 試験 (80)		

学びの継続	次のステージ・関連科目 経営分析、資金会計 会計戦略論
-------	--------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	財務会計Ⅱ	後期	木1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	鶴池 幸雄	3年	uike@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 企業活動の把握、報告を行う財務報告会計の中で貸借対照表と連結財務報告について理解し、解題できる事を目指します	メッセージ 簿記・会計の知識を生かして、企業の利益獲得に関わる行動について理解できるようにしましょう
	到達目標 企業の財政状態をあらわす貸借対照表の理解 企業グループの経営状態を示す連結財務諸表の理解	

学びの準備	到達目標 企業の財政状態をあらわす貸借対照表の理解 企業グループの経営状態を示す連結財務諸表の理解
-------	---

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	貸借対照表概論	
	3	貸借対照表の分類基準	
	4	流動資産の会計処理Ⅰ	
	5	流動資産の会計処理Ⅱ	
	6	固定資産の会計処理Ⅰ	
	7	固定資産の会計処理Ⅱ	
	8	繰延資産の会計処理	
	9	負債の会計処理	
	10	純資産の部の会計処理	
	11	連結財務諸表Ⅰ（概論）	
	12	連結財務諸表論Ⅱ（資本連結）	
	13	連結財務諸表Ⅲ（損益計算書、貸借対照表の作成）	
	14	連結財務諸表Ⅳ（連結財務諸表の利用）	
	15	企業活動と財務報告	
16	試験		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 財務会計講義 櫻井久勝 第18版
-------	------------------------------------

学びの実践	学びの手立て 講義で学修を進めるとともに、復習を十分に行ってください
-------	---------------------------------------

学びの実践	評価 小レポート（20）試験（80）
-------	-----------------------

学びの継続	次のステージ・関連科目 経営分析、資金会計 会計戦略論
-------	--------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	資金会計	後期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	鶴池 幸雄	3年	uike@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 企業活動の把握、報告を行う財務報告会計の中でキャッシュ・フローとキャッシュ換算について理解し、解題できる事を目指します	メッセージ 簿記・会計の知識を生かして、企業の資金獲得に関わる行動について理解できるようにしましょう
	到達目標 企業の資金収支をあらわすキャッシュ・フローの理解 企業の資金収支に関わる外貨建て取引の会計処理の理解	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	ガイダンス
	2	資金会計概論
	3	キャッシュ・フロー計算Ⅰ(概論)
	4	キャッシュ・フロー計算Ⅱ(キャッシュ・フロー計算書の作成①)
	5	キャッシュ・フロー計算Ⅲ(キャッシュ・フロー計算書の作成②)
	6	キャッシュ・フロー計算Ⅳ(キャッシュ・フロー計算書の構造)
	7	損益情報とキャッシュフロー情報の比較
	8	キャッシュ・フロー情報の利用Ⅰ(ディスカунティッド・キャッシュフロー)
	9	キャッシュ・フロー情報の利用Ⅱ(ネットプレゼンバリュー)
	10	キャッシュ・フロー情報の利用Ⅲ(キャッシュフロー情報による企業分析)
	11	外貨建て資金取引の会計処理Ⅰ(外国通貨取引の会計処理)
	12	外貨建て資金取引の会計処理Ⅱ(外国通貨表示の会計処理)
	13	金融資金取引の会計処理Ⅰ(リース取引)
	14	金融資金取引の会計処理Ⅱ(デリバティブ取引)
15	キャッシュ・フローと企業会計	
16	試験	
	時間外学習の内容	
	テキスト・参考文献・資料など 受講時に指示する	
	学びの手立て 経済活動認識による簿記とことなる資金活動認識であるキャッシュ・フローを理解するために基礎的な練習課題を着実に進めていくことが重要となります。	
	評価 小レポート(20) 試験(80)	

学びの継続	次のステージ・関連科目 経営分析、財務会計、企業戦略論
-------	--------------------------------

※ポリシーとの関連性 学ぶ姿勢と学ぶ力を付ける。自分で考えて、自ら動いていく力を付ける。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	市場調査演習	後期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮森 正樹	2年	miyamori@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この授業を通して、企業が顧客のニーズを探るための基本的な理論と技術を学ぶ。市場調査を通じてマーケティングの応用とそれがいかに自分たちの生活に密着しているかを知る。	メッセージ 専門科目を単なる単位・学ぶべきものとするのではなく、授業を通してその科目の楽しさ、面白さ、社会への影響に気づくことが大切です。
	到達目標 1. 市場調査の概要を知る。 2. 市場調査の各理論を学ぶ。 3. 市場調査とマーケティングの関係性を知る。 4. 高度な市場調査ができるようになる。 5. 統計的手法を学ぶ。	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>クラスでグループを作り、各グループごとに調査テーマを決定して、それを実施する。高度な市場調査を実施してレポートを書き、クラスでプレゼンテーションをする。社会人講師による実務の話聞く。</p> <p>前半3週間 : グループ決定、調査テーマ決定、調査手法決定          中盤10週間 : 調査実施、集計、分析、社会人講師の講和          後半3週間 : 調査結果のプレゼンテーションとレポート提出</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキスト：アンケートの作り方・活かし方。また、必要に応じて授業の中でプリントを配布する。参考文献は必要な時に発表。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>履修の心構え： ①出席・授業への積極的参加を強く求める、②自分から動く、③課題提出は期日を守る、④グループ学習にて自分の役割を果たす。</p> <p>学びを深めるために： ①マーケティングと市場調査の関係を知る、②議論に積極的に参加する、③日経MJを読む。</p>
	<p>評価</p> <p>評価は次の項目の総合的な観点から行われる。 ①出席、②役割の遂行、③レポート、④授業での態度、⑤課題提出物、⑥プレゼンテーションの内容。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>ビジネス関連科目を多く受講すること。マーケティングに関連した書籍を読むこと。一般教養科目をしっかりと学ぶこと。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性 学ぶ姿勢と学ぶ力を付ける。自分で考えて、自ら動いていく力を付ける。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	市場調査総論	前期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮森 正樹	2年	miyamori@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この授業を通して、企業が顧客のニーズを探る基本的な理論と技術を学ぶ。市場調査を通じてマーケティングの応用とそれがいかに自分たちの生活に密着しているかを知る。	メッセージ 専門科目を単なる単位・学ぶべきものとするのではなく、授業を通してその科目の楽しさ、面白さ、社会への影響に気づくことが大切です。
	到達目標 1. 市場調査の概要を知る。 2. 市場調査の各理論を学ぶ。 3. 市場調査とマーケティングの関係性を知る。 4. 簡単な市場調査ができるようになる。 5. 統計的手法を学ぶ。	

学びの準備	到達目標 1. 市場調査の概要を知る。 2. 市場調査の各理論を学ぶ。 3. 市場調査とマーケティングの関係性を知る。 4. 簡単な市場調査ができるようになる。 5. 統計的手法を学ぶ。
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	オリエンテーション
	2	市場調査とは
	3	市場調査の種類とその活用 1
	4	市場調査の種類とその活用 2
	5	アンケートの基礎知識 1
	6	アンケートの基礎知識 2
	7	顧客をつかむアンケート 1
	8	顧客をつかむアンケート 2
	9	購入決定時に影響を及ぼす要因の発見 1
	10	購入決定時に影響を及ぼす要因の発見 2
	11	潜在的ニーズを知る調査 1
	12	潜在的ニーズを知る調査 2
	13	調査事例の発表準備
	14	調査企業の事例発表 1
	15	調査企業の事例発表 2
16	期末試験	
		時間外学習の内容
		テキスト予習及び調査企画作成
		調査発表準備 1
		調査発表準備 2

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：アンケートの作り方・活かし方。また、必要に応じて授業の中でプリントを配布する。参考文献は必要な時に発表。
-------	---

学びの実践	学びの手立て 履修の心構え： ①出席・授業への積極的参加を強く求める、②自分から動く、③課題提出は期日を守る、④グループ学習にて自分の役割を果たす。  学びを深めるために： ①マーケティングと市場調査の関係を知る、②議論に積極的に参加する、③日経MJを読む。
-------	--

学びの実践	評価 評価は次の項目の総合的な観点から行われる。 ①出席、②期末試験、③レポート、④授業での態度、⑤課題提出物、⑥プレゼンテーションの内容。
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 ビジネス関連科目を多く受講すること。マーケティングに関連した書籍を読むこと。一般教養科目をしっかりと学ぶこと。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	商業史	前期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	髭白 晃宜	2年	t.higeshiro@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>①商業活動と都市・市場の歴史の変遷を考察する。                  ②中世以降の欧州における商業発展について理解する。                  ③西洋都市と日本都市の比較から、現在のまちづくりを考える。</p>	<p>商業のありかたは、農業や工業と同じく時代とともに変化しています。同時にその舞台となる都市や市場も変遷を続けています。本講義では、都市や市場における諸問題の原因を歴史的観点から分析して、今後の都市や市場のありかたを展望します。</p>
到達目標	<p>①歴史的な事実を観察・分析して、現代の商業活動や都市・市場が抱える問題点を明らかにする。                  ②現代における都市の再開発やまちづくりについて、発展と停滞の原因を考えることができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	経済史・経営史・商業史	商業史を学ぶ意義について
	3	交換と貨幣	貨幣の役割について
	4	都市と市場の成立	市場の成立について
	5	中世都市の類型	中世都市の条件について
	6	中世における商業組織の発達	会社組織が誕生する背景について
	7	中間試験	
	8	会社形態の変遷	株式会社発生のプロセスについて
	9	大航海時代と商業革命	商業革命と価格革命について
	10	プロト工業化と産業革命の背景	産業革命について
	11	イギリス産業革命と都市化	産業革命が及ぼす影響について
	12	パリ改造と百貨店	百貨店の成立について
	13	交通技術の発展と流通の変化	交通が流通に与える影響について
14	ヨーロッパの都市と日本の都市	西洋都市と日本都市の比較	
15	これまでのまとめ		
16	期末試験		
実践	テキスト・参考文献・資料など ※講義内で補助教材を適宜配布する。参考文献を以下で紹介しておく。 参考文献： 斯波照雄『西洋の都市と日本の都市 どこが違うのかー比較都市史入門ー』学文社、2015年 斯波照雄『西洋都市社会史ードイツ・ヨーロッパ温故知新の旅』学文社、2018年		
学びの手立て	①補助教材は適宜配布しますが、ノート作成が必須です。講義への積極的な参加が必要です。 ②欠席5回以上で成績評価は「不可」となります。また、30分以上の遅刻は欠席扱いとします。 ③中学・高校で学習する世界史および日本史の知識を必要とする。		
評価	◆中間試験：40点 ◆期末試験：40点 ◆平常点：20点 合計：100点		

学びの継続	次のステージ・関連科目 歴史的事実を客観的に分析することで、現在の商業活動や市場動向を正確に理解できることが目標。関連科目として「小売流通論Ⅰ」および「小売流通論Ⅱ」、そして「流通政策論」がある。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	商業簿記 I	前期	月2・木1	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-上江洲 由正	1年	uezu@tm.u-ryukyu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	我々の社会的・経済的生活にとって絶対に必要な企業の経営活動を情報化する技法である複式簿記の基本的仕組みや原理について、個人企業の経営活動に焦点を当てた商業簿記を中心に講義する。具体的には資産、負債、純資産、収益、費用概念、記帳ルールとプロセス、貸借対照表や損益計算書の作成を中心に講義する。簿記技法の習得を通して経営活動に対する理解を深める。	簿記は授業を聞くだけでは理解できないので、毎回、授業の展開プリントの問題一解答解説という流れで授業を行います。理詰めのわかりやすい授業を心がけますが、分からないことがあればどんなことでもいいので授業中あるいは授業の前後にどんどん質問してください。

到達目標	毎回の授業で練習問題を解いてもらうことにより簿記の技法・知識に対する理解が深まり、また時間外で自主学習でワークブックの練習問題を解いてもらうことにより自律性が涵養されるようになる。さらに企業の経営活動を簿記の技法に基づいて情報化するので、情報リテラシーを高めることができる。日本商工会議所主催の簿記検定3級に合格できる簿記の技法・知識を習得することができるので、簿記検定に合格することにより専門的能力の社会的評価を高めることができる。
------	---

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス：簿記を学ぶ意義等の説明。	
	2	簿記の基礎概念	参考文献の関連問題を解くこと
	3	資産・負債・純資産と貸借対照表	参考文献の関連問題を解くこと
	4	損益計算書と貸借対照表	参考文献の関連問題を解くこと
	5	簿記の記入法則	参考文献の関連問題を解くこと
	6	経営活動と帳簿記入（仕訳）	参考文献の関連問題を解くこと
	7	経営活動と帳簿記入（仕訳・転記）	参考文献の関連問題を解くこと
	8	帳簿組織（仕訳帳と元帳その1）	参考文献の関連問題を解くこと
	9	帳簿組織（仕訳帳と元帳その2）	参考文献の関連問題を解くこと
	10	試算表	参考文献の関連問題を解くこと
	11	6桁精算表	参考文献の関連問題を解くこと
	12	決算（その1）	参考文献の関連問題を解くこと
	13	決算（その2）	参考文献の関連問題を解くこと
	14	現金・預金の取引	参考文献の関連問題を解くこと
	15	当座預金と小口現金	参考文献の関連問題を解くこと
	16	中間テスト	
	17	商品売買取引（その1）	参考文献の関連問題を解くこと
	18	商品売買取引（その2）	参考文献の関連問題を解くこと
	19	商品売買取引（その3）	参考文献の関連問題を解くこと
	20	掛取引と人名勘定	参考文献の関連問題を解くこと
	21	手形取引	参考文献の関連問題を解くこと
	22	その他の債権・債務（その1）	参考文献の関連問題を解くこと
	23	その他の債権・債務（その2）	参考文献の関連問題を解くこと
	24	有価証券の売買	参考文献の関連問題を解くこと
	25	固定資産取引（その1）	参考文献の関連問題を解くこと
	26	固定資産取引（その2）	参考文献の関連問題を解くこと
	27	個人企業の資本と税金	参考文献の関連問題を解くこと
	28	決算（その3）	参考文献の関連問題を解くこと
	29	決算（その4）	参考文献の関連問題を解くこと
30	8桁精算表	参考文献の関連問題を解くこと	
31	期末テスト		

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキスト：『簿記の技法とシステム』上江洲由正、大城建夫編著、同文館  参考文献：『検定簿記ワークブック商業簿記3級』、中央経済社</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <p>履修の心構え：簿記は欠席したら次の授業が全く理解できなくなるので出欠の確認を毎回行う。病気等で休む場合はその日の授業内容を授業計画、時間外学習の内容を参考に必ず自学・自習しておくこと。また、簿記は実際にペンを取り内容を書き留めないと理解できないので、授業内容をしっかりノートに取ることが求められる。さらに商業簿記Iの理解度をより深めるために時間外学習でワークブックの問題を自主的により多く解くことが望まれる。</p>
	<p>評価</p> <p>成績の評価は中間テストおよび期末テストで80%、宿題の提出状況や受講態度など20%で行う。受講態度はまじめに受講しているかどうかを中心に評価する。なお、テキストの持参がないと実質的に授業に参加できないので、その場合は欠席扱いとなる。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>商業簿記Iの発展的学習として上位科目である商業簿記IIの履修を推奨する。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	商業簿記 I	前期	月 2・木 1	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	清村 英之	1 年	・研究室：5627室 ・メール：hkiyomura@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	会社の活動を記録し、計算・整理する技術を簿記といます。簿記を行うことによって、会社は自己の財産を管理することができ、経営成績（いくらもうかったか）と財政状態（財産や借金がいくらあるか）を知ることができます。この講義では、取引の仕訳から元帳への転記、試算表・精算表・財務諸表の作成にいたる簿記一巡の手続を解説します。	簿記は「ビジネスの言語」といわれており、ビジネスの世界で活躍するためには必須のスキルです。将来の活躍を目指し、このクラスでしっかりと基礎を固めてください。また、この講義は日商簿記検定試験 3 級の範囲に対応しています。早い段階でチャレンジするといいでしょう。
到達目標	① 簿記の基礎概念を理解し、説明できる。 ② 現金取引、商品売買取引、手形取引などの諸取引を仕訳（記録）できる。 ③ 上記②の諸取引を現金出納帳、仕入帳・売上帳、商品有高帳などに記帳できる。 ④ 個人企業の損益計算書と貸借対照表を作成できる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	—
	2	簿記の基礎：企業の簿記	講義内容の復習
	3	簿記の基礎：資産・負債・純資産と貸借対照表	同上
	4	簿記の基礎：収益・費用と損益計算書	同上
	5	簿記の基礎：取引と勘定	同上
	6	簿記の基礎：仕訳と転記	同上
	7	簿記の基礎：仕訳帳と元帳	同上
	8	簿記の基礎：試算表	同上
	9	簿記の基礎：精算表	同上
	10	簿記の基礎：決算（その 1）	同上
	11	簿記の基礎：決算（その 1）	同上
	12	簿記の基礎：財務諸表の作成	同上
	13	諸取引の処理：現金と預金	同上
	14	諸取引の処理：現金と預金	同上
	15	諸取引の処理：商品売買	同上
	16	諸取引の処理：商品売買	同上
	17	諸取引の処理：売掛金と買掛金	同上
	18	諸取引の処理：手形	同上
	19	諸取引の処理：手形	同上
	20	諸取引の処理：その他の債権・債務	同上
	21	諸取引の処理：有価証券	同上
	22	諸取引の処理：有価証券	同上
	23	諸取引の処理：固定資産	同上
	24	諸取引の処理：固定資産	同上
	25	諸取引の処理：資本金と引出金	同上
	26	伝票	同上
	27	決算（その 2）	同上
	28	決算（その 2）	同上
	29	決算（その 2）	同上
30	決算（その 2）	同上	
31	期末テスト	—	

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テキスト：清村英之『簿記が基礎からわかる本（第2版）』同文館出版，平成30年1月（第2刷），2,300円＋税。</li> <li>・問題集：渡部裕亘他『新検定簿記ワークブック 3級／商業簿記』中央経済社，平成30年2月，700円＋税。</li> </ul>
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○履修上の注意事項／心構え： <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業システム学科の学生しか履修できません。</li> <li>・例年，遅刻や欠席の多い学生は単位を修得できていません。遅刻・欠席をしないように心がけてください。</li> </ul> </li> <li>○学びを深めるために： <ul style="list-style-type: none"> <li>・経済やビジネスに関する新聞記事／ニュースに興味を持ちましょう。簿記の知識が付くにつれて，これらの記事／ニュースが理解できるようになります（新聞は図書館に各紙揃っています）。</li> </ul> </li> </ul>
	<p>評価</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平常点……20点（講義中の取組みを評価します）</li> <li>・テスト……80点（上記「到達目標」を評価します。5～6回行う予定です）</li> </ul>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・関連科目：簿記演習Ⅰ（1年次），商業簿記Ⅱ（2年次）など，会計コースの諸科目</li> </ul>

科目基本情報	科目名 商業簿記 I	期 別	曜日・時限	単 位
		前期	月 2・木 1	4
	担当者 -名城 佳枝	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		1 年		

学 び の 準 備	ねらい 本授業では、ビジネスに必要な簿記の基本的な知識を学び、実務でいかにせるよう記帳、決算等の理解を深めていくことを目的としています。	メッセージ 本授業で、日商簿記検定試験3級商業簿記の範囲を学習します。テキストで解説を行い、ワークブックで問題を解いてもらいます。簿記は、出来るだけ問題を多く解くことが習得への第一歩です。
	到達目標 商業簿記の基礎的な知識を習得し、日商簿記検定試験3級取得を目指します。	

学 び の 実 践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション・登録	
	2	簿記の意義と仕組み	
	3	仕訳と転記	
	4	仕訳帳と元帳	
	5	決算の概要	
	6	現金・現金過不足	
	7	当座預金・当座借越	
	8	小口現金	
	9	商品売買・三分法	
	10	商品有高帳	
	11	売掛金・買掛金	
	12	前払金・前受金	
	13	その他の債権と債務	
	14	その他の債権と債務	
	15	まとめ復習	
	16	受取手形と支払手形	
	17	有価証券	
	18	〃	
	19	固定資産	
	20	減価償却	
	21	貸倒損失と貸倒引当金	
	22	資本金と引出金	
	23	収益と費用	
	24	〃	
	25	伝票	
	26	試算表の作成	
	27	〃	
	28	決算整理事項	
	29	精算表の作成	
30	財務諸表の作成		
31	期末テスト		

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>『簿記が基礎からわかる本』 清村英之著 同文館出版  『平成29年度版検定簿記ワークブック3級商業簿記』 渡部裕恒・片山覚・北村敬子編著 中央経済社  電卓必携</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <p>最初の基本的なルールを理解していないと、全く問題を解けなくなってしまいます。授業を休んでしまったり、理解できないところがあるときは、次の授業までに解消すること。わからないところは、積極的に質問して下さい。</p>
学 び の 継 続	<p>評価</p> <p>期末テスト70点、平常点（授業中の課題への取り組み、授業内でのミニテスト等）30点</p> <p>次のステージ・関連科目</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	商業簿記Ⅱ	後期	月2・木1	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-名城 佳枝	1年	講義終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本授業では、商業簿記Ⅰの基本的な知識をもとに、株式会社の会計処理について学んでいきます。商業簿記ⅠⅡを学ぶことで、個人事業者、株式会社の財務諸表の内容を分析できるようになることを目的とします。</p>	<p>本授業で、日商簿記検定試験2級商業簿記の範囲を学習します。テキストで解説を行い、練習問題を解いてもらいます。講義では基本的な内容の説明になってしまうので、検定試験合格を目指している方は、他のテキスト・問題集を出来るだけ問題を多く解くことが合格への第一歩です。</p>

到達目標	株式会社の財務諸表の作成までの会計処理を学んでいきます。日商簿記検定試験2級合格を目指します。
------	---

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション・登録	
	2	現金・預金	各自練習問題を解く
	3	商品売買(1)	〃
	4	商品売買(2)	〃
	5	商品売買 問題演習	〃
	6	売掛金・買掛金	〃
	7	貸倒引当金	〃
	8	手形(1)	〃
	9	手形(2)	〃
	10	その他の債権債務	〃
	11	有価証券(1)	〃
	12	有価証券(2)	〃
	13	有価証券(3)	〃
	14	固定資産(1)	〃
	15	固定資産(2)	〃
	16	リース取引	〃
	17	引当金	〃
	18	外貨建て取引	〃
	19	純資産(1)	〃
	20	純資産(2)	〃
	21	純資産(3)	〃
	22	法人税等	〃
	23	消費税	〃
	24	その他税金	〃
	25	決算整理	〃
	26	財務諸表の作成(1)	〃
	27	財務諸表の作成(2)	〃
	28	本支店会計	〃
	29	連結会計	〃
30	まとめ	〃	
31	期末テスト		

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>『簿記が基礎からわかる本』清村英之著 同文館出版  日商簿記検定試験向けテキスト・問題集  電卓必携</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <p>最初の基本的なルールを理解していないと、全く問題を解けなくなってしまいます。授業を休んでしまったり、理解できないところがあるときは、次の授業までに解消すること。わからないところは、積極的に質問して下さい。</p> <p>検定試験を受験する方は、模擬試験問題・過去問を解くことが大事です。</p>
	<p>評価</p> <p>期末テスト70%・授業内でのミニテスト20%・授業中の課題への取組み10%を総合的に判断して、評価します。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>日商簿記検定試験は、商業簿記に加えて、工業簿記も出題範囲になります。併せて、受験に向けて工業簿記の講義も受講すると良いでしょう。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	商業簿記Ⅱ	後期	月2・木1	4
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-上江洲 由正	1年	uezu@tm.u-ryukyu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	われわれの社会的・経済的生活にとって絶対に必要な企業の経営活動を情報化する技法である複式簿記の技法や知識について、株式会社の経営活動に焦点を当てた商業簿記を中心に講義する。具体的には有価証券の特殊取引、収益・費用の計上、株式会社の簿記、リース取引の簿記、企業集団の簿記などを講義し、簿記の技法や知識をさらに深める。	簿記は授業を聞くだけでは理解できないので、毎回、授業の展開→プリントの問題→解答解説という流れで授業を行います。理詰めのわかりやすい授業を心がけますが、分からないことがあればどんなことでもいいので授業中あるいは授業の前後にどんどん質問してください。
到達目標	毎回の授業で練習問題を解いてもらうことにより簿記の技法・知識に対する理解が深まり、また時間外で自主学習でワークブックの練習問題を解いてもらうことにより自律性が涵養されるようになる。さらに企業の経営活動を簿記の技法に基づいて情報化するので、情報リテラシーを高めることができる。日本商工会議所主催の簿記検定2級に合格できる簿記の技法・知識を習得することができるので、簿記検定に合格することにより専門的能力の社会的評価を高めることができる。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンスおよび商業簿記Ⅰの復習	
	2	有価証券の特殊取引(その1)	参考文献の関連問題を解くこと
	3	有価証券の特殊取引(その2)	参考文献の関連問題を解くこと
	4	収益・費用の計上(その1)	参考文献の関連問題を解くこと
	5	収益・費用の計上(その2)	参考文献の関連問題を解くこと
	6	収益・費用の計上(その3)	参考文献の関連問題を解くこと
	7	特殊な取引の記帳(その1)	参考文献の関連問題を解くこと
	8	特殊な取引の記帳(その2)	参考文献の関連問題を解くこと
	9	特殊な取引の記帳(その3)	参考文献の関連問題を解くこと
	10	リース取引の記帳(その1)	参考文献の関連問題を解くこと
	11	リース取引の記帳(その2)	参考文献の関連問題を解くこと
	12	リース取引の記帳(その3)	参考文献の関連問題を解くこと
	13	株式会社の簿記(その1)	参考文献の関連問題を解くこと
	14	株式会社の簿記(その2)	参考文献の関連問題を解くこと
	15	株式会社の簿記(その3)	参考文献の関連問題を解くこと
	16	中間テスト	
	17	海外との取引の記帳(その1)	参考文献の関連問題を解くこと
	18	海外との取引の記帳(その2)	参考文献の関連問題を解くこと
	19	海外との取引の記帳(その3)	参考文献の関連問題を解くこと
	20	本支店取引の記帳(その1)	参考文献の関連問題を解くこと
	21	本支店取引の記帳(その2)	参考文献の関連問題を解くこと
	22	本支店取引の記帳(その3)	参考文献の関連問題を解くこと
	23	企業集団の簿記(その1)	参考文献の関連問題を解くこと
	24	企業集団の簿記(その2)	参考文献の関連問題を解くこと
	25	企業集団の簿記(その3)	参考文献の関連問題を解くこと
	26	企業集団の簿記(その4)	参考文献の関連問題を解くこと
	27	企業集団の簿記(その5)	参考文献の関連問題を解くこと
	28	税効果の簿記(その1)	参考文献の関連問題を解くこと
	29	税効果の簿記(その2)	参考文献の関連問題を解くこと
30	総まとめ	参考文献の関連問題を解くこと	
31	期末テスト		

学	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキスト：『簿記の技法とシステム』上江洲由正、大城建夫編著、同文館  参考文献：『検定簿記ワークブック商業簿記2級』、中央経済社</p>
び の 実 践	<p>学びの手立て</p> <p>履修の心構え：簿記は欠席したら次の授業が全く理解できなくなるので出欠の確認を毎回行う。病気等で休む場合はその日の授業内容を授業計画、時間外学習の内容を参考に必ず自学・自習しておくこと。また、簿記は実際にペンを取り内容を書き留めないと理解できないので、授業内容をしっかりノートに取ることが求められる。さらに商業簿記Iの理解度をより深めるために時間外学習でワークブックの問題を自主的により多く解くことが望まれる。</p>
	<p>評価</p> <p>成績の評価は中間テストおよび期末テストで80%、宿題の提出状況や受講態度など20%で行う。受講態度はまじめに受講しているかどうかを中心に評価する。なお、テキストの持参がないと実質的に授業に参加できないので、その場合は欠席扱いとなる。</p>
学 び の 継 続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>商業簿記Ⅱの発展的学習として上位科目である会計学Ⅰおよび会計学Ⅱの履修を推奨する。</p>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	消費者行動演習	後期	水1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	原田 優也	2年	原田優也研究室 (5号館5633号室) Email: mongkhol@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本講義は、①消費者行動に関する基本的概念である消費者ニーズ・消費者のライフスタイルおよび消費者個人へ与える内的外的要因を紹介する。つぎに、②消費者がブランド品・サービスなどを購入の際、どのような意思決定過程を行うのかを理解する。最後に、③消費者行動に影響を与えるマーケティング活動について事例を調べ、クラス内で発表し、理解することを目的とする。</p>	<p>1) 授業を講義形式とディスカッション形式を採用する。 2) 消費者購買行動を解説しながら、ケーススタディを紹介する。 3) 授業計画は学習状況によって変更することがある</p>
到達目標	<p>○消費者の購買意思決定プロセス（购买前・購買・購買後）を理解する。 ○企業経営に活かすマーケティング戦略を立案する能力を身に付けること。</p>	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>第01回 オリエンテーション（講義の概要説明と授業の受け方） 第02回 デジタル消費行動と広告活動・販売促進活動 第03回 購買行動と価格設定 第04回 購買行動と商品デザイン 第05回 購買行動とブランド戦略 第06回 消費者行動の調査方法1（定性調査） 第07回 消費者行動の調査方法2（定量調査） 第08回 消費者行動に関する研究課題設定（発表課題の設定） 第09回 消費者行動に関する研究課題1（ホテル業） 第10回 消費者行動に関する研究課題1（実習） 第11回 消費者行動に関する研究課題2（外食産業） 第12回 消費者行動に関する研究課題2（実習） 第13回 消費者行動に関する研究課題3（小売業） 第14回 消費者行動に関する研究課題3（実習） 第15回 グループ課題の発表と討論 第16回 期末試験・レポート提出</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキスト：◇杉本徹雄編（2012）『新・消費者理解のための心理学』福村出版 ◇平久保仲人著（2006）『消費者行動論』ダイヤモンド社</p> <p>参考書・参考資料等 ◇恩蔵直人監修（1999）『コトラーのマーケティング入門』ピアソンエデュケーション ◇Michael R. Solomon [著]、大竹光寿 [ほか]訳（2015）『ソロモン消費者行動論』丸善出版 ◇宮本聡介・宇井美代子編（2014）『質問紙調査と心理測定尺度—計画から実施・解析まで』サイエンス社</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>・積極的に多様なメディア（新聞、TV、インターネット、書籍等）、スーパーマーケット、ショッピングセンターなどで情報を収集してください。</p>
	<p>評価</p> <p>期末試験（30%）、レポート（50%）、平常点（20%）</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>アジア消費・流通論、中小企業マーケティング、グローバルマーケティング総論、専門演習I・II、卒業論文演習I・II</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	消費者行動概論	前期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-野原 寿加子	2年	講義終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>マーケティング活動を行ううえで知っておかなくてはいけない消費者行動について、理論や分析の枠組みを体系的に学んでいきます。なぜ買うのか、どのように買うのかなど、消費や購買における動機やプロセスの仕組みを学ぶことで消費者を理解し、より効果的なマーケティング活動に活かすことを目的とします。</p>	<p>消費者行動では消費者の心理と行動を分析して、効果的な企業の戦略を考えていこうという学問です。消費者の心理や行動に関することは身近にもたくさんありますし、自分にも関わりのある学問なんだということを知ってもらって、大きな関心と興味を示してくれるように、なるべくわかりやすく親しみのある商品や企業の例を多く取り入れて説明するように心がけていきます。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消費者行動が、なぜ効果的なマーケティングに必要なのか理解している</li> <li>・消費者がなぜ買うのか、どのように買うのかなど購買における動機やプロセスの仕組みについて理解している</li> <li>・商品を購入する際の情報探索の過程や生活様式・消費様式など社会の変化が、消費者行動や市場にどう影響を与えているのか理解している</li> </ul>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	指定テキストを事前によく読む
	2	イントロダクション ～みんな生まれつき消費者だ～	同上
	3	知覚	同上
	4	学習	同上
	5	記憶	同上
	6	態度	同上
	7	意思決定	同上
	8	セグメンテーション	同上
	9	コミュニケーション	同上
	10	店頭マーケティング	同上
	11	アイデンティティ ～消費で自己実現をしている？～	同上
	12	家族、集団	同上
	13	ステータス	同上
14	サブカルチャー、文化	同上	
15	まとめ	同上	
16	期末試験	同上	
実践	テキスト・参考文献・資料など	<p>【テキスト】 松井剛、西川英彦「1からの消費者行動」中央経済社                  【参考文献】 青木幸弘「消費者行動の知識」日経文庫 必要時にプリントを配布します</p>	
学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出欠確認を毎回行います。やむおえず欠席する場合は必ず欠席届とそれを証明できるものをセットにして提出してください</li> <li>・受動的に学ぶのではなく、能動的に学ぶ姿勢を期待しています。そのため自分で考える！ということが大切になってきます。質問や意見がある場合はその都度それを、どんどん述べて下さい</li> </ul>		
評価	<p>(1) 期末試験 70点                  (2) 課題提出 20点                  (3) 出席・授業態度 10点</p> <p>(1)～(3)を統合的に踏まえた上で評価します</p>		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本講義で消費者行動の理論を理解することにより、後期の「消費者行動演習」でより実践的に消費者行動と社会の動きの関連を理解できる</li> </ul>

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	情報概論	前期	水 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	又吉 光邦	1年	matayosi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	現代における情報化社会において、多種多様な情報が存在する。そして、これらの情報は効率よく利用されなければ、情報本来の意味を持たない。ここで、計算機（コンピュータ）の存在は必要不可欠なものとなるが、多くの情報は計算機によって生産、加工、蓄積されている。本講義では、計算機の歴史、仕組み、論理演算、発展を通して、情報とその利用法との関わりについて学ぶ。	コンピュータは、今や生活の上でなくてはならないものです。スマホは、小さいけど強力なコンピュータです。これらを支える基本的な技術やそれらが育まれた歴史などを学ぶことは、重要です。また、昨今のAIや量子コンピュータなどについてもその概要を講義します。 30分以上の遅刻は、欠席扱いとします。
到達目標	デジタル化によるコンピュータを用いた情報処理について、概要をしっかりと把握する。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	授業共有ファイル
	2	計算機の歴史	授業共有ファイル
	3	計算機の構造	授業共有ファイル
	4	符号化	授業共有ファイル
	5	論理演算	授業共有ファイル
	6	論理演算の回路	授業共有ファイル
	7	トランジスタの基本的な仕組み	授業共有ファイル
	8	CPUの仕組みと構造	授業共有ファイル
	9	コンピュータの種類と用途 その1	授業共有ファイル
	10	コンピュータの種類と用途 その2	授業共有ファイル
	11	プログラムの仕組み その1	授業共有ファイル
	12	プログラムの仕組み その2	授業共有ファイル
	13	ソフトウェアとハードウェア その1	授業共有ファイル
14	ソフトウェアとハードウェア その2	授業共有ファイル	
15	コンピュータの最先端と未来	授業共有ファイル	
16	期末試験	授業共有ファイル	
	テキスト・参考文献・資料など		
	テキスト：毎回講義で使用するパワーポイントをテキストとします（ポータルにアップロードします）。 参考文献：「コンピュータの動く仕組み」、日東書院、音楽哲・大槻有一郎、情報科学入門（日本理工出版会、佐々木良一、他 著）、その他。		
	学びの手立て	授業共有ファイルにアップロードされている、PDFファイルの電子テキストを勉強して下さい。	
	評価	出席：規定通り。 試験：規定通り。 授業態度：他の学生への迷惑、並びに授業を妨げるような言動がある場合、不可とし、以降の授業の参加を認めない。（例：おしゃべり等）。	

学びの継続	次のステージ・関連科目 プログラミングB
-------	-------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	情報リテラシー演習	後期	水1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	仲地 健	1年		

学びの準備	ねらい 情報化社会においては、単にコンピュータが使えるのではなく、目的に応じて柔軟に対応できることが必要となる。本講義では、ワープロ・表計算・プレゼンテーションソフトウェアの技能を身につけた者を対象として、ウェブサイト作成（HTML）を学ぶ。	メッセージ
	到達目標	

学びの準備	到達目標
-------	------

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	HTMLの基礎	
	3	文字のデザイン・カラーコード	
	4	リンク	
	5	スタイルシート	
	6	画像の加工方法	
	7	テーブル	
	8	フォーム	
	9	フレーム	
	10	ギャラリーページ	
	11	タグ以外のテクニック①	
	12	タグ以外のテクニック②	
	13	タグ以外のテクニック③	
14	課題の実習①		
15	課題の実習②		
16	プレゼンテーション		
テキスト・参考文献・資料など 開講時に指定する。			
学びの手立て			
評価 期末に提出する課題で評価する。			

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	人的資源管理論 I	前期	水 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩橋 建治	2年	kiwahashi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 授業では、今日の人的資源管理（人事管理・労務管理）において見られる、さまざまなヒューマングループをとりあげ、そこでの問題を明らかにしていく。さらに、人的資源管理の諸制度とその動向を学ぶことで、従業員たちがよりよく働けるようになるための考え方の枠組を探求していく。	メッセージ 企業において「ひと」は、重要な資源のひとつである。ひとはなぜ働くのか。どうすれば目標を見だし努力するようになるのか。これらの問題について、働く環境が近年どのように変化しつつあるのかを踏まえた上で、検討していく。
	到達目標 ①働く場で生じる諸問題を理解する。②問題を解決しようとする際に生じるジレンマを知る。③業種・職種・その他状況に即した問題解決を提案できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	人的資源管理（人事管理・労務管理）とは	講義内容の復習
	2	職務と組織の設計（1）職務設計	同上
	3	職務と組織の設計（2）組織設計	同上
	4	ヒューマングループ（1）女性労働者①	同上
	5	ヒューマングループ（2）女性労働者②	同上
	6	ヒューマングループ（3）非正規労働者	同上
	7	ヒューマングループ（4）高齢労働者	同上
	8	ヒューマングループ（5）技術者	同上
	9	ヒューマングループ（6）海外派遣労働者	同上
	10	制度（1）雇用管理①	同上
	11	制度（2）雇用管理②	同上
	12	制度（3）労使関係	同上
	13	制度（4）ワーク・ライフ・バランス①	同上
	14	制度（5）ワーク・ライフ・バランス②	同上
15	グループディスカッション	同上	
16	まとめ	同上	
	テキスト・参考文献・資料など 適宜プリントを配布する。		
	学びの手立て 現実を多様な角度からとらえることが大切である。なぜ働くのかについて、意識を高めて欲しい。		
	評価 期末試験（80%）、中間レポート（20%）		

学びの継続	次のステージ・関連科目 人的資源管理論Ⅱ、中小企業経営論、および経営コースの各科目。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	人的資源管理論Ⅱ	後期	水4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩橋 建治	2年	kiwahashi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 組織のなかの人間行動への理解を深める。人的資源管理（人事管理・労務管理）の諸制度とその動向を検討したうえで、職場における「ひと」の働きに関する諸理論を学ぶ。	メッセージ 人間関係はなぜ重要なのか、どうすれば働く気になるのか、効果的なリーダーシップとはどのようなものか、人々を統合する企業理念とはいかなるものか、個人と組織との一体化にはどのような長所と短所があるのか、そして組織への愛着と誇りはいかにして生まれるのか、などのような問いについて考えていく。
	到達目標 ①働く場で生じる諸問題を理解する。②問題を解決しようとする際に生じるジレンマを知る。③業種・職種・その他状況に即した問題解決を提案できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	人的資源管理制度と組織における人間行動への視角	講義内容の復習
	2	制度 (1) 賃金①	同上
	3	制度 (2) 賃金②	同上
	4	制度 (3) 昇進管理①	同上
	5	制度 (4) 昇進管理②	同上
	6	制度 (5) キャリアと人材育成①	同上
	7	制度 (6) キャリアと人材育成②	同上
	8	組織 (1) 働く動機づけ (モチベーション) ①	同上
9	組織 (2) 働く動機づけ (モチベーション) ②	同上	
10	組織 (3) リーダーシップ	同上	
11	組織 (4) 組織文化・企業理念①	同上	
12	組織 (5) 組織文化・企業理念②	同上	
13	組織 (6) 組織学習	同上	
14	組織 (7) チームワーク	同上	
15	グループディスカッション	同上	
16	まとめ	同上	
実践	テキスト・参考文献・資料など 適宜プリントを配布する。		
	学びの手立て 現実を多様な角度からとらえることが大切である。「ひと」を扱う研究の性質上、心理学・社会学の理論も多用される。		
	評価 期末試験 (80%)、中間レポート (20%)		

学びの継続	次のステージ・関連科目 人的資源管理論Ⅰ、企業者史、および経営コースの各科目。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I	前期	火 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	李 相典	3年	i. sanjon@okiu. ac. jpまたは授業終了後	

学びの準備	ねらい 観光産業または観光ビジネスを巡る多様な課題を受講生の視覚から取り上げ、それに必要な改善方案を体系的に検討し、その結果を自らの力でまとめることができるようにする。	メッセージ 専門演習 I・II を通じて、観光マーケティングにおける多様な課題についての調査とその分析が行われます。観光現状に関する調査活動はグループ課題の形で、観光全般に関する問題意識や新たな提案に対しては個別研究(卒論)の形で行います。受講生間の協力と個人的な努力を強く願っています。
	到達目標 マーケティング・コース科目の履修において、専門演習 I と II は受講生自分が課題を探し、その改善方案を自分の考えに基づいて提案するプロセスを学習する時間である。マーケティングの分野で活躍するためには、多様な課題に向き合ったときに、どのようなソリューションが適切なのかを判断できるような力が必要である。本講義は観光産業や観光ビジネスにおいて、受講生自分が持っている課題や問題意識について、そのソリューションが提案できるようなスキルを身に付けることを目標とする。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション、グループ分け	
	2	調査研究テーマおよびグループ課題調整	
	3	グループ課題の基礎調査実施 I	
	4	グループ課題の基礎調査実施 II	
	5	グループ課題の基礎調査結果発表 I	グループ発表
	6	グループ課題の基礎調査結果発表 II	同上
	7	フィールドワーク計画樹立 I	調査対象探索
	8	フィールドワーク計画樹立 II	調査実行計画
	9	フィールドワーク計画報告	
	10	フィールドワーク実施 I	グループ別調査
	11	フィールドワーク実施 II	同上
	12	フィールドワーク実施 III	同上
	13	グループ課題の最終発表 I	グループ発表
	14	グループ課題の最終発表 II	同上
15	グループ課題の総合ディスカッション		
16	専門演習 I のまとめ。		

実践	テキスト・参考文献・資料など 1. テキスト：使用しません。適宜資料を配布したり、参考文献を提示します。
----	---

学びの手立て	1. 遅刻や無断欠席は成績評価に積極的に反映しますので、ご注意ください。 (やむを得ず遅刻・欠席の場合、事前にメールで連絡してください) 2. 積極的にグループ課題に参加しながら、協力してください。 3. グループ課題の準備課程と最終の発表(報告書)で評価します。
--------	---

評価	1. 出席・受講態度50%：5回以上の遅刻や無断欠席の場合は履修できません。 →グループ間のディスカッションへの積極的な参加には加点があります。 2. グループ課題50%：準備課程30%。報告書20%。 [報告内容の水準と、グループ活動の過程、参与・熱情などを総合的に評価します]
----	---

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：マーケティング・リサーチと関連した科目は役に立てると思います。 次のステージ：観光マーケティングと関連した様々な書籍や論文を3本以上読んでみてください。
-------	---

科目基本情報	科目名 専門演習 I	期 別	曜日・時限	単 位
		前期	月 3	2
	担当者 佐久本 朝一	対象年次	授業に関する問い合わせ	
		3年		

学 び の 準 備	ねらい ベンチャービジネスとして独立開業を目指すのに重要な経営計画書の作成や商品開発能力の育成に関する実習も行う予定である。	メッセージ
-----------------------	---	-------

学 び の 準 備	到達目標 比較経営および日本企業におけるコミュニケーション能力や情報化の基礎的な理論を学んでいく。
-----------------------	--

学 び の 実 践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	毎回各自に割り当てられた経営学に関するテーマを発表する。	
	2	海外にての実地調査を予定している。	
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
16			

学 び の 実 践	テキスト・参考文献・資料など
-----------------------	----------------

学 び の 実 践	学びの手立て
-----------------------	--------

学 び の 実 践	評価
-----------------------	----

学 び の 継 続	次のステージ・関連科目
-----------------------	-------------

※ポリシーとの関連性 実務で活かせる理論と応用を学ぶ。自分で考えて、自ら動いていく力を付ける。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I	前期	水 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮森 正樹	3年	miyamori@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この授業を通して、大学で学んだ理論を実際のビジネス活動に応用する力をつける。また、積極的に授業やプロジェクトに参加して、協業して目標を成し遂げる経験を積む。	メッセージ ゼミの仲間は一生の友達となります。一緒に苦労した仲間として卒業後もつながっていきましょう。このゼミはプロジェクトおよび就職活動でかなり忙しいゼミとなります。これを乗り切って社会で通用する実力を付けましょう。
	到達目標 1. マーケティングの理論を幅広く、深く知る。 2. 学んだ理論を実務の諸現象に応用できる。 3. 実務において社会人とマーケティング用語を駆使して議論できる。 4. 自分で考え、自分で動けるようになる。 5. ゼミの仲間たちと力を合わせてプロジェクトを完遂させることを経験する。	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <p>企業と提携して、企業のかかえるマーケティング課題を一緒に考える。また、実務家との交流を通して専門的な知見を高める。</p> <p>前半3週：企業との合同プロジェクトのテーマ設定、企業との打ち合わせ 中盤10週：プロジェクトの実施 後半3週：成果のプレゼンテーション ※毎週、企業のケーススタディー (グループ討議)</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキストは特になし。参考文献は授業の中で適時指定していく。資料は必要な時に配布予定。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>履修の心構え： ①出席・授業への積極的参加を強く求める、②自分から動く、③課題提出は期日を守る、④ゼミ仲間を助ける。</p> <p>学びを深めるために： ①マーケティング科目を多く履修する、②マーケティング関連文献を読む、③日経MJを読む。</p>
<p>評価</p> <p>評価は次の項目の総合的な観点から行われる。 ①出席、②プロジェクトへの関与度合い、③発表、④授業での態度、⑤積極性 (自分で考えて自分で動いたか)</p>	

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>マーケティング関連科目を多く受講すること。自らマーケティングに関連した書籍を読むこと。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I	前期	月 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	鶴池 幸雄	3年	uike@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 選択したテキストから、財務諸表の重要性を認識し、それを利用することについての基礎学習を行った後、具体例について研究報告を行うことにより、応用力を養う。	メッセージ 会計の実践力を高めていくことを目標としています。講義での課題解決を通じて応用力を高めてください。
	到達目標 企業に生起する会計問題を理解、分析し、解決案を提示できる。	

学びの準備	到達目標 企業に生起する会計問題を理解、分析し、解決案を提示できる。

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 選択したテキストから、ゼミ生にレジメを作成し発表してもらい、それを討論する形で進める。企業会計全体についての理解を深めるために財務会計の文献を中心に学習する。同時に、資金繰りについて、パソコンを使った講義を行い、基礎的考察から、事例研究までを行い、応用事例について、報告を行わせる
	テキスト・参考文献・資料など 講義時に指示する
	学びの手立て 課題に対して、講義にもとづいた基本的な分析視点を活用するだけでなく、さらに多様な方法などを積極的に活用できるよう検索を通じてネットワークや文献を大いに利用してください。
	評価 授業への参加姿勢、レポート等を総合的に評価する。

学びの継続	次のステージ・関連科目 会計の基礎理論の実践的応用、解決、報告に関わる力をさらに高める。 専門演習 II 財務会計、経営分析 資金会計
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I	前期	水 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	天野 敦央	3年	第5-603番教室(研究室)	

学びの準備	ねらい 年間テーマを、「経営管理論」とする。本演習は3年次前期科目2.0単位、3年次後期科目2.0単位、合計4.0単位からなっている。経営学の基本的概念を正確に理解するために、毎回テーマを決めて討論する。このほかに、各自がそれぞれ好きなテーマ（経営学の諸分野の中から）と好きな地域を決めて、その地域の経営の実状についてくわしく調べる。	メッセージ
	到達目標	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>なお演習のイベント（ゼミ合宿・学園祭・コンパ）への学生諸君の積極的な参与を期待する。</p> <p>演習の展開計画</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>演習のすすめ方、評価のしかた</td></tr> <tr><td>2</td><td>研究対象</td></tr> <tr><td>3</td><td>研究対象</td></tr> <tr><td>4</td><td>アメリカ経営学</td></tr> <tr><td>5</td><td>（ゼミ合宿・必修）</td></tr> <tr><td>6</td><td>ドイツ経営学</td></tr> <tr><td>7</td><td>ドイツ経営学</td></tr> <tr><td>8</td><td>企業論</td></tr> <tr><td>9</td><td>企業論</td></tr> <tr><td>10</td><td>経営管理</td></tr> <tr><td>11</td><td>経営管理</td></tr> <tr><td>12</td><td>意思決定</td></tr> <tr><td>13</td><td>意思決定</td></tr> <tr><td>14</td><td>経営戦略</td></tr> <tr><td>15</td><td>（レポート提出・必修）</td></tr> </tbody> </table>	回数	内容	1	演習のすすめ方、評価のしかた	2	研究対象	3	研究対象	4	アメリカ経営学	5	（ゼミ合宿・必修）	6	ドイツ経営学	7	ドイツ経営学	8	企業論	9	企業論	10	経営管理	11	経営管理	12	意思決定	13	意思決定	14	経営戦略	15	（レポート提出・必修）
	回数	内容																															
	1	演習のすすめ方、評価のしかた																															
2	研究対象																																
3	研究対象																																
4	アメリカ経営学																																
5	（ゼミ合宿・必修）																																
6	ドイツ経営学																																
7	ドイツ経営学																																
8	企業論																																
9	企業論																																
10	経営管理																																
11	経営管理																																
12	意思決定																																
13	意思決定																																
14	経営戦略																																
15	（レポート提出・必修）																																
<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>（テキスト）未定 （参考文献） 古在由重（編）『哲学小辞典』岩波書店。 小川英次ほか（編）『経営学の基礎知識』有斐閣。 日録刊行会（編）『経営図書総目録2018』。</p>																																	
<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・演習科目なので、休まず出席してください。</li> <li>・積極的に多様なメディア（書籍、雑誌、新聞、TV等）で、情報を収集してください。</li> </ul>																																	
<p>評価</p> <p>演習への参加態度、課題提出、レポート提出等によって総合評価する。</p>																																	

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I	前期	月 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩橋 建治	3年	kiwahashi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	人的資源管理を中心とした、経営学に関するテキストの輪読、報告、および討論を行うことで、卒業論文執筆に向けて専門的な知識・理論を習得する。	好きになれるテーマや事例を見つけることが最重要。納得のいくまで悩んでほしい。何を書いたらいいか分からないときは、とにかくいろいろ読んでみることに。

到達目標	前期ゼミ終了までに個々の卒業論文の仮構成・仮タイトルを決定する。
------	----------------------------------

学びの実践	学びのヒント
	<p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>（4月）前期研究テーマの選択。それをもとに、報告のための課題文献の割り振り。                  （4月～7月）Power Pointを使った報告と討論。報告後、卒業論文作成にむけてのレポートと参考文献リストを作成・提出。                  （夏休み）卒業論文のための中間報告資料を作成（4000字程度）。中間報告は後期に行う。</p> <p>参考として、17年度受講生が扱ったテーマは以下のとおり。                  グループプロセス、学習する組織、モチベーション、チームワーク、リーダーシップ、ワークライフバランス、グローバル経営、顧客満足、広告、クラウドファンディング、ハイブランド、映画産業、アミューズメント業界、スターバックス、トヨタ自動車、保育園問題、など。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>受講生の意向を聞きながら決定する。17年度は、馬場杉夫ほか（2015）『マネジメントの航海図』中央経済社、若林満監修（2008）『経営組織心理学』ナカニシヤ出版、などを使用。</p>
	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・やむを得ず遅刻・欠席する場合は、事前にメールにて連絡すること。</li> <li>・討論では積極的な発言を求める。</li> </ul>
評価	授業参加度、演習への貢献度、および課題の完成度などにより総合的に評価する。

学びの継続	次のステージ・関連科目 専門演習 II
-------	------------------------

※ポリシーとの関連性 フィールドワークを通じて、ビジネス課題への取り組みを通して、理解力・表現力・問題解決能力を身につける。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I	前期	水 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	原田 優也	3年	原田優也研究室 (5633) mongkhol@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	マーケティングのビジネス環境、広告活動、地域消費者、地域物流などに触れ、観察や聞き取り調査などを行うことによって、ビジネス仕組み、マーケティングの仕組みを学ぶことが重要な技法の一つとされている。フィールドワークを通じて、マーケティングの楽しさを体験してもらうことが本科目の目的である。	演習、実習の形式を併用して授業を行う。マーケティングコースの礎演習I・IIの単位取得者が望ましい。

到達目標
1) ビジネス課題を発見し、調査目的・調査方法・調査活動・分析方法などを企画できる基礎能力を育成する。
2) ビジネス課題に対して、自分で考える力を身につける。
3) 調査報告書・レポートおよび卒業論文計画書の作成能力を身につける。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス・ゼミ運営の紹介	
	2	卒業論文テーマの計画案(観光マーケティング、消費行動分析、商品開発、広告戦略など)	卒論テーマの選定
	3	グループワーク 1 (ビジネス課題)	同上
	4	グループワーク 2 (関連資料の収集)	同上
	5	グループワーク 3 (現地調査の準備)	同上
	6	グループワーク 4 (企業訪問の準備)	同上
	7	企業訪問・現地調査の実施 (グループ 1～グループ 3)	現地調査の準備
	8	企業訪問・現地調査の実施 (グループ 4～グループ 6)	同上
	9	企業訪問・現地調査の発表会 (グループ 1、グループ 2)	調査報告書の作成
	10	企業訪問・現地調査の発表会 (グループ 3、グループ 4)	同上
	11	企業訪問・現地調査の発表会 (グループ 5、グループ 6)	同上
	12	卒業論文テーマの決定	卒業論文の情報収集
	13	卒業論文テーマの関連資料収集	資料収集の準備
	14	卒業論文計画書の作成	卒業論文の作成
15	卒業論文計画書の点検	同上	
16	卒業論文計画書の提出		

実践	テキスト・参考文献・資料など
	◇フィリップ・コトラー、ヘルマワ・カルタジャヤ・ホイ・デンファン (2007) 『ASEANマーケティング』McGrawHill
	◇恩蔵直人監修 (1999) 『コトラーのマーケティング入門』ピアソンエデュケーション
	◇田中洋 (2008) 『消費者行動論体系』中央経済社、◇その他使用テキストについては講義中に紹介します

学びの手立て
【履修の心構え】
1) 第1回目の授業は必ず出席すること。
2) ゼミ生はフィールドワークに必ず参加すること。
3) 授業に参加し、積極的に学ぶ姿勢(報告に対する質疑応答、パティシペーションなど)が必要である。

評価
◇平常点(フィールドワークへの取り組み方、ゼミに対する意欲など) (50%)
◇企業訪問の調査報告書および卒業論文計画書の提出と発表 (50%)

学びの継続	次のステージ・関連科目
	次のステージ: マーケティングコースの専門演習II、卒業論文演習I・II

※ポリシーとの関連性

中心市街地でのフィールドワークを通じて、地域商業の抱える課題を発見し、問題解決のための提案を行うことができる。

[ /演習]

科目基本情報	科目名 専門演習 I	期 別 前期	曜日・時限 木 3	単 位 2
	担当者 髭白 晃宜	対象年次 3 年	授業に関する問い合わせ t.higeshiro@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい ①卒論執筆に必要とされる技能の習得. ②グループワーク、フィールドワークの実践. ③卒論執筆にむけて各自の研究に対する問題意識の明確化.	メッセージ 本演習では基礎文献の購読を通じて、日本型流通の近現代史を学ぶと同時に、レジュメ作成や報告等の技法を訓練して、卒論執筆に必要な技能を習得していきます。 また、沖縄県内の商店街におけるフィールドワークを予定しています。中心市街地活性化について学生の視点から問題解決のための提言をまとめてもらいます。
	到達目標 ①商業と都市・市場の発展に関わる問題への興味関心を喚起する。 ②これまでに習得したマーケティングに関する知識の活用と応用。 ③レポート・論文執筆および口頭報告のための基礎・応用能力の習得。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	
	1	ガイダンス	
	2	レジュメ作成方法とスライド作成方法について	
		時間外学習の内容	
	3	ゼミにおける議論の進め方について	課題テキスト報告の準備作業
	4	課題テキスト報告①	使用テキストの熟読と疑問点の列挙
	5	課題テキスト報告②	同上
	6	課題テキスト報告③	同上
	7	課題テキスト報告④	同上
	8	課題テキスト報告⑤	同上
	9	課題テキスト報告⑥	レポート課題の提出
	10	フィールドワーク①：沖縄県商店街の調査①	グループによる共同調査作業
	11	フィールドワーク②：沖縄県商店街の調査②	同上
	12	フィールドワーク③：沖縄県商店街の調査③	同上
	13	フィールドワーク④：沖縄県商店街の調査④	中間報告にむけて準備作業
	14	フィールドワーク⑤：中間報告①	これまでの調査内容をまとめる
	15	フィールドワーク⑥：中間報告②	同上
	16	卒業論文執筆にむけて	卒業論文のテーマ設定
	テキスト・参考文献・資料など ※以下のテキストを講義の際に必ず持参すること。 使用テキスト： 満菌勇『商店街はいま必要なのか』講談社現代新書（講談社），2015年		
	学びの手立て ①テキストは必ず購入して、時間外に必ず予習・復習ができる態勢を整えてください。 ②欠席5回以上で成績評価は「不可」となります。また、30分以上の遅刻は欠席扱いとします。 ③ゼミでは頻繁に報告および議論を行います。 ④商店街でフィールドワークを行います。時間外の調査活動があります。 ⑤ゼミ員相互の交流や情報交換は密に行うように。ゼミは参加者全員で行うものです。		
	評価 ◆課題テキスト報告：25点 ◆レポート課題：25点 ◆フィールドワーク中間報告：35点 ◆平常点：15点 合計：100点		

学びの継続	次のステージ・関連科目 より専門性を有するテーマについて、自らで調査・分析・考察を行うことができるスキルを養います。 「卒業論文演習 I」に向けて、学生の興味関心のあるテーマ・問題意識を引き出します。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習 I	前期	木 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	菅森 聡	3年		

学びの準備	ねらい この演習では、管理会計に関する専門的な知識を習得し、現代企業に関する分析課題を自ら設定しプレゼンテーションすることで基礎力、応用力を養うことを目的としています。	メッセージ 管理会計は企業の経済活動が一定の成果をあげられるように、経営者や各階層の管理者に対して、経営管理のための財務情報や非財務情報を提供するものです。管理会計を深く理解することは企業の活動がどのようなものかということを知ることにつながっていきます。管理会計だけでなく、これを利用する企業とその活動に興味を持って取り組んでください。
	到達目標 ・専門書について報告・議論をすることで、プレゼンテーション能力とテーマについて考える能力を身に付ける。 ・自ら設定した発表することで、自主的な問題設定とその解決の能力を身に付ける。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1		
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
	16		
	テキスト・参考文献・資料など 授業内で連絡します。		
	学びの手立て ・無断欠席、遅刻は厳禁です。やむを得ず欠席する場合は、事前に連絡をしてください。 ・報告や発表が多くあります。ゼミの場で活発な議論を行うために設定した教科書を熟読し、疑問や意見を持つようにしてください。		
	評価 平常点（ゼミへの意欲・積極性）50%と課題（発表とレジュメなど）50%で評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目 工業簿記、原価計算、業績管理会計、戦略管理会計
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習Ⅱ	後期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	李 相典	3年	i. sanjon@okiu. ac. jpまたは授業終了後	

学びの準備	ねらい 観光産業または観光ビジネスを巡る多様な課題を受講生の視覚から取り上げ、それに必要な改善案を体系的に検討し、その結果を自らの力でまとめることができるようにする。	メッセージ 専門演習Ⅰ・Ⅱを通じて、観光マーケティングにおける多様な課題についての調査とその分析が行われます。観光現状に関する調査活動はグループ課題の形で、観光全般に関する問題意識や新たな提案に対しては個別研究(卒論)の形で行います。受講生間の協力と個人的な努力を強く願っています。
	到達目標 マーケティング・コース科目の履修において、専門演習ⅠとⅡは受講生自分が課題を探し、その改善案を自分の考えに基づいて提案するプロセスを学習する時間である。マーケティングの分野で活躍するためには、多様な課題に向き合ったときに、どのようなソリューションが適切なのかを判断できるような力が必要である。本講義は観光産業や観光ビジネスにおいて、受講生自分が持っている課題や問題意識について、そのソリューションが提案できるようなスキルを身に付けることを目標とする。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
		回	テーマ
		1	オリエンテーション
		2	個別研究テーマの調査
		3	ベース論文調査
		4	ベース論文発表Ⅰ
		5	ベース論文発表Ⅱ
		6	ベース論文発表Ⅲ
		7	調査設計
		8	調査設計報告Ⅰ
		9	調査設計報告Ⅱ
		10	調査実施Ⅰ
		11	調査実施Ⅱ
		12	調査結果の発表Ⅰ
		13	調査結果の発表Ⅱ
		14	調査結果の発表Ⅲ
		15	個人研究の総合ディスカッション
		16	専門演習Ⅱのまとめ
	テキスト・参考文献・資料など		
	1. テキスト：使用しません。適宜資料を配布したり、参考文献を提示します。		
	学びの手立て		
	1. 遅刻や無断欠席は成績評価に積極的に反映しますので、ご注意ください。 (やむを得ず遅刻・欠席の場合、事前にメールで連絡してください)		
	2. 積極的に自分の研究以外他人の研究課題にも興味を持ちながら、参加してください。		
	3. 個人研究の準備課程全般と最終の発表(報告書)で評価します。		
	評価		
	1. 出席・受講態度50%：5回以上の遅刻や無断欠席の場合は履修できません。 →ディスカッションへの積極的な参加には加点があります。		
	2. 個別研究50%：準備課程30%。報告書20%。 [報告内容の水準と、研究活動の過程を総合的に評価します]		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：マーケティング・リサーチと関連した科目は役に立てると思います。 次のステージ：観光マーケティングと関連した卒論準備のために、関連書籍や論文を10本以上読んでみてください。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習Ⅱ	後期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	佐久本 朝一	3年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
-------	-----	-------

学びの準備	到達目標 各自が自己のプレゼンテーションや議論をうまく行えるようになること。
-------	---

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 1 比較経営論の一般的な文献を選定させ、発表する。 2 ベンチャービジネスにおける経営計画書の作成。 3 商品開発のアイデア作成能力を育成する。
-------	--

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 教科書 技術革新下の労働と日本型企业社会 INNOVATION AND THE JAPANESE STYLE OF BUSINESS SOCIETY 著者 佐久本朝一 発行所 国際経営研究所
-------	--

学びの実践	学びの手立て  
-------	----------------

学びの実践	評価 各自が選んだ経営に関するテーマの論文を作成し提出する。
-------	-----------------------------------

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習Ⅱ	後期	水4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮森 正樹	3年	miyamori@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この授業を通して、大学で学んだ理論を実際のビジネス活動に応用する力をつける。また、積極的に授業やプロジェクトに参加して、協業して目標を成し遂げる経験を積む。	メッセージ ゼミの仲間は一生の友達となります。一緒に苦労した仲間として卒業後もつながっていきましょう。このゼミはプロジェクトおよび就職活動でかなり忙しいゼミとなります。これを乗り切って社会で通用する実力を付けましょう。
	到達目標 1. マーケティングの理論を幅広く、深く知る。 2. 学んだ理論を実務の諸現象に応用できる。 3. 実務において社会人とマーケティング用語を駆使して議論できる。 4. 自分で考え、自分で動けるようになる。 5. ゼミの仲間たちと力を合わせてプロジェクトを完遂させることを経験する。	

学びの準備	到達目標 1. マーケティングの理論を幅広く、深く知る。 2. 学んだ理論を実務の諸現象に応用できる。 3. 実務において社会人とマーケティング用語を駆使して議論できる。 4. 自分で考え、自分で動けるようになる。 5. ゼミの仲間たちと力を合わせてプロジェクトを完遂させることを経験する。
-------	--

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>企業と提携して、企業のかかえるマーケティング課題を一緒に考える。また、実務家との交流を通して専門的な知見を高める。 前半3週：企業の共通課題発見 中盤10週：合同プロジェクト 後半3週：プレゼンテーションの実施 ※卒業論文のテーマを決めて、情報収集など4年時からのゼミナールに備える。</p>
-------	---

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキストは特になし。参考文献は授業の中で適時指定していく。資料は必要な時に配布予定。</p>
-------	---

学びの実践	<p>学びの手立て</p> <p>履修の心構え： ①出席・授業への積極的参加を強く求める、②自分から動く、③課題提出は期日を守る、④ゼミ仲間を助ける。</p> <p>学びを深めるために： ①マーケティング科目を多く履修する、②マーケティング関連文献を読む、③日経MJを読む。</p>
-------	---

学びの実践	<p>評価</p> <p>評価は次の項目の総合的な観点から行われる。 ①出席、②プロジェクトへの関与度合い、③発表、④授業での態度、⑤積極性（自分で考えて自分で動いたか）</p>
-------	---

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>マーケティング関連科目を多く受講すること。マーケティングに関連した書籍を読むこと。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習Ⅱ	後期	月4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	鶴池 幸雄	3年	uike@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 選択したテキストから、財務諸表の重要性を認識し、それを利用することについての基礎学習を行った後、具体例について研究報告を行うことにより、応用力を養う。	メッセージ 会計の実践力を高めていくことを目標としています。ゼミナールでの課題解決を通じて応用力を高めてください。
	到達目標 企業に生起する会計問題を理解、分析し、解決案を提示できる	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 選択したテキストから、ゼミ生にレジメを作成し発表してもらい、それを討論する形で進める。企業会計全体についての理解を深めるために財務会計の文献だけでなく、基本的な管理会計の分野についても学習する。同時に、経営分析について、パソコンを使った講義を行い、基礎的考察から、事例研究までを行い、応用事例について、報告を行わせる。
	テキスト・参考文献・資料など 講義時に指示する

学びの実践	学びの手立て 課題に対して講義に基づいた基本的な分析視点を活用するだけでなく、さらに多様な方法などを積極的に活用できるように検索を通じて、ネットワークや文献を大いに利用してください。
	評価 課題、討論への取り組み、報告など 30 報告書の提出 70

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習Ⅱ	後期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	天野 敦央	3年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	年間テーマを、「経営管理論」とする。本演習は3年次前期科目2.0単位、3年次後期科目2.0単位、合計4.0単位からなっている。経営学の基本的概念を正確に理解するために、毎回テーマを決めて討論する。このほかに、各自がそれぞれ好きなテーマ（経営学の諸分野の中から）と好きな地域を決めて、その地域の経営の実状についてくわしく調べる。	
到達目標		

学びの実践	学びのヒント
	<p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>（授業の展開計画） 本演習の展開は、つぎのように予定している。</p> <p>（回数 内容）</p> <p>16 (キャリア課 進路ガイダンス)</p> <p>17 経営組織</p> <p>18 労務管理</p> <p>19 (卒業年次ゼミテーマ登録カード提出)</p> <p>20 財務管理</p> <p>21 財務管理</p> <p>22 販売管理</p> <p>23 販売管理</p> <p>24 計画と統制</p> <p>25 (キャリア課 進路面接)</p> <p>26 いわゆる「日本の経営」</p> <p>27 後期末：ゼミ年報記事の提出締切り</p> <p>28 (合説 参加)</p> <p>29 企業の社会的責任</p> <p>30 (新ゼミ生 募集計画)</p> <p>31 [ 予備日 ]</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>(テキスト) 未定</p> <p>(参考文献)</p> <p>古在由重(編)『哲学小辞典』岩波書店。</p> <p>小川英次ほか(編)『経営学の基礎知識』有斐閣。</p> <p>日録刊行会(編)『経営図書総目録2018』。</p>
	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・演習科目なので、休まず出席してください。</li> <li>・積極的に多様なメディア（書籍、雑誌、新聞、TV等）で、情報を収集してください。</li> </ul>
評価	演習への参加態度、課題提出、レポート提出等によって総合評価する。

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>卒業論文演習Ⅰ(産 企業)</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性 ビジネス課題への取り組みを通して、  
理解力・表現力・問題解決能力を身につける。

[ / 演習 ]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習Ⅱ	後期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	原田 優也	3年	研究室：5633 mongkhol@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい ビジネス課題に対して自分で考える力を身につける。	メッセージ ビジネス実例を体験するマーケティング専門科目であり、フィールド（現場）を通じてビジネス実態を知ること。 演習、実習の形式を併用して授業を行う。
	到達目標 1) ビジネス課題を発見し、調査目的・調査方法・調査活動・分析方法などを企画できる基礎能力を育成する。 2) ビジネス課題に対して、自分で考える力を身につける。 3) 調査報告書・レポートおよび卒業論文の作成能力を習得する。	

学びの準備	到達目標 1) ビジネス課題を発見し、調査目的・調査方法・調査活動・分析方法などを企画できる基礎能力を育成する。 2) ビジネス課題に対して、自分で考える力を身につける。 3) 調査報告書・レポートおよび卒業論文の作成能力を習得する。

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>第01回：後期日程のガイダンス</p> <p>第02回～第04回：卒論の計画書の発表</p> <p>第05回～第06回：卒論の計画書の修正・現地調査のデータ収集</p> <p>第07回～第08回：卒論の中間発表と討論</p> <p>第09回～第12回：卒論の作成と内容点検</p> <p>第13回～第15回：卒論の最終確認（原稿の確認）</p> <p>第16回：卒業論文の提出</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>◇Michael R. Solomon [著]；大竹光寿 [ほか] 訳（2015）『ソロモン消費者行動論』丸善出版 ◇ケビン・レーン・ケラー（著）、恩蔵 直人（監訳）（2010）『戦略的ブランド・マネジメント』東急エージェンシー ◇山根 節（2015）『MBAエグゼクティブズ』中央経済社、◇その他使用テキストについては講義中に紹介します</p>

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>◇Michael R. Solomon [著]；大竹光寿 [ほか] 訳（2015）『ソロモン消費者行動論』丸善出版 ◇ケビン・レーン・ケラー（著）、恩蔵 直人（監訳）（2010）『戦略的ブランド・マネジメント』東急エージェンシー ◇山根 節（2015）『MBAエグゼクティブズ』中央経済社、◇その他使用テキストについては講義中に紹介します</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>履修生は卒業論文、卒業プロジェクト、課題研究のいずれかを一つ選択し、取り組みます。【1】卒業論文：興味があるテーマについて文献調査し、テーマを絞り込んでから対象とする問題点などについて客観的に分析し、卒業論文を執筆する。【2】卒業プロジェクト：「実用可能性の高い新商品開発」についてアイデアを出し、マーケティング・プランを作成する。新商品の開発段階・背景・生産工程、競合他社のリサーチ、新商品に対する消費者の購買行動について調査・分析を行う作業を通して、メーカーに必要な知識や技能を習得します。【3】課題研究：特定の研究課題を取り上げ、分析する。直面している問題・課題を明確にし、原因を究明し、改善策などを立案する。【履修の心構え】授業に参加し、積極的に学ぶ姿勢（報告に対する質疑応答、パティシペーションなど）が必要である。</p>

学びの実践	<p>学びの手立て</p> <p>履修生は卒業論文、卒業プロジェクト、課題研究のいずれかを一つ選択し、取り組みます。【1】卒業論文：興味があるテーマについて文献調査し、テーマを絞り込んでから対象とする問題点などについて客観的に分析し、卒業論文を執筆する。【2】卒業プロジェクト：「実用可能性の高い新商品開発」についてアイデアを出し、マーケティング・プランを作成する。新商品の開発段階・背景・生産工程、競合他社のリサーチ、新商品に対する消費者の購買行動について調査・分析を行う作業を通して、メーカーに必要な知識や技能を習得します。【3】課題研究：特定の研究課題を取り上げ、分析する。直面している問題・課題を明確にし、原因を究明し、改善策などを立案する。【履修の心構え】授業に参加し、積極的に学ぶ姿勢（報告に対する質疑応答、パティシペーションなど）が必要である。</p>
	<p>評価</p> <p>◇平常点（フィールドワークへの取り組み方、ゼミに対する意欲など）（50%） ◇卒業論文の発表と内容（50%）</p>

学びの継続	<p>評価</p> <p>◇平常点（フィールドワークへの取り組み方、ゼミに対する意欲など）（50%） ◇卒業論文の発表と内容（50%）</p>
	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>次のステージ：マーケティングコースの卒業論文演習I、卒業論文演習II</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>次のステージ：マーケティングコースの卒業論文演習I、卒業論文演習II</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習Ⅱ	後期	月3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩橋 建治	3年	kiwahashi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	人的資源管理を中心とした、経営学に関する個々の卒業論文について、中間報告を行う。報告と討論をもとに内容を修正し、具体的な方向性を決めていく。	研究を通じて、自分自身が何を望んでいるのか（自己分析）、その研究を深めることで誰にどのような貢献ができるのか（社会における役割）を、納得のいくまで考えて欲しい。

到達目標	個々の卒業論文において、適用する理論を整理する。または、研究対象となる業界の概要を理解する。
------	--

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>卒業論文の中間報告と討論を毎回行い、そのつど今後の課題（イシュー、文献、事例など）を提示する。</p> <p>参考として、17年度受講生が扱ったテーマは以下のとおり。                  グループプロセス、学習する組織、モチベーション、チームワーク、リーダーシップ、ワークライフバランス、グローバル経営、顧客満足、広告、クラウドファンディング、ハイブランド、映画産業、アミューズメント業界、スターバックス、トヨタ自動車、保育園問題、など。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>個々の卒業論文の仮構成に沿って、適宜紹介する。</p>

学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・やむを得ず遅刻・欠席する場合は、事前にメールにて連絡すること。</li> <li>・討論では積極的な発言を求める。</li> </ul>
--------	--

評価	授業参加度、演習への貢献度、および課題の完成度などにより総合的に評価する。
----	---------------------------------------

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>卒業論文演習Ⅰ</p>
-------	-----------------------------------

※ポリシーとの関連性

中心市街地でのフィールドワークを通じて、地域商業の抱える課題を発見し、問題解決のための提案を行うことができる。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習Ⅱ	後期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	髭白 晃宜	3年	t.higeshiro@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>①卒論執筆に必要とされる技能の習得。                  ②グループワーク、フィールドワークの実践。                  ③卒論執筆にむけて各自の研究に対する問題意識の明確化。</p>	<p>沖縄県内の商店街におけるフィールドワークを予定しています。中心市街地活性化について学生の視点から問題解決のための提言をまとめてもらいます。最終的に、調査を行った商店街に対して調査報告書の提出ならびに詳細な調査報告を行います。</p>
到達目標	<p>①商業と都市・市場の発展に関わる問題への興味関心を喚起する。                  ②これまでに習得したマーケティングに関する知識の活用と応用。                  ③レポート・論文執筆および口頭報告のための基礎・応用能力の習得。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	フィールドワーク①：沖縄県商店街の調査①	グループによる共同調査作業
	3	フィールドワーク②：沖縄県商店街の調査②	同上
	4	フィールドワーク③：沖縄県商店街の調査③	同上
	5	フィールドワーク④：沖縄県商店街の調査④	同上
	6	フィールドワーク⑤：中間報告①	報告内容について議論する
	7	フィールドワーク⑥：中間報告②	同上
	8	フィールドワーク⑦：沖縄県商店街の調査⑤	グループによる共同調査作業
	9	フィールドワーク⑧：沖縄県商店街の調査⑥	同上
	10	フィールドワーク⑨：沖縄県商店街の調査⑦	同上
	11	フィールドワーク⑩：沖縄県商店街の調査⑧	同上
	12	フィールドワーク⑪：沖縄県商店街の調査⑨	同上
	13	フィールドワーク⑫：沖縄県商店街の調査⑩	同上
14	フィールドワーク⑬：最終報告①	報告書の提出	
15	フィールドワーク⑭：最終報告②		
16	卒業論文執筆にむけて	卒業論文のテーマ設定	
実践	テキスト・参考文献・資料など ※以下のテキストを講義の際に必ず持参すること。 使用テキスト： 満菌勇『商店街はいま必要なのか』講談社現代新書（講談社），2015年		
学びの手立て	①テキストは必ず購入して、時間外に必ず予習・復習ができる態勢を整えてください。 ②欠席5回以上で成績評価は「不可」となります。また、30分以上の遅刻は欠席扱いとします。 ③ゼミでは頻繁に報告および議論を行います。 ④商店街でフィールドワークを行います。時間外の調査活動があります。 ⑤ゼミ員相互の交流や情報交換は密に行うように。ゼミは参加者全員で行うものです。		
評価	◆フィールドワーク中間報告：15点 ◆フィールドワーク最終報告：30点 ◆フィールドワーク最終報告書：40点 ◆平常点：15点 合計：100点		

学びの継続	次のステージ・関連科目 より専門性を有するテーマについて、自らで調査・分析・考察を行うことができるスキルを養います。「卒業論文演習Ⅰ」に向けて、学生の興味関心のあるテーマ・問題意識を引き出します。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	専門演習Ⅱ	後期	木4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	菅森 聡	3年		

学びの準備	ねらい この演習では、管理会計に関する専門的な知識を習得し、現代企業に関する分析課題を自ら設定しプレゼンテーションすることで基礎力、応用力を養うことを目的としています。	メッセージ 管理会計は企業の経済活動が一定の成果をあげられるように、経営者や各階層の管理者に対して、経営管理のための財務情報や非財務情報を提供するものです。管理会計を深く理解することは企業の活動がどのようなものかということを知ることにつながっていきます。管理会計だけでなく、これを利用する企業とその活動に興味を持って取り組んでください。
	到達目標 ・専門書について報告・議論をすることで、プレゼンテーション能力とテーマについて考える能力を身に付ける。 ・自ら設定した発表することで、自主的な問題設定とその解決の能力を身に付ける。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1		
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
	16		
	テキスト・参考文献・資料など 授業内で連絡します。		
	学びの手立て ・無断欠席、遅刻は厳禁です。やむを得ず欠席する場合は、事前に連絡をしてください。 ・報告や発表が多くあります。ゼミの場で活発な議論を行うために設定した教科書を熟読し、疑問や意見を持つようにしてください。		
	評価 平常点（ゼミへの意欲・積極性）50%と課題（発表とレジュメなど）50%で評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目 工業簿記、原価計算、業績管理会計、戦略管理会計
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	戦略管理会計	後期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	菅森 聡	3年		

学びの準備	ねらい 管理会計は経営管理を能率的に実施できるように、会計情報を提供し、経営管理活動を支援することにあります。本講義では管理会計の練習問題を解くことで、各種の管理会計技法の習得を目的とします。	メッセージ 管理会計は経営管理のための会計です。経営管理を行う経営者の立場を想像しながら受講するとよいでしょう。
	到達目標 ・マネジメントの会計である管理会計に関する知識を習得する。 ・管理会計技法を習得し、実際に計算できるようになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	該当する章の予習と復習
	2	事業部制会計 I	
	3	事業部制会計 II	
	4	ABC/ABM I	
	5	ABC/ABM II	
	6	原価企画 I	
	7	原価企画 II	
	8	品質原価計算 I	
9	品質原価計算 II		
10	ライフサイクルコスト I		
11	ライフサイクルコスト II		
12	環境管理会計 I		
13	環境管理会計 II		
14	バランス・スコアカード		
15	まとめ		
16	テスト		
	テキスト・参考文献・資料など 『管理会計入門ゼミナール [改訂版]』高栢真一編著、創成社		
	学びの手立て ・毎回、練習問題を解いてもらいますので計算機を持ってくるようにしてください。 ・小テストを2回行う予定ですのでしっかり復習するようにしてください。		
	評価 小テスト30%とテスト70%で評価します。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目 工業簿記、原価計算
-------	----------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	セールス・プロモーション	前期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮森 正樹	3年	miyamori@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この授業を通して、マーケティング・コミュニケーションの成り立ちとその活用方法学び、いかにして商品・サービスが必要とされている消費者の元に届けられるかを知る。	メッセージ 専門科目を単なる単位・学ぶべきものとするのではなく、授業を通してその科目の楽しさ、面白さ、社会への影響に気づくことが大切です。
	到達目標 1. セールス・プロモーションの概要を知る。 2. マーケティング・コミュニケーションの基本理論を学ぶ。 3. セールス・プロモーションとマーケティングの関係性を知る。 4. 基本的なセールス・プロモーションの企画が作成できるようになる。	

学びの準備	到達目標 1. セールス・プロモーションの概要を知る。 2. マーケティング・コミュニケーションの基本理論を学ぶ。 3. セールス・プロモーションとマーケティングの関係性を知る。 4. 基本的なセールス・プロモーションの企画が作成できるようになる。
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	セールス・プロモーションとは	
	3	マーケティングとセールス・プロモーションの関係性	テキストを読む
	4	広告とプロモーションの違い	テキストを読む
	5	顧客の行動を変える	テキストを読む
	6	効果的なプロモーションとは	テキストを読む
	7	チラシ広告の現状	テキストを読む
	8	買う・買わないを決める要因	テキストを読む
	9	インスタ・プロモーション	テキストを読む
	10	セールス・プロモーションの3つのタイプ	テキストを読む
	11	消費者プロモーション	テキストを読む
	12	トレード・プロモーション	テキストを読む
	13	リテール・プロモーション	テキストを読む
	14	プロモーションの計画と実施	テキストを読む
	15	プロモーションの評価	テキストを読む
16	期末試験		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：セールス・プロモーションの実際。また、必要に応じて授業の中でプリントを配布する。参考文献は必要な時に発表する。
-------	--

学びの実践	学びの手立て 履修の心構え： ①出席・授業への積極的参加を強く求める、②自分から動く、③課題提出は期日を守る、④他の学生に迷惑を掛けない。  学びを深めるために： ①マーケティングとセールス・プロモーションの関係性を知る、②議論に積極的に参加する、③日経MJを読む。
-------	--

学びの実践	評価 評価は次の項目の総合的な観点から行われる。 ①出席、②期末試験、③レポート、④授業での態度、⑤課題提出物。
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 ビジネス関連科目を多く受講すること。マーケティングに関連した書籍を読むこと。一般教養科目をしっかりと学ぶこと。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	税法	前期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-上原 香代子	3年	授業終了後に教室で受け付けます。その他E-mailでも可能です。	

学びの準備	ねらい 税法の基礎的内容の修得が目標です。最初の講義は、主に税法条文の読み方を学習し、その後各税法（所得税法、法人税法、相続税法、消費税法等）の基本的な内容と判例等の具体的事例を解説します。	メッセージ 税金は私たちの生活に深くかかわっており、その基本的な知識を学習することはとても有意義なことです。
	到達目標 企業や会計事務所等で役立つための基礎的な知識の修得を目標とします。また税理士資格試験の税法科目を受験する際に、必要最低限の知識として役立てます。	

学びの準備	到達目標 企業や会計事務所等で役立つための基礎的な知識の修得を目標とします。また税理士資格試験の税法科目を受験する際に、必要最低限の知識として役立てます。
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス（学習内容及び評価方法）、日本の税制について	質問の準備
	2	憲法と税法 - 租税の意義、租税法主義等	授業の予習と復習
	3	各税法の概念と課税体系 I（条文の読み方を含む）	同上
	4	各税法の概念と課税体系 II（条文の読み方を含む）	同上
	5	所得税法 -1	同上
	6	所得税法 -2	同上
	7	所得税法 -3	同上
	8	法人税法 -1	同上
	9	法人税法 -2	同上
	10	相続税法 -1	同上
	11	相続税法 -2	同上
	12	消費税法 -1	同上
	13	消費税法 -2	同上
	14	その他 -1	同上
	15	その他 -2	同上
16	期末テスト		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 基本テキスト：（資料配布） 参考テキスト：税務大学校『税法入門』『国税通則法』『所得税法』『法人税法』『相続税法』（国税庁ホームページ） 参考文献：井上徹二『租税法と税制』創成社
-------	---

学びの実践	学びの手立て 参考テキストとして税務大学校（国税庁のホームページでダウンロード可能）の『税法入門』等も使用しますが、各回の配布資料を参考に重要ポイントをまとめてもらいます。
-------	---

学びの実践	評価 授業参加度及び課題内容評価（30%）、期末テスト（70%）の総合評価
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：税務会計、非営利会計、会社法など。
-------	---------------------------------------

※ポリシーとの関連性

ビジネス社会や地域に貢献する人材の育成と、実学志向の教育を提供します。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	税務会計	後期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-上原 香代子	3年	授業終了後に教室で受け付けます。その他E-mailでも可能です。	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	本講義では、税務会計の基礎及び応用知識の修得を目標としています。企業会計は、経営方針の判断等に役立つ会計であるのに対し、税務会計の基本は、法律で定められた課税要件の下で行う会計で、政策的な要素も含まれます。その違いも確認できるようにします。	法人税は、会計上の利益を基に課税所得の計算を行いますので、会計学及び商業簿記の知識も必要です。上級（1、2級）の簿記検定を目指すことをお勧めします。
到達目標	企業や会計事務所等で役立つための基礎的な知識の修得を目標とします。また税理士資格試験の税法科目を受験する際に、基礎的な知識として役立てます。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス 第1編 法人税法 第1章 法人税の基礎概念 第1節～第3節	質問の準備
	2	第1編 法人税法 第1章 法人税の基礎概念 第4節～第7節	授業の予習と復習
	3	第2章 益金の概念と計算	同上
	4	第3章 損金の概念と計算 第1節～第2節	同上
	5	第3章 損金の概念と計算 第3節	同上
	6	第3章 損金の概念と計算 第4節～第5節	同上
	7	第3章 損金の概念と計算 第6節～第7節	同上
	8	第3章 損金の概念と計算 第8節～第9節	同上
	9	第4章 税額の計算	同上
	10	第5章 法人税法における用語の意義（判例等）	同上
	11	第2編 消費税法 第1章 消費税法の概要と納税義務者	同上
	12	第2章 消費税の課税対象	同上
	13	第3章 課税時期と譲渡等の時期 ～ 第4章 課税標準及び税率	同上
14	第5章 課税仕入と税額控除 第1節～第2節	同上	
15	第5章 課税仕入と税額控除 第3節	同上	
16	期末テスト		
テキスト・参考文献・資料など			
基本テキスト：中島茂幸・櫻田譲編著『ベーシック税務会計 第3版<企業課税編>』株式会社創成社 参考文献：大城建夫『税務会計の理論的展開』同文館出版、成道秀雄編著『税務会計論』中央経済社 中村和洋編著『税務判例入門』経済産業調査会			
学びの手立て			
受講にあたって必要となる前提科目：商業簿記、会計学、財務会計等 欠席時の講義範囲は、今回の講義までにテキストを熟読し、疑問点があれば、質問できるようにしてください。			
評価			
授業参加度及び課題内容評価（30%）、期末テスト（70%）の総合評価			

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：原価会計、管理会計、非営利会計、会計監査、経営分析、会社法など。
-------	--

※ポリシーとの関連性

自身で課題を選択し、その課題への取り組みを通して、会計における専門性に加え、理解力・表現力・問題解決能力を身につける。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習 I	前期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	菅森 聡	4年		

学びの準備	ねらい 卒業論文を書くことで、企業や業界についてより専門的なレベルでの理解を深める。	メッセージ 4年間の集大成として、会計学をベースにして興味のある企業や業界についての分析、研究をしてもらいます。
	到達目標 卒業論文の執筆	

学びの準備	
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 卒業論文の進捗について発表をしてもらいます。
	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価 卒業論文と発表をもとに評価する。

学びの実践	
-------	--

学びの実践	
-------	--

学びの実践	
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習 I	前期	木 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	鶴池 幸雄	4年	uike@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 企業会計に係わりこれまで学習してきた内容を深めるとともに、一つのテーマについてこれをまとめる。	メッセージ 企業に関わる様々な会計問題を見た上で自分の取り組む課題を見つけ、積極的に分析検討を行っていきましょう
	到達目標 企業に関わる会計問題の中から、卒業論文の対象として取りあげるモノを選択し分析することによって、対象の問題点を見つけ出し、解決すべき点を明らかにします。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 1. 卒業論文の作成 テーマの決定 文献調査 論文構成の決定 執筆 を、講義内で指導していく 2. 会計のトピックについて 研究・発表を行う。
	テキスト・参考文献・資料など 講義内で指示します
	学びの手立て 対象とするテーマを選択するために多くの文献や資料を検索、確認しましょう。 課題テーマを選択した後は、関連する文献や資料を数多く調査、検討し問題点を見つけ出します。
	評価 卒業論文に関わる中間報告 80 講義での課題提出 20、

学びの継続	次のステージ・関連科目 卒業論文演習 II で 本講義で明らかにした会計上の課題についてまとめます。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習 I	前期	月 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	天野 敦央	4年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>年間テーマを、「経営管理論」とする。本演習は4年次前期科目2.0単位、4年次後期科目2.0単位、合計4.0単位からなっている。経営学の基本的概念を正確に理解するために、ひきつづきテーマを決めて討論する。このほかに、各自がそれぞれ好きなテーマ（経営学の諸分野の中から）と好きな地域を決めて、その地域の経営の実状についてくわしく調べる。</p>	
	到達目標	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>なお本演習のイベント（ゼミ合宿・学園祭・コンパ）への学生諸君の積極的な参与を期待する。</p> <p>演習の展開計画</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>（レポート提出・必須）</td></tr> <tr><td>2</td><td>演習のすすめ方、評価のしかた</td></tr> <tr><td>3</td><td>研究対象</td></tr> <tr><td>4</td><td>アメリカ経営学</td></tr> <tr><td>5</td><td>（ゼミ合宿・必須）</td></tr> <tr><td>6</td><td>ドイツ経営学</td></tr> <tr><td>7</td><td>ドイツ経営学</td></tr> <tr><td>8</td><td>企業論</td></tr> <tr><td>9</td><td>企業論</td></tr> <tr><td>10</td><td>経営管理</td></tr> <tr><td>11</td><td>経営管理</td></tr> <tr><td>12</td><td>意思決定</td></tr> <tr><td>13</td><td>意思決定</td></tr> <tr><td>14</td><td>経営戦略</td></tr> <tr><td>15</td><td>（レポート提出・必須）</td></tr> </tbody> </table>	回数	内容	1	（レポート提出・必須）	2	演習のすすめ方、評価のしかた	3	研究対象	4	アメリカ経営学	5	（ゼミ合宿・必須）	6	ドイツ経営学	7	ドイツ経営学	8	企業論	9	企業論	10	経営管理	11	経営管理	12	意思決定	13	意思決定	14	経営戦略	15	（レポート提出・必須）
	回数	内容																															
	1	（レポート提出・必須）																															
	2	演習のすすめ方、評価のしかた																															
3	研究対象																																
4	アメリカ経営学																																
5	（ゼミ合宿・必須）																																
6	ドイツ経営学																																
7	ドイツ経営学																																
8	企業論																																
9	企業論																																
10	経営管理																																
11	経営管理																																
12	意思決定																																
13	意思決定																																
14	経営戦略																																
15	（レポート提出・必須）																																
<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>（テキスト） 未定 （参考文献） 古在由重（編）『哲学小辞典』岩波書店。 小川英次ほか（編）『経営学の基礎知識』有斐閣。 日録刊行会（編）『経営図書総目録2018』。</p>																																	
<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・演習科目なので、休まず出席してください。</li> <li>・積極的に多様なメディア（書籍、雑誌、新聞、TV等）で、情報を収集してください。</li> </ul>																																	
<p>評価</p> <p>演習への参加態度、課題提出、レポート提出等によって総合評価する。</p>																																	

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習Ⅰ	前期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	清村 英之	4年	・研究室：5627室 ・メール：hkiyomura@okiu.ac.jp	
学びの準備	ねらい	メッセージ		
	この演習では、「使える会計知識」「役に立つ会計技法」を身につけることを目指して、会計が現代の経済社会の中でどういう役割を果たしているのか、また、会計の知識を得ることのできるのかを学びます。この一年間は、各自が選択した企業の分析を進め、卒業論文をまとめます。	4年生になると、就職活動が本格化します。エントリーシートや履歴書の添削、県内各企業に就職しているOBOG（卒業生）の紹介などを通じて、ゼミ生の就職活動をバックアップします。		
学びの準備	到達目標			
	① PCを利用した情報収集・分析能力を身に付ける。 ② 経営分析を行うために必要なスキルを身に付ける。 ③ コミュニケーション能力（文章を書く力とプレゼンテーション能力）を身に付ける。			
学びの実践	学びのヒント	授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）		
		① インターネット等を利用して入手した会計情報を、様々な手法を用いて分析し、その結果を発表します（この一年間は各種比率を計算し、成長性分析、収益性分析、効率性分析、安全性分析を行います）。 ② それぞれの企業の社史、事業内容、経営方針などを調べ、分析対象企業に関する理解を深めます。 ③ この二年間の研究成果を卒業論文としてまとめます。2017年度のゼミ生が選んだ業界・企業は、以下のとおりです。 ・Aグループ：化粧品（資生堂、ファンケル、コーセー、ポーラ） ・Bグループ：外食（サイゼリヤ、ロイヤル、ゼンショー、ジョイフル） ・Cグループ：自動車（日産自動車、三菱自動車、スズキ、スバル） ・Dグループ：製菓（森永製菓、江崎グリコ、ブルボン） ・Eグループ：テレビ（フジ、TBS、日テレ、テレ朝） ④ 卒業論文の内容をパワー・ポイントに要約し、セミナーハウスで発表会を行います。 ⑤ 発表の準備、卒業論文の執筆、パワー・ポイントの作成に多くの時間外学習が求められます。		
	テキスト・参考文献・資料など	・テキスト：使用しません。 ・参考文献：講義中に紹介します。		
	学びの手立て	履修上の注意事項／心構え： ・「専門演習Ⅱ」を履修済みの学生しか登録できません。 ・昨年同様、遅刻・欠席は厳禁です。		
学びの実践	評価	・平常点……50点（質疑応答への積極性や、ゼミに対する意欲・貢献度を評価します） ・卒業論文……50点		
	次のステージ・関連科目	二年間のゼミ活動によって、問題・課題を自分で見つけ、論理的な思考によって解決し、正確に伝える力は身に付いたはず。これらの力を活かし、ビジネスの世界で活躍してください。		
学びの継続				

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習 I	前期	木 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	原田 優也	4年	原田研究室 (5633) mongkhol@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	①卒業論文・卒業プロジェクトレポートの作成に向けて、書き方・情報収集・仮説設定の考え方・論文の構成などを学習すること。 ②マーケティング的な考え方を実践的に養い、沖縄から全国、世界のビジネス界で活躍できる人材を育てます。	演習、実習の形式を併用して授業を行う。

到達目標	ビジネス課題に対して、自分で考える力を身につける。
------	---------------------------

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <p>履修生は「卒業論文、卒業プロジェクト、課題研究」のいずれかを一つ選択し、取り組みます。</p> <p>【1】卒業論文：興味があるテーマについて文献調査し、テーマを絞り込んでから対象とする問題点などについて客観的に分析し、卒業論文を執筆する。</p> <p>【2】卒業プロジェクト：「実用可能性の高い新商品開発」についてアイデアを出し、マーケティング・プランを作成する。新商品の開発段階・背景・生産工程、競合他社のリサーチ、新商品に対する消費者の購買行動について調査・分析を行う作業を通して、マーケターに必要な知識や技能を習得します。</p> <p>【3】課題研究：特定の研究課題を取り上げ、分析する。直面している問題・課題を明確にし、原因を究明し、改善策などを立案する。</p> <p>*****</p> <p>(1) 卒業論文・卒業プロジェクト・課題研究とは何か / ゼミ運営の方針説明                  (2) 研究計画書・レジュメの作成方法・著作権・発表方法・参考文献・引用方法の確認                  (3) 論文テーマの選定 (先行研究、分析方法、仮説設定など)                  (4) 卒論テーマ・プロジェクトテーマ・課題研究テーマの確定/年間計画書の提出                  (5) 企業戦略、ブランド戦略、観光ビジネス、マーケティングなどに関する先行研究 (1)                  (6) 企業戦略、ブランド戦略、観光ビジネス、マーケティングなどに関する先行研究 (2)                  (7) 企業戦略、ブランド戦略、観光ビジネス、マーケティングなどに関する先行研究 (3)                  (8) 仮説設定と分析方法 (1)                  (9) 仮説設定と分析方法 (2)                  (10) 卒業論文など個別指導①                  (11) 卒業論文など個別指導②                  (12) 卒業論文など個別指導③                  (13) 卒論発表及び討論 (1)                  (14) 卒論発表及び討論 (2)                  (15) 卒論発表及び討論 (3)                  (16) 卒業論文などの中間レポート提出</p> <p>*****</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>講義の中で、適切なテキストを指示する。</p>

学びの手立て	<p>①個人とグループ発表の時、自分の意見とディスカッションを行うことが大前提です。</p> <p>②授業に参加し、積極的に学ぶ姿勢 (パティシペーションなど) が必要である。</p>
--------	--

評価	<p>◇平常点 (50%)</p> <p>◇卒業論文の内容と発表 (50%)</p>
----	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>大学院進学、中小企業診断士、マーケティング関連会社など</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習 I	前期	月 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩橋 建治	4年	kiwahashi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 卒業論文執筆のための指導を行う。	メッセージ 研究を通じて、自分自身が何を望んでいるのか（自己分析）、その研究を深めることで誰にどのような貢献ができるのか（社会における役割）を、納得のいくまで考えて欲しい。
	到達目標 個々の卒業論文において、適用する理論を整理する。または、研究対象となる業界の概要を理解する。	

学びの準備	到達目標 個々の卒業論文において、適用する理論を整理する。または、研究対象となる業界の概要を理解する。
-------	--

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>卒業論文の研究に関しては、授業時間中だけでは指導が不十分なため、授業時間以外も適宜連絡の上で、毎週課外の指導をおこなうことを前提とする。 それぞれの研究の進捗状況に応じて、適宜指示を与える。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>個々の卒業論文の仮構成に沿って、適宜紹介する。</p>

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 個々の卒業論文の仮構成に沿って、適宜紹介する。
-------	---

学びの実践	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・やむを得ず遅刻・欠席する場合は、事前にメールにて連絡すること。</li> <li>・討論では積極的な発言を求める。</li> <li>・卒業論文の分量は16,000字～20,000字程度を目安とする。</li> </ul>
	<p>評価</p> <p>卒業論文に関する課題の提出状況と、その完成度を中心に評価する。</p>

学びの実践	評価 卒業論文に関する課題の提出状況と、その完成度を中心に評価する。
-------	---------------------------------------

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>卒業論文演習 II</p>
-------	-------------------------------------

※ポリシーとの関連性 各自が設定したテーマについて、正確な調査・分析・考察を行うことができる。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習 I	前期	木 4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	髭白 晃宜	4年	t.higeshiro@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本演習では、卒業論文の作成を通して、社会が抱える課題を多角的に捉える視野、ビジネスの場で相手を説得できる会話力、そして論理的に物事を説明できる文章力を、それぞれ高いレベルにおいて獲得してもらうことを目的とします。</p>	<p>学生生活における研究活動の集大成として卒業論文をつくりあげることが、とてつもなく大変なことです。しかし、その苦勞の大きさはやりがいの大きさでもあります。悔いの残らぬよう最後までしっかりとやり遂げてください。</p>
到達目標	<p>①卒業論文で対象とするテーマについて、資料の収集ならびにデータの分析を正確に行うことができる。 ②①を達成したうえで、オリジナリティに富んだ考察ならびに今後の展望を行うことができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント			
	授業計画			
	回	テーマ	時間外学習の内容	
	1	ガイダンス：卒論のテーマ設定①	卒論のテーマ設定	
	2	卒論指導①：卒論のテーマ設定②	卒論のテーマ設定	
	3	卒論指導②：テーマに対応した個別指導	テーマに対応した資料収集と分析	
	4	卒論指導③：テーマに対応した個別指導	同上	
	5	卒論指導④：テーマに対応した個別指導	同上	
	6	卒論指導⑤：卒論中間報告①	同上	
	7	卒論指導⑥：テーマに対応した個別指導	同上	
8	卒論指導⑦：テーマに対応した個別指導	同上		
9	卒論指導⑧：テーマに対応した個別指導	同上		
10	卒論指導⑨：テーマに対応した個別指導	同上		
11	卒論指導⑩：卒論中間報告②	同上		
12	卒論指導⑪：テーマに対応した個別指導	同上		
13	卒論指導⑫：テーマに対応した個別指導	同上		
14	卒論指導⑬：テーマに対応した個別指導	同上		
15	卒論指導⑭：テーマに対応した個別指導	同上		
16	卒論指導⑮：卒論中間報告③	同上		
実践	テキスト・参考文献・資料など	※個別のテーマに対して、ゼミ内で補助教材を適宜配布する。		
	学びの手立て	<p>①卒業論文に関する資料収集およびデータ分析はこまめに行うこと。早めに作業を行うこと。 ②ゼミ内で頻繁に卒論の進捗報告をしてもらいます。時間外作業の必要があります。 ③ゼミ員相互の交流や情報交換は密に行うように。</p>		
	評価	<p>◆卒論中間報告①：25点 ◆卒論中間報告②：30点 ◆卒論中間報告③：30点 ◆平常点：15点 合計：100点</p>		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	設定したテーマに対応した文献や資料を収集し、データ分析を進めた状態で「卒業論文演習Ⅱ」に移行。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習 I	前期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	佐久本 朝一	4年		

学びの準備	ねらい 経営に関する専門の論文の作成を指導したあとで期限までに提出する。	メッセージ 講義は学生の自主的な発表を中心に進めていくことから、積極的に参加意識を持つことが前提となる。
	到達目標	

学びの準備	到達目標
-------	------

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	毎回割り当てられた時間に経営に関するテーマの論文発表する。
	2	
	3	
	4	
	5	
	6	
	7	
	8	
	9	
	10	
	11	
	12	
	13	
	14	
	15	
16		
		時間外学習の内容

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
-------	----------------

学びの実践	学びの手立て
-------	--------

学びの実践	評価
-------	----

学びの継続	次のステージ・関連科目 大学院進学への進路相談などを加えて可能な限り個別の指導を行うことにしたい。
-------	--

科目 基本 情報	科目名	期 別	曜日・時限	単 位
	卒業論文演習 I	前期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮森 正樹	4年		
学 び の 準 備	ねらい	メッセージ		
	これまで大学で学んだ本格的な成果の集大成を論文で表す。また、産業情報学部・企業システム学科の学生としての応用的な学習能力、コミュニケーション能力、表現力を高める。	卒論演習は、4年間の学びの集大成である。学んだすべてを出して卒業論文を作成してください。		
学 び の 実 践	到達目標			
	1. 目的・課題に対して適切に情報を収集することができる。 2. プレゼンテーション能力を身につける。 3. ビジネスに興味・関心を持ち、問題解決のためにディスカッションをすることができる。 4. 大学生として高度な論文が書ける。			
学 び の 実 践	学びのヒント			
	授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>論文のテーマを決定</li> <li>情報収集</li> <li>市場調査</li> <li>情報及び調査結果の分析</li> <li>論文作成</li> <li>プレゼンテーション</li> </ul> これらについて随時指導を行う。			
	テキスト・参考文献・資料など			
学 び の 実 践	また随時、プリント資料等を配布する。 参考文献については、必要に応じて講義中に紹介する。			
	学びの手立て			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>積極的に多様なメディア（新聞、TV、インターネット、書籍等）で情報を収集してください。</li> <li>先輩や教員の論文を読み、自分の論文作成の参考にすること。</li> </ul>			
学 び の 実 践	評価			
	<ul style="list-style-type: none"> <li>論文のプレゼンテーションの内容</li> <li>卒業論文の内容</li> <li>授業への参加度</li> </ul>			
学 び の 継 続	次のステージ・関連科目			
	大学を卒業してからもマーケティング・ビジネスに関することを学び続ける。			

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習Ⅱ	後期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮森 正樹	4年		

学びの準備	ねらい これまで大学で学んだ本格的な成果の集大成を論文で表す。また、産業情報学部・企業システム学科の学生としての応用的な学習能力、コミュニケーション能力、表現力を高める。	メッセージ 卒論演習は、4年間の学びの集大成である。学んだすべてを出して卒業論文を作成してください。
	到達目標 1. 目的・課題に対して適切に情報を収集することができる。 2. プレゼンテーション能力を身につける。 3. ビジネスに興味・関心を持ち、問題解決のためにディスカッションをすることができる。 4. 大学生として高度な論文が書ける。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） <ul style="list-style-type: none"> <li>論文のテーマを決定</li> <li>情報収集</li> <li>市場調査</li> <li>情報及び調査結果の分析</li> <li>論文作成</li> <li>プレゼンテーション</li> </ul> これらについて随時指導を行う。
	テキスト・参考文献・資料など 随時、プリント資料等を配布する。 参考文献については、必要に応じて講義中に紹介する。
	学びの手立て <ul style="list-style-type: none"> <li>積極的に多様なメディア（新聞、TV、インターネット、書籍等）で情報を収集してください。</li> <li>先輩や教員の論文を読み、自分の論文作成の参考にすること。</li> </ul>
	評価 <ul style="list-style-type: none"> <li>論文のプレゼンテーションの内容</li> <li>卒業論文の内容</li> <li>授業への参加度</li> </ul>

学びの継続	次のステージ・関連科目 大学を卒業してからもマーケティング・ビジネスに関することを学び続ける。
-------	--

※ポリシーとの関連性 企業は、今日では社会に多大な影響を及ぼしている。そうした企業の営み（経営活動）について学ぶ学問である。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習Ⅱ	後期	月2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	佐久本 朝一	4年		

学びの準備	ねらい 経営に関する専門の論文を作成する。	メッセージ
	到達目標	

学びの準備	到達目標
-------	------

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>経営学という学問 イギリスにおける企業の発展 アメリカにおける企業の発展 日本における企業の発展 科学的管理法 フォードシステム 人間関係論 意思決定論 動機付け理論 欲求5段階説 単位組織と複合組織 経営組織の基本形態 経営組織の階層と機能 経営組織の応用形態</p>
	テキスト・参考文献・資料など

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
-------	----------------

学びの実践	学びの手立て
-------	--------

学びの実践	<p>評価</p> <p>各自が選んだ経営に関するテーマの論文を作成し提出するところで評価する。</p>
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習Ⅱ	後期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	鶴池 幸雄	4年	uike@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 企業会計に係わり、これまで学習してきた内容を深めるとともに、一つのテーマについてこれをまとめる	メッセージ 企業に関わる様々な会計問題を見た上で自分の取り組む課題を見つけ、積極手に分析・検討を行っていきましょう
	到達目標 企業に関わる会計問題の中から卒業論文の対象として取りあげた課題について、論文を作成し、パワーポイントにて報告することにより、問題発見、解決、評価のプロセスに関わる能力を高める	

学びの準備	到達目標 企業に関わる会計問題の中から卒業論文の対象として取りあげた課題について、論文を作成し、パワーポイントにて報告することにより、問題発見、解決、評価のプロセスに関わる能力を高める

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p><u>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>卒業論文の作成 文献調査 論文構成の決定 執筆  後半の講義内で、卒論の報告を行う</li> <li>会計のトピックについて  最新の会計基準動向などについて 研究・報告を行う</li> </ol>
	<p>テキスト・参考文献・資料など 講義内で指示します。</p>

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など 講義内で指示します。</p>
	<p>学びの手立て 対象となるテーマについて論考を行いそれに対する考えを明確に表すため、論考の進め方、論文の書き方、報告の要点などを文献、資料を十分参考にして取り組んでください。</p>

学びの実践	<p>学びの手立て 対象となるテーマについて論考を行いそれに対する考えを明確に表すため、論考の進め方、論文の書き方、報告の要点などを文献、資料を十分参考にして取り組んでください。</p>
	<p>評価 卒業論文の報告、提出 100</p>

学びの実践	<p>評価 卒業論文の報告、提出 100</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目 卒業後の社会活動において、企業活動の把握、問題点の抽出、解決法の探求、提示 という実践的な問題についての取り組み方を身につけ、実践する。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習Ⅱ	後期	月4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	天野 敦央	4年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	年間テーマを、「経営管理論」とする。本演習は4年次前期科目2.0単位、4年次後期科目2.0単位、合計4.0単位からなっている。経営学の基本的概念を正確に理解するために、ひきつづきテーマを決めて討論する。このほかに、各自がそれぞれ好きなテーマ（経営学の諸分野の中から）と好きな地域を決めて、その地域の経営の実状についてくわしく調べる。	
到達目標		

学びの実践	学びのヒント
	<p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>（授業の展開計画） 本演習の展開は、つぎのとおり予定している。</p> <p>（回数 内容）</p> <p>16 経営組織 17 経営組織 18 労務管理 19 （卒業年次ゼミテーマ登録カード提出） 20 財務管理 21 財務管理 22 販売管理 23 販売管理 24 計画と統制 25 計画と統制 26 いわゆる「日本的経営」 27 後期末：卒業論文の提出締切り 28 企業の社会的責任 29 （卒業式・謝恩会パーティの実施計画） 30 企業の社会的責任 31 [予備日]</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>（テキスト） 未定 （参考文献） 古在由重（編）『哲学小辞典』岩波書店。 小川英次ほか（編）『経営学の基礎知識』有斐閣。 日録刊行会（編）『経営図書総目録2018』。</p>
	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・演習科目なので、休まず出席してください。</li> <li>・積極的に多様なメディア（書籍、雑誌、新聞、TV等）で、情報を収集してください。</li> </ul>
評価	演習への参加態度、課題提出、レポート提出等によって総合評価する。

学びの継続	次のステージ・関連科目 責任感ある社会人へ
-------	--------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習Ⅱ	後期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	清村 英之	4年	・研究室：5627室 ・メール：hkiyomura@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	この演習では、「使える会計知識」「役に立つ会計技法」を身につけることを目指して、会計が現代の経済社会の中でどういう役割を果たしているのか、また、会計の知識を得ることのできるのかを学びます。この一年間は、各自が選択した企業の分析を進め、卒業論文をまとめます。	4年生になると、就職活動が本格化します。エントリーシートや履歴書の添削、県内各企業に就職しているOBOG（卒業生）の紹介などを通じて、ゼミ生の就職活動をバックアップします。

到達目標
① PCを利用した情報収集・分析能力を身に付ける。 ② 経営分析を行うために必要なスキルを身に付ける。 ③ コミュニケーション能力（文章を書く力とプレゼンテーション能力）を身に付ける。

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）
	① インターネット等を利用して入手した会計情報を、様々な手法を用いて分析し、その結果を発表します（この一年間は各種比率を計算し、成長性分析、収益性分析、効率性分析、安全性分析を行います）。 ② それぞれの企業の社史、事業内容、経営方針などを調べ、分析対象企業に関する理解を深めます。 ③ この二年間の研究成果を卒業論文としてまとめます。2017年度のゼミ生が選んだ業界・企業は、以下のとおりです。 ・Aグループ：化粧品（資生堂、ファンケル、コーセー、ポーラ） ・Bグループ：外食（サイゼリヤ、ロイヤル、ゼンショー、ジョイフル） ・Cグループ：自動車（日産自動車、三菱自動車、スズキ、スバル） ・Dグループ：製菓（森永製菓、江崎グリコ、ブルボン） ・Eグループ：テレビ（フジ、TBS、日テレ、テレ朝） ④ 卒業論文の内容をパワー・ポイントに要約し、セミナーハウスで発表会を行います。 ⑤ 発表の準備、卒業論文の執筆、パワー・ポイントの作成に多くの時間外学習が求められます。

テキスト・参考文献・資料など
・テキスト：使用しません。 ・参考文献：講義中に紹介します。

学びの手立て 履修上の注意事項／心構え： ・「卒業論文演習Ⅰ」を履修した学生しか登録できません。 ・前期同様、遅刻・欠席は厳禁です。
---

評価 ・平常点……50点（質疑応答への積極性や、ゼミに対する意欲・貢献度を評価します） ・卒業論文……50点
--

次のステージ・関連科目 二年間のゼミ活動によって、問題・課題を自分で見つけ、論理的な思考によって解決し、正確に伝える力は身に付いたはず。これらの力を活かし、ビジネスの世界で活躍してください。
--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習Ⅱ	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	原田 優也	4年	mongkhol@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	①卒業論文・卒業プロジェクトレポートの作成に向けて、書き方・情報収集・仮説設定の考え方・論文の構成などを学習すること。 ②マーケティング的な考え方を実践的に養い、沖縄から全国、世界のビジネス界で活躍できる人材を育てます。	演習、実習の形式を併用して授業を行う。

到達目標	卒業論文の作成能力を習得する。
------	-----------------

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）  ***** (1) 後期日程のガイダンス (2) 卒業論文・卒業プロジェクト・課題研究の研究手法・先行研究・仮説設定などの再検討① (3) 卒業論文・卒業プロジェクト・課題研究の研究手法・先行研究・仮説設定などの再検討② (4) 卒業論文・卒業プロジェクト・課題研究の研究手法・先行研究・仮説設定などの再検討③ (5) 卒業論文・卒業プロジェクト・課題研究執筆：個別指導① (6) 卒業論文・卒業プロジェクト・課題研究執筆：個別指導② (7) 卒業論文・卒業プロジェクト・課題研究執筆：個別指導③ (8) 卒業論文・卒業プロジェクト・課題研究執筆：個別指導④ (9) 卒業論文・卒業プロジェクト・課題研究執筆：個別指導⑤ (10) 卒業論文・卒業プロジェクト・課題研究執筆：個別指導⑥ (11) 卒業論文・卒業プロジェクト・課題研究執筆：個別指導⑦ (12) 卒業論文・卒業プロジェクト・課題研究執筆：個別指導⑧ (13) 卒論・卒業プロジェクト・課題研究の原稿の校正① (14) 卒論・卒業プロジェクト・課題研究の原稿の校正② (15) 卒論・卒業プロジェクト・課題研究の原稿の印刷 (16) 卒業論文・卒業プロジェクト・課題研究の提出 *****
	テキスト・参考文献・資料など 講義の中で、適切なテキストを指示する。
	学びの手立て ①個人とグループ発表の時、自分の意見とディスカッションを行うことが大前提です。 ②授業に参加し、積極的に学ぶ姿勢（パティシペーションなど）が必要である。
	評価 ◇平常点（50%） ◇卒業論文の内容と発表（50%）

学びの継続	次のステージ・関連科目 大学院進学、中小企業診断士、マーケティング関連会社など
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習Ⅱ	後期	月4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩橋 建治	4年	kiwahashi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 卒業論文執筆のための指導を行う。	メッセージ 研究を通じて、自分自身が何を望んでいるのか（自己分析）、その研究を深めることで誰にどのような貢献ができるのか（社会における役割）を、納得のいくまで考えて欲しい。
	到達目標 個々の学修成果として、卒業論文を完成させる。	

学びの準備	到達目標 個々の学修成果として、卒業論文を完成させる。
-------	--------------------------------

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む）</p> <p>卒業論文の研究に関しては、授業時間中だけでは指導が不十分なため、授業時間以外も適宜連絡の上で、毎週課外の指導をおこなうことを前提とする。 それぞれの研究の進捗状況に応じて、適宜指示を与える。</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>個々の卒業論文の構成に沿って、適宜紹介する。</p>
	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・やむを得ず遅刻・欠席する場合は、事前にメールにて連絡すること。</li> <li>・討論では積極的な発言を求める。</li> <li>・卒業論文の分量は16,000字～20,000字程度を目安とする。</li> </ul>

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 個々の卒業論文の構成に沿って、適宜紹介する。
-------	--

学びの実践	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・やむを得ず遅刻・欠席する場合は、事前にメールにて連絡すること。</li> <li>・討論では積極的な発言を求める。</li> <li>・卒業論文の分量は16,000字～20,000字程度を目安とする。</li> </ul>
-------	---

学びの実践	<p>評価</p> <p>卒業論文の完成度を中心に評価する。</p>
-------	------------------------------------

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>これまで関心をもったすべての科目が関連しうる。</p>
-------	---

※ポリシーとの関連性 各自が設定したテーマについて、正確な調査・分析・考察を行うことができる。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習Ⅱ	後期	木4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	髭白 晃宜	4年	t.higeshiro@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本演習では、卒業論文の作成を通して、社会が抱える課題を多角的に捉える視野、ビジネスの場で相手を説得できる会話力、そして論理的に物事を説明できる文章力を、それぞれ高いレベルにおいて獲得してもらうことを目的とします。</p>	<p>学生生活における研究活動の集大成として卒業論文をつくりあげることが、とてつもなく大変なことです。しかし、その苦勞の大きさはやりがいの大きさでもあります。悔いの残らぬよう最後までしっかりとやり遂げてください。</p>
到達目標	<p>①卒業論文で対象とするテーマについて、資料の収集ならびにデータの分析を正確に行うことができる。 ②①を達成したうえで、オリジナリティに富んだ考察ならびに今後の展望を行うことができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント	授業計画		
		回	テーマ	時間外学習の内容
		1	ガイダンス	卒論執筆作業
		2	卒論指導①：テーマに対応した個別指導	同上
		3	卒論指導②：テーマに対応した個別指導	同上
		4	卒論指導③：テーマに対応した個別指導	同上
		5	卒論指導④：テーマに対応した個別指導	同上
		6	卒論指導⑤：卒論中間報告①	卒論中間報告
		7	卒論指導⑥：テーマに対応した個別指導	卒論執筆作業
		8	卒論指導⑦：テーマに対応した個別指導	同上
	9	卒論指導⑧：テーマに対応した個別指導	同上	
	10	卒論指導⑨：テーマに対応した個別指導	同上	
	11	卒論指導⑩：卒業論文仮原稿提出	同上	
	12	卒論指導⑪：卒業論文の修正作業	卒論の修正作業	
	13	卒論指導⑫：卒業論文の修正作業	同上	
	14	卒論指導⑬：卒業論文の修正作業	同上	
	15	卒論指導⑭：卒業論文完成稿提出	卒業論文完成稿提出	
	16	卒論指導⑮：卒業論文最終報告	卒業論文最終報告	
	テキスト・参考文献・資料など	※個別のテーマに対して、ゼミ内で補助教材を適宜配布する。		
	学びの手立て	<p>①卒業論文に関する資料収集およびデータ分析はこまめに行うこと。早めに作業を行うこと。 ②欠席5回以上で成績評価は「不可」となります。また、30分以上の遅刻は欠席扱いとします。 ③時間外に卒論執筆や報告準備を行う必要があります。スケジュール管理を怠らないこと。 ④ゼミ員相互の交流や情報交換は密に行うように。</p>		
	評価	<p>◆卒業論文完成稿：60点 ◆卒業論文最終報告：25点 ◆平常点：15点 合計：100点</p>		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	卒業後は、複眼的思考を持ち、問題解決に際して柔軟に回答を提示できる人材となってもらいたい。

※ポリシーとの関連性

自身で課題を選択し、その課題への取り組みを通して、会計における専門性に加え、理解力・表現力・問題解決能力を身につける。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	卒業論文演習Ⅱ	後期	火2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	菅森 聡	4年		

学びの準備	ねらい 卒業論文を書くことで、企業や業界についてより専門的なレベルでの理解を深める。	メッセージ 4年間の集大成として、会計学をベースにして興味のある企業や業界についての分析、研究をしてもらいます。
	到達目標 卒業論文を書き終える。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 卒業論文の進捗について発表をしてもらいます。
	テキスト・参考文献・資料など
	学びの手立て
	評価 卒業論文と発表をもとに評価する。

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

※ポリシーとの関連性 学ぶ姿勢と学ぶ力を付ける。自分で考えて、自ら動いていく力を付ける。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ソーシャル・マーケティング	後期	木4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮森 正樹	3年	miyamori@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この授業を通して、ソーシャル・マーケティングの成り立ちとその活用方法学び、いかにして企業が自社の商品に社会的加価値を必要とされているを知る。	メッセージ 専門科目を単なる単位・学ぶべきものとするのではなく、授業を通してその科目の楽しさ、面白さ、社会への影響に気づくことが大切です。
	到達目標 1. ソーシャル・マーケティングの概要を知る。 2. ソーシャル・マーケティングの基本理論を学ぶ。 3. 社会貢献とマーケティングの関係性を知る。 4. 基本的なソーシャル・マーケティングのビジネスモデルが説明できるようになる。	

学びの準備	到達目標 1. ソーシャル・マーケティングの概要を知る。 2. ソーシャル・マーケティングの基本理論を学ぶ。 3. 社会貢献とマーケティングの関係性を知る。 4. 基本的なソーシャル・マーケティングのビジネスモデルが説明できるようになる。
-------	---

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	ソーシャル・マーケティングとは	
	3	社会貢献と企業1	テキストを読む
	4	社会貢献と企業2	テキストを読む
	5	社会文化的変化の創出1	テキストを読む
	6	社会文化的変化の創出2	テキストを読む
	7	消費者に対するコミットメント活動1	テキストを読む
	8	消費者に対するコミットメント活動2	テキストを読む
	9	新興市場における起業家の創造	テキストを読む
	10	環境の持続可能性に対する取り組み1	テキストを読む
	11	環境の持続可能性に対する取り組み2	テキストを読む
	12	消費者に対するミッションのマーケティング1	テキストを読む
	13	消費者に対するミッションのマーケティング2	テキストを読む
	14	課題の発表準備	課題発表資料作成1
	15	課題の発表	課題発表資料作成2
16	期末試験		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：授業で指定する。また、必要に応じて授業の中でプリントを配布する。参考文献も必要な時に発表する。
-------	--

学びの実践	学びの手立て 履修の心構え： ①出席・授業への積極的参加を強く求める、②自分から動く、③課題提出は期日を守る、④他の学生に迷惑を掛けない。 学びを深めるために： ①マーケティングと社会貢献の関係を知る、②議論に積極的に参加する、③日経MJを読む、④ソーシャル・マーケティングを実践している企業の経営者や従業員の経営哲学を学ぶ。
-------	---

学びの実践	評価 評価は次の項目の総合的な観点から行われる。①出席、②期末試験、③レポート、④授業での態度、⑤課題提出物。
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 ビジネス関連科目を多く受講すること。マーケティングに関連した書籍を読むこと。一般教養科目をしっかりと学ぶこと。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	中小企業経営論	前期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩橋 建治	3年	kiwahashi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 中小企業経営について理解を深める。	メッセージ この授業では、グローバル化と地域のはざまで、中小企業がいかんして経営環境に適応していくのかを学ぶ。
	到達目標 中小企業のあり方とそれを取りまく国内外の動向を明確にイメージできること。	

学びの準備	到達目標 中小企業のあり方とそれを取りまく国内外の動向を明確にイメージできること。
-------	--

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	中小企業経営とは	講義内容の復習
	2	日本経済と中小企業 (1) 日本経済と中小企業	同上
	3	日本経済と中小企業 (2) 大企業と中小企業	同上
	4	日本経済と中小企業 (3) 地域経済と中小企業	同上
	5	日本経済と中小企業 (4) 海外の中小企業	同上
	6	環境変化と中小企業 (1) 下請けシステムとものづくり中小企業	同上
	7	環境変化と中小企業 (2) 国際化と中小企業	同上
	8	環境変化と中小企業 (3) 事業継承と中小企業	同上
	9	環境変化と中小企業 (4) 集積・ネットワークを活かす中小企業	同上
	10	環境変化と中小企業 (5) 地域と共に生きる中小企業	同上
	11	中小企業を支える仕組み (1) 中小企業金融	同上
	12	中小企業を支える仕組み (2) 国による中小企業政策	同上
	13	中小企業を支える仕組み (3) 自治体による中小企業政策	同上
	14	沖縄の中小企業の事例	同上
	15	グループディスカッション	同上
16	まとめ	同上	

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 植田浩史ほか (2014) 『中小企業・ベンチャー企業論 [新版]: グローバルと地域のはざままで』有斐閣。
-------	--

学びの実践	学びの手立て 県内外の中小企業に対する関心を深めて欲しい。
-------	----------------------------------

学びの実践	評価 期末試験 (80%)、中間レポート (20%)
-------	-------------------------------

学びの継続	次のステージ・関連科目 中小企業診断Ⅰ、中小企業診断Ⅱ、および経営コースの各科目。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	中小企業診断 I	前期	水 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-高嶺 直	3年	ptt109@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 中小企業や小規模事業者の経営課題は、年々、複雑化・多様化しており、持続的経営に向けた経営診断は高度な専門知識や技術を使って課題解決を進める必要がある。本講義では、診断先の中小企業及び小規模事業者の現状を理解するとともに経営診断の基本について学んでいく。	メッセージ ・論理的思考で物事を捉えるよう心掛けて欲しい。 ・大学で学ぶ知識を横断的に活用できるよう心掛けて欲しい。
	到達目標 ・中小企業・小規模事業者の現状について説明ができる。 ・経営診断のプロセスを体系的に理解し説明できる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画	
	回	テーマ
	1	ガイダンス
	2	中小企業の現状
	3	小規模事業者の現状
	4	中小企業基本法の概要
	5	小規模基本法の概要
	6	経営診断のスタイル
	7	中小企業の経営戦略
	8	経営環境の分析①
9	経営環境の分析②	
10	経営方針・目標の決定	
11	経営戦略の実行管理	
12	財務諸表の読み方と分析	
13	資金調達	
14	労務管理	
15	経営法務	
16	期末試験	
		時間外学習の内容
		中小企業白書、統計調査にて学習
		中小企業、小規模事業者 関連法規にて学習
		経営学概論、経営戦略論にて学習
		財務会計論、経営分析論にて学習
		労働関連法規にて学習
		会社関連法規にて学習
	テキスト・参考文献・資料など テキストは指定しない。ワークシート（講義ノート）を用いて講義を進める。	
	学びの手立て 毎回出席をとる。その時点で教室にいない場合は欠席となる。やむを得ず欠席する場合は、必ず欠席届を提出すること。 講義はワークシート（講義ノート）を毎回使用するの、忘れずに必ず持参すること。	
	評価 期末試験50%、レポート提出30%、授業態度20% 出席状況については、無断欠席が5回以上になると「不可」となる。	

学びの継続	次のステージ・関連科目 中小企業診断士の一次試験に関連する科目（経営学、財務・会計学、マーケティング、経済学、経営情報、経営法務、中小企業論）を履修し、資格取得を目指してもらいたい。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	中小企業診断Ⅱ	後期	火1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-銘苅 康弘	3年	mekaruyasuhiro@gmail.com	

学びの準備	ねらい 中小企業の経営診断を行うにあたり必要な基礎知識の習得を行い、架空の企業事例をもとに具体的な診断を体系的に学習する。	メッセージ 大学にて学んだ経営理論を仕事の場で活かせるような、ものの味方や考え方を身につけます。たとえどのような仕事についてもビジネスパーソンとして必要な知識とそれを具体的に活用する術が学べます。
	到達目標 ・企業経営の事象を論理的に分析し、問題点、課題、解決策を導くことができる ・中小企業診断士試験の問題を理解し回答できる	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス、履修登録	
	2	企業診断の進め方	企業診断のフレームワークの理解
	3	中小企業の経営戦略	経営理論についておさらいすること
	4	〃 の財務診断の概略	財務管理についておさらいすること
	5	〃 の販売診断の概略1	フレームワークのおさらい
	6	〃 の販売診断の概略2	同上
	7	〃 の生産診断の概略	原価管理のおさらい
	8	中間テスト	
9	中間テストの解説		
10	小売商業の診断演習1	小売商業の動向について調査	
11	〃 2	同上	
12	製造業の診断演習1	国内製造業の動向について調査	
13	〃 2	同上	
14	サービス業の診断演習	国内のIT業界について調査	
15	期末テスト		
16	期末テスト解説、考査		
実践	テキスト・参考文献・資料など 市販のテキスト等は使用しません。オリジナルの資料を適宜配布します。		
	学びの手立て ・出欠確認を毎回行い、評価点とします ・講義に参加しかつ議論に参加することを重視します ・社会や経済環境に興味を持ち普段からニュース等をウオッチしてください		
	評価 平常点（60％）：講義への出席と積極的な発言に対して加点します 中間テスト（20％）：マネジメントやマーケティングの基本知識のおさらいをします 期末テスト（20％）：架空企業の診断を行っていただきます。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 中小企業診断士試験の資格取得を目指していただきたい。 就職後の仕事においてももの見方や物事の進め方を実践的に活かしていただきたい。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	中小企業マーケティング	前期	木3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	原田 優也	3年	研究室: 5633 mongkhol@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この授業は中小企業のマーケティング活動を中心に概説し、中小企業マーケティングの必要性・基礎的な概念、中小企業の持続型経営モデル・発展型経営モデル、中小企業マーケティング構造、中小企業マーケティングの特質などを学習する。また、中小企業の事業形態別のマーケティング活動の事例を紹介しながら、中小企業のグローバル・マーケティングや地域ブランド形成などを説明する。	メッセージ 授業計画は学習状況によって変更することがある
	到達目標 1) 中小企業の現状と課題を理解する 2) 中小企業の運営能力を身につけることを目標とする 3) 中小企業の定義、歴史、競争、経営とマーケティング役割などについて理解する	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 第1回：シラバス説明と中小企業の定義 第2回：中小企業マーケティングとは 第3回：中小企業の経営モデルと企業成長 第4回：中小企業の新商品開発と差別化 第5回：中小企業の流通戦略 第6回：中小企業のプロモーション戦 第7回：中小企業の価格戦略 第8回：中間理解度テスト 第9回：中小小売業のマーケティング活動 第10回：中小製造業・卸売業のマーケティング活動 第11回：中小サービス業のマーケティング活動 第12回：中小企業のグローバル・マーケティング（欧米） 第13回：中小企業のグローバル・マーケティング（東南アジア・東アジア） 第14回：中小企業のブランドマーケティング 第15回：中小企業マーケティングと地域ブランド形成 第16回：期末試験およびレポート提出
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：田中 道雄（2014）「中小企業マーケティング」中央経済社 参考書・参考資料等：●田中 道雄（著・編集）、白石 善章（著・編集）、& その他（2016）「中小企業マーケティングの構図」同文館出版 ●『中小企業白書』2015年版
	学びの手立て 【履修の心構え】 1) 第1回目の授業は必ず出席すること。 2) 授業に参加し、積極的に学ぶ姿勢（報告に対する質疑応答、パティシペーションなど）が必要である
評価	中間理解度テスト（30%）、期末試験（40%）とレポート（30%）を総合的に評価

学びの継続	次のステージ・関連科目 マーケティングコースの卒業論文演習、中小企業診断士など
-------	--

科目基本情報	科目名	データベース	期別	曜日・時限	単位
	担当者	-大城 絢子	前期	木2	2
			対象年次	授業に関する問い合わせ	
			2年	ptt1071@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい データベースの概要から基本操作、簡単なデータベース構築技術の修得までを目的とする。データベースソフトの一つである「Access」を使用し講義を進める。	メッセージ コンピュータを用いた実習を中心に学びます
	到達目標 1. データベースの概念の理解 2. Accessの一通りの操作能力を習得	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション -データベースとは-	次週までに課題をメールにて提出
	2	Accessの概要・基本操作	次週までに課題をメールにて提出
	3	Accessの概要・基本操作	次週までに課題をメールにて提出
	4	データベースのデータ編集	次週までに課題をメールにて提出
	5	データベースのデータ編集	次週までに課題をメールにて提出
	6	テーブルの操作	次週までに課題をメールにて提出
	7	テーブルの操作	次週までに課題をメールにて提出
	8	データベースの設計	次週までに課題をメールにて提出
	9	データベースの設計	次週までに課題をメールにて提出
	10	データベースの設計	次週までに課題をメールにて提出
	11	レポートの印刷	次週までに課題をメールにて提出
	12	総合演習	次週までに課題をメールにて提出
	13	マクロの利用	次週までに課題をメールにて提出
	14	マクロの利用	次週までに課題をメールにて提出
15	総合演習/簡単なデータベースの構築	次週までに課題をメールにて提出	
16	試験		
	テキスト・参考文献・資料など 参考文献:30時間で マスター Access 2013 著者:実教出版編修部 発行:実教出版株式会社 1,188円		
	学びの手立て 講義では演習や実習を中心とし、毎週の課題に取り組むことで理解を深めます。次回の講義日までに、メールにて課題を提出してもらいます。		
	評価 レポートの提出状況(65%)+最終試験の点数(35%)		

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	日本流通論	後期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	髭白 晃宜	2年	t.higeshiro@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>①流通に関する基礎的な理論を学び、今日の流通実態を理解する。                  ②流通業態の発展を学ぶことで、流通業の役割を理解する。                  ③日本型流通の発展について考える契機を与える。</p>	<p>流通は、生産と消費をつなぐことで商業活動を円滑に行う手助けをするという役割を持っています。流通チャンネルが多様であるがゆえに、私たちは便利で豊かな生活を送ることができます。本講義では、生活に密接に結び付いた流通の仕組みや役割を学ぶことで、日本型流通の特徴や問題点を明らかにしていきます。</p>
	到達目標	
	<p>①流通に関する基礎的な理論を習得し、今日の流通実態について理解できる。                  ②小売業の業態についての理解を深めると同時に、日本型流通システムの特徴を知る。</p>	

学びの実践	学びのヒント																																																				
	授業計画																																																				
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>テーマ</th> <th>時間外学習の内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>ガイダンス</td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td>流通とは何か</td><td>流通の機能について</td></tr> <tr><td>3</td><td>商圈と小売業の役割</td><td>商圈と購買圏について</td></tr> <tr><td>4</td><td>卸売業</td><td>日本の卸売業の特徴について</td></tr> <tr><td>5</td><td>小売業の機能</td><td>小売業の機能について</td></tr> <tr><td>6</td><td>物流とロジスティクス</td><td>物流の定義について</td></tr> <tr><td>7</td><td>中間試験</td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td>店舗販売と無店舗販売</td><td>無店舗小売業について</td></tr> <tr><td>9</td><td>業種と業態</td><td>業種と業態について</td></tr> <tr><td>10</td><td>小売業①：百貨店①</td><td>百貨店成立史について</td></tr> <tr><td>11</td><td>小売業②：百貨店②</td><td>日本の百貨店の特徴について</td></tr> <tr><td>12</td><td>小売業③：GMS</td><td>日本型GMSの特徴について</td></tr> <tr><td>13</td><td>小売業④：スーパーマーケット</td><td>日本のスーパーの特徴について</td></tr> <tr><td>14</td><td>小売業⑤：コンビニエンス・ストア</td><td>コンビニの特徴について</td></tr> <tr><td>15</td><td>これまでのまとめ</td><td></td></tr> <tr><td>16</td><td>期末試験</td><td></td></tr> </tbody> </table>	回	テーマ	時間外学習の内容	1	ガイダンス		2	流通とは何か	流通の機能について	3	商圈と小売業の役割	商圈と購買圏について	4	卸売業	日本の卸売業の特徴について	5	小売業の機能	小売業の機能について	6	物流とロジスティクス	物流の定義について	7	中間試験		8	店舗販売と無店舗販売	無店舗小売業について	9	業種と業態	業種と業態について	10	小売業①：百貨店①	百貨店成立史について	11	小売業②：百貨店②	日本の百貨店の特徴について	12	小売業③：GMS	日本型GMSの特徴について	13	小売業④：スーパーマーケット	日本のスーパーの特徴について	14	小売業⑤：コンビニエンス・ストア	コンビニの特徴について	15	これまでのまとめ		16	期末試験		
	回	テーマ	時間外学習の内容																																																		
1	ガイダンス																																																				
2	流通とは何か	流通の機能について																																																			
3	商圈と小売業の役割	商圈と購買圏について																																																			
4	卸売業	日本の卸売業の特徴について																																																			
5	小売業の機能	小売業の機能について																																																			
6	物流とロジスティクス	物流の定義について																																																			
7	中間試験																																																				
8	店舗販売と無店舗販売	無店舗小売業について																																																			
9	業種と業態	業種と業態について																																																			
10	小売業①：百貨店①	百貨店成立史について																																																			
11	小売業②：百貨店②	日本の百貨店の特徴について																																																			
12	小売業③：GMS	日本型GMSの特徴について																																																			
13	小売業④：スーパーマーケット	日本のスーパーの特徴について																																																			
14	小売業⑤：コンビニエンス・ストア	コンビニの特徴について																																																			
15	これまでのまとめ																																																				
16	期末試験																																																				
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>※以下のテキストを講義の際に必ず持参すること。                  使用テキスト：                  番場博之編著『基礎から学ぶ流通の理論と政策（新版）』八千代出版，2016年</p>																																																				
	<p>学びの手立て</p> <p>①テキストは必ず購入して、時間外に予習・復習ができる態勢を整えてください。                  ②欠席5回以上で成績評価は「不可」となります。また、30分以上の遅刻は欠席扱いとします。                  ③スーパーマーケット、コンビニエンスストアなどをよく観察し、流通チャンネルの重要性を学ぶこと。</p>																																																				
	<p>評価</p> <p>◆中間試験：40点                  ◆期末試験：40点                  ◆平常点：20点                  合計：100点</p>																																																				

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>地域社会における流通業の役割を理解して、小売業や卸売業が抱える課題を発見する。                  「マーケティング入門Ⅰ」および「マーケティング入門Ⅱ」を履修していることが望ましい。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	販売管理論	前期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	髭白 晃宜	2年	t.higeshiro@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	販売業務の基礎（接客・販売技術・店舗経営等）を学ぶことで、関連する流通・マーケティング科目の習得につなげる。 明確な達成目標として、リテールマーケティング（販売士）検定3級の取得を目指すことで、流通・マーケティングを学ぶことの有意義さを身近に感じてもらえるようにする。	皆さんはショッピングをする際に、商品の質や価格のほかに、店内の雰囲気、従業員の接客、商品の品揃えや陳列方法に興味を持ったことはありませんか。販売の現場では、顧客のニーズを的確に捉えようと日々様々な工夫を凝らしています。 本講義では、リテールマーケティング検定3級取得を目指しながら、流通やマーケティングをより身近に学んでいきます。
到達目標	①流通システムにおける小売業の役割を理論・実務双方の点から理解する。 ②リテールマーケティング（販売士）検定3級取得に必要な知識を習得する。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス：販売士検定とは	検定受検方法の確認
	2	小売業の類型①	小売流通についての学習
	3	小売業の類型②	同上
	4	小売業の類型③	同上
	5	小売業の類型④	同上
	6	小売業の類型⑤	同上
	7	小売業の類型⑥	同上
8	小売業の類型⑦	同上	
9	中間試験		
10	マーチャンダイジング①	販売実務についての学習	
11	マーチャンダイジング②	同上	
12	マーチャンダイジング③	同上	
13	マーチャンダイジング④	同上	
14	マーチャンダイジング⑤	同上	
15	これまでのまとめ		
16	期末試験		
テキスト・参考文献・資料など	※以下のテキストを講義の際に必ず持参すること。 使用テキスト： ①中谷安伸『よくわかる販売士検定（リテールマーケティング）3級 Part1』一ツ橋書店、2014年 ②中谷安伸『よくわかる販売士検定（リテールマーケティング）3級 Part2』一ツ橋書店、2014年		
学びの手立て	①テキストは必ず購入して、時間外に必ず予習・復習ができる態勢を整えてください。 ②欠席5回以上で成績評価は「不可」となります。また、30分以上の遅刻は欠席扱いとします。 ③普段からスーパーマーケット、コンビニエンスストアなどをよく観察し、販売のための工夫を学ぶこと。		
評価	◆中間試験：40点 ◆期末試験：40点 ◆平常点：20点 合計：100点		

学びの継続	次のステージ・関連科目 販売実務への興味関心を喚起し、流通やマーケティングが非常に身近なものであることを理解することが目標。 履修学生には、リテールマーケティング（販売士）検定3級もしくは2級へのチャレンジを促したい。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	販売管理論	後期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	髭白 晃宜	2年	t.higeshiro@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	販売業務の基礎（接客・販売技術・店舗経営等）を学ぶことで、関連する流通・マーケティング科目の知識習得につなげる。 明確な達成目標として、リテールマーケティング（販売士）検定3級の取得を目指すことで、流通・マーケティングを学ぶことの有意義さを身近に感じてもらえるようにする。	皆さんはショッピングをする際に、商品の質や価格のほかに、店内の雰囲気、従業員の接客、商品の品揃えや陳列方法に興味を持ったことはありませんか。販売の現場では、顧客のニーズを的確に捉えようと日々様々な工夫を凝らしています。 本講義では、リテールマーケティング検定3級取得を目指しながら、流通やマーケティングをより身近に学んでいきます。
到達目標	①流通システムにおける小売業の役割を理論・実務双方の点から理解する。 ②リテールマーケティング（販売士）検定3級取得に必要な知識を習得する。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス：販売士検定とは	検定受検方法の確認
2	小売業の類型①	小売流通についての学習	
3	小売業の類型②	同上	
4	小売業の類型③	同上	
5	小売業の類型④	同上	
6	小売業の類型⑤	同上	
7	小売業の類型⑥	同上	
8	小売業の類型⑦	同上	
9	中間試験		
10	マーチャンダイジング①	販売実務についての学習	
11	マーチャンダイジング②	同上	
12	マーチャンダイジング③	同上	
13	マーチャンダイジング④	同上	
14	マーチャンダイジング⑤	同上	
15	これまでのまとめ		
16	期末試験		
テキスト・参考文献・資料など	※以下のテキストを講義の際に必ず持参すること。 使用テキスト： ①中谷安伸『よくわかる販売士検定（リテールマーケティング）3級 Part1』一ツ橋書店、2014年 ②中谷安伸『よくわかる販売士検定（リテールマーケティング）3級 Part2』一ツ橋書店、2014年		
学びの手立て	①テキストは必ず購入して、時間外に必ず予習・復習ができる態勢を整えてください。 ②欠席5回以上で成績評価は「不可」となります。また、30分以上の遅刻は欠席扱いとします。 ③普段からスーパーマーケット、コンビニエンスストアなどをよく観察し、販売のための工夫を学ぶこと。		
評価	◆中間試験：40点 ◆期末試験：40点 ◆平常点：20点 合計：100点		

学びの継続	次のステージ・関連科目
	販売実務への興味を喚起し、流通やマーケティングが身近なものであることを理解することが目標。 履修学生には、リテールマーケティング（販売士）検定3級もしくは2級への挑戦を促したい。

※ポリシーとの関連性

営利企業会計及び非営利会計の目的、各基準の相違点などを学び、幅広い会計知識を習得。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	非営利会計	後期	金2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-上原 香代子	3年	E-mail:ptt451@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 非営利会計の対象は、国・地方公共団体、公益法人、学校法人、社会福祉法人、宗教法人等であり、それぞれに会計基準が存在します。 近年の非営利会計制度の改正は、アカンタビリティ（説明責任）を重視する企業会計制度と多くの共通部分を有するようになりました。	メッセージ 非営利法人会計の改正傾向は、企業会計の表示基準などに近似しています。簿記会計の基礎を習得した学生にとって、将来の選択肢が広がる科目と思います。
	到達目標 非営利組織ごとの会計基準（測定方法、表示および開示方法）の違いにより、一般的な会計知識では、その情報を理解し利用することが困難であることを学習するとともに、近年における各会計基準の改訂の動向を確認し、その方向性を考察できるようになること。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイドランスー我が国の非営利組織会計	各項目のレジュメ確認
	2	公益法人会計の「貸借対照表」－「資産の部」	同上
	3	公益法人会計の「貸借対照表」－「負債の部」「正味財産の部」	同上
	4	公益法人会計の「正味財産増減計算書」	同上
	5	公益法人会計の「キャッシュ・フロー計算書」	同上
	6	公益法人会計の法人税等1 概要	同上
	7	公益法人会計の法人税等2 収益事業の意義と範囲等	同上
	8	公益法人会計の法人税等3 みなし寄付金制度、消費税等	同上
9	その他の非営利法人会計1 社会福祉法人会計	同上	
10	その他の非営利法人会計2 NPO法人会計、病院会計	同上	
11	その他の非営利法人会計3 学校法人会計、宗教法人会計	同上	
12	地方政府の会計－わが国地方政府の会計	同上	
13	地方政府の会計－政府会計の「基本目的」「貸借対照表」「資産の部」の評価	同上	
14	地方政府の会計－政府会計の「行政コスト計算書」	同上	
15	地方政府の会計－政府会計の「純資産変動計算書」「資金収支計算書」	同上	
16	期末テスト		
	テキスト・参考文献・資料など テキスト：株式会社創成社『非営利・政府会計テキスト』2017年発行 宮平公平著 参考文献：財団法人大蔵税務協会『非営利法人の税務と会計』中田ちず子編著		
	学びの手立て 非営利組織の会計も「仕訳」の知識が必要です。 企業会計の知識を前提に、各非営利組織の特殊性とその会計基準等を学習します。		
	評価 授業参加度及び課題内容評価（30%）、期末テスト（70%）の総合評価		

学びの継続	次のステージ・関連科目 「関連科目」 税法、税務会計等
-------	--------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	比較経営論 I	前期	金 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	佐久本 朝一	3年		

学びの準備	ねらい 国際比較の経営的な視点より辺境における経済発展の理論について説明する。	メッセージ
	到達目標 経営組織を構成する人・文化・経済という視点から、イギリス・アメリカ・日本の経済発展のプロセスを辿っていくことになる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 1 国際的な企業における経営組織 2 イギリスにおける企業経営組織 3 アメリカの経営組織 4 経済発展と企業者活動 5 経営戦略 6 経営理念の国際比較 7 日本型雇用システムの特質 10 欧米と日本の経営組織の比較 11 アジア型経営組織と日本的経営 12 沖縄の経営組織の特質
	テキスト・参考文献・資料など 佐久本 朝一『技術革新下の労働と日本型企業社会』国際経営研究所、1995年。
	学びの手立て
	評価

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	比較経営論Ⅱ	後期	金2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	佐久本 朝一	3年		

学びの準備	ねらい 比較経営に関する専門知識を把握する。	メッセージ
	到達目標	

学びの準備	到達目標
-------	------

学びの実践	学びのヒント 授業計画（テーマ・時間外学習の内容含む） 1 中川敬一郎「比較経営史序説」東京大学出版会 アリカマネジメントの特質を日米比較の観点から知ることができる。 2 大河内暁男「経営構想力」東京大学出版会 企業経営者の経営行動についての具体的ケースが豊富にもりこまれている。
	テキスト・参考文献・資料など 1 佐久本朝一「技術革新下の日本型企业社会」ユージン伝株式会社 2 佐久本朝一「日本企業と過労シンドローム」中央経済社 3 佐久本 朝一『技術革新下の労働に日本型企业社会』国際経営研究所

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 1 佐久本朝一「技術革新下の日本型企业社会」ユージン伝株式会社 2 佐久本朝一「日本企業と過労シンドローム」中央経済社 3 佐久本 朝一『技術革新下の労働に日本型企业社会』国際経営研究所
-------	---

学びの実践	学びの手立て   評価 2回のテストによる理解度の評価と出席状況を加味して判断する。
-------	--

学びの実践	評価 2回のテストによる理解度の評価と出席状況を加味して判断する。
-------	--------------------------------------

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ビジネスプレゼンテーション	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-佐渡山 美智子	3年	free-net@ezweb.ne.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>「伝えたいこと」を誤解なく、効果的に表現するためには、コミュニケーションの基本を知ることが必要です。傾聴、理解、共感、確認、伝達など、「相手を知ること」で、伝える内容や表現を選ぶことができます。あわせて、相手への敬意を表すためには、姿勢を整え挨拶を交わし、より伝わる話し方を身につけ、言葉に責任を持った表現ができることを目指します。</p>	<p>社会人として求められるスキルのトップにあげられるのは、コミュニケーション力です。ビジネスの基本である報告・連絡・相談も、相手の身になって考え、行動することから始まります。姿勢を正して挨拶ができ、その言葉は聞き取りやすく、しっかりと責任をもって伝えることができるようにスキルアップを図ります。プレゼンテーション、ディスカッション、ディベートを通して実践します。</p>
到達目標	<p>●傾聴（話の内容と意図を理解）し、要点をメモにとることができる。●姿勢を整え、しっかりと挨拶をすることができる。●言葉が聞きとりやすく、はっきりと話すことができる。●情報の収集・整理・選択ができる。●グループワークで意見を調整し、プレゼンテーションができる。●聞き手にあわせて、効果的に話をする事ができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		時間外学習の内容
	回	テーマ	
	1	ガイダンス	自己紹介・受講目的について準備
	2	姿勢・挨拶・発声トレーニング・自己紹介・インタビュー・他己紹介	発声練習・自己PR文の作成
	3	自己PRスピーチトレーニング・音読トレーニング	新聞記事の準備
	4	継承<クリエイティブリスニング>、新聞記事の音読・内容紹介	ディスカッションテーマの提案
	5	ディスカッションテーマの提案<グループテーマの選択>	テーマについての情報収集
	6	情報の収集・整理・選択<情報の提供と目的の明確化・表現の方法>	コメントの作成・言葉の選択
	7	ディスカッション<傾聴・理解・伝達・表現>	振り返りレポート
	8	ディベートについて<多角的なもの見方・多様な価値観の理解>	ディベートテーマの提案準備
	9	ディベートテーマの提案・決定<社会的な課題からの選択>	裏付けデータ等、情報の収集・選択
	10	ディベートマップの作成<多角的視点・ストーリーの作成>	ファイルの整理・発言リハーサル
	11	ディベートマッチ<実践>＝物事の本質を観る論理的な話し方	振り返りレポート・就活の現状を整理
	12	ディスカッション<就職活動を有利に展開するために>	現状の把握・情報収集・整理・所見
	13	グループワーク<情報共有・整理・選択・要点・表現方法等>	パワーポイントの作成
	14	チームプレゼンテーション<実践1>	PDCAマネジメントサイクルで検証
15	チームプレゼンテーション<実践2>	総括レポートのまとめ	
16	総括<コミュニケーション力とプレゼンテーション>		

テキスト・参考文献・資料など  
 テキストは使用しません。必要な資料は、プリントで配布致します。

学びの手立て  
 履修の心構えとして ●出欠確認を厳格に行います。連絡なしの欠席・遅刻は大きな減点となります。やむを得ない状況の場合は、必ず連絡することを基本とします。欠席届は必ず翌週までに提出してください。●この講義を受講する目的を明確にして臨むことが有意義な活動へと繋がります。●プリントは最小限に準備する予定です。講義内の話をきちんと聞く姿勢から、傾聴と学び取るチカラをつけてもらいます。あわせて、その要点をメモにして記録を残し、振り返り・確認ができること評価します。社会でもとめられているスキルのひとつです。●人と人を繋ぐ意識を持ち、グループワークでよりよいコミュニケーションのために行動してください。●質問するチカラで講義の内容をより有意義なものにしてください。

評価	<input type="checkbox"/> 出席率 <input type="checkbox"/> 宿題・課題など事前準備の状況	<input type="checkbox"/> 提出物（レポートやノートなど） <input type="checkbox"/> 活動内容と実績
----	---	--

次のステージ・関連科目  
 ●この講義で要点となっていることを意識的に実践していくことが、スキルアップに繋がります。3年生は、就職活動の中で、また、社会人としても常にコミュニケーションと表現。自分の言葉に責任をもつことをこころがけることが大切です。

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	フレッシュマン・セミナー	前期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	髭白 晃宜	1年	t.higeshiro@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>大学での学習の始まりとして、また、産業情報学部・企業システム学科の学生としての基礎的な学習能力、コミュニケーション能力、表現力を高めることを目的とします。</p>	<p>フレッシュマン・セミナーは、4年間の大学生活が豊かで実りあるものになるための基礎的な学習能力を身につける授業です。また、4年間共に勉学に励む仲間との交流の場でもあるので、積極的に授業に参加してください。</p>
到達目標	<p>1. 目的・課題に対して適切に情報を収集することができる。                  2. プレゼンテーション能力を身につける。                  3. ビジネスに興味・関心を持ち、問題解決のためにディスカッションをすることができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	履修ガイドやシラバス等を熟読する
	2	新聞記事（経済記事）の読み方、捉え方	新聞記事を読む
	3	レポート・小論文の書き方Ⅰ	レポート・小論文を書く
	4	レポート・小論文の書き方Ⅱ	レポート・小論文を書く
	5	図書館によるガイダンス	図書館を活用する
	6	キャリア支援課による就職ガイダンス	就職情報を調べる
	7	学生相談室によるガイダンス	学生生活について考える
8	プレゼンテーションの方法と実践Ⅰ	プレゼンソフトを使用する	
9	プレゼンテーションの方法と実践Ⅱ	プレゼンソフトを使用する	
10	ディスカッションの方法と実践Ⅰ	ディスカッションテーマを調べる	
11	ディスカッションの方法と実践Ⅱ	ディスカッションテーマを調べる	
12	沖縄県内産業の実態とその動向Ⅰ	沖縄県内産業の実態を調べる	
13	沖縄県内産業の実態とその動向Ⅱ	沖縄県内産業の実態を調べる	
14	ビジネス分野（経営・マーケティング・会計）の基礎知識Ⅰ	ビジネスに関する情報収集	
15	ビジネス分野（経営・マーケティング・会計）の基礎知識Ⅱ	ビジネスに関する情報収集	
16	期末試験・レポートの提出		
テキスト・参考文献・資料など	<p>随時、プリント資料等を配布する。                  参考文献については、必要に応じて講義中に紹介する。</p>		
学びの手立て	<p>・専門必修科目なので、休まず出席してください。                  ・積極的に多様なメディア（新聞、TV、インターネット、書籍等）で情報を収集してください。</p>		
評価	<p>授業への参加態度、課題提出、期末試験等によって総合評価する。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>1年の終了次には「マーケティング」「経営」「会計」のいずれかのコースを選択しますので、1年次のうちに将来の職業や自身の興味・関心のあるテーマを決めるようにしてください。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	フレッシュマン・セミナー	前期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮森 正樹	1年	miyamori@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 大学での学習の始まりとして、また、産業情報学部・企業システム学科の学生としての基礎的な学習能力、コミュニケーション能力、表現力を高めることを目的とします。	メッセージ フレッシュマン・セミナーは、4年間の大学生活が豊かで実りあるものになるための基礎的な学習能力を身につける授業です。また、4年間共に勉学に励む仲間との交流の場でもあるので、積極的に授業に参加してください。
	到達目標 1. 目的・課題に対して適切に情報を収集することができる。 2. プレゼンテーション能力を身につける。 3. ビジネスに興味・関心を持ち、問題解決のためにディスカッションをすることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	履修ガイドやシラバス等を熟読する
	2	新聞記事（経済記事）の読み方、捉え方	新聞記事を読む
	3	レポート・小論文の書き方Ⅰ	レポート・小論文を書く
	4	レポート・小論文の書き方Ⅱ	レポート・小論文を書く
	5	図書館によるガイダンス	図書館を活用する
	6	キャリア支援課による就職ガイダンス	就職情報を調べる
	7	学生相談室によるガイダンス	学生生活について考える
	8	プレゼンテーションの方法と実践Ⅰ	プレゼンソフトを使用する
	9	プレゼンテーションの方法と実践Ⅱ	プレゼンソフトを使用する
	10	ディスカッションの方法と実践Ⅰ	ディスカッションテーマを調べる
	11	ディスカッションの方法と実践Ⅱ	ディスカッションテーマを調べる
	12	沖縄県内産業の実態とその動向Ⅰ	沖縄県内産業の実態を調べる
	13	沖縄県内産業の実態とその動向Ⅱ	沖縄県内産業の実態を調べる
	14	ビジネス分野（経営・マーケティング・会計）の基礎知識Ⅰ	ビジネスに関する情報収集
	15	ビジネス分野（経営・マーケティング・会計）の基礎知識Ⅱ	ビジネスに関する情報収集
	16	期末試験・レポートの提出	
	テキスト・参考文献・資料など 随時、プリント資料等を配布する。 参考文献については、必要に応じて講義中に紹介する。		
	学びの手立て ・専門必修科目なので、休まず出席してください。 ・積極的に多様なメディア（新聞、TV、インターネット、書籍等）で情報を収集してください。		
	評価 授業への参加態度、課題提出、期末試験等によって総合評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 1年の終了次には「マーケティング」「経営」「会計」のいずれかのコースを選択しますので、1年次のうちに将来の職業や自身の興味・関心のあるテーマを決めるようにしてください。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	フレッシュマン・セミナー	前期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	天野 敦央	1年	第5-603番教室(研究室)	

学びの準備	ねらい 大学での学習の始まりとして、また、産業情報学部・企業システム学科の学生としての基礎的な学習能力、コミュニケーション能力、表現力を高めることを目的とします。	メッセージ フレッシュマン・セミナーは、4年間の大学生活が豊かで実りあるものになるための基礎的な学習能力を身につける授業です。また、4年間共に勉学に励む仲間との交流の場でもあるので、積極的に授業に参加してください。
	到達目標 1. 目的・課題に対して適切に情報を収集することができる。 2. プレゼンテーション能力を身につける。 3. ビジネスに興味・関心を持ち、問題解決のためにディスカッションをすることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		時間外学習の内容
	回	テーマ	
	1	オリエンテーション	履修ガイドやシラバス等を熟読する
	2	新聞記事(経済記事)の読み方、捉え方	新聞記事を読む
	3	レポート・小論文の書き方Ⅰ	レポート・小論文を書く
	4	レポート・小論文の書き方Ⅱ	レポート・小論文を書く
	5	図書館によるガイダンス	図書館を活用する
	6	キャリア支援課による就職ガイダンス	就職情報を調べる
	7	学生相談室によるガイダンス	学生生活について考える
	8	プレゼンテーションの方法と実践Ⅰ	プレゼンソフトを使用する
9	プレゼンテーションの方法と実践Ⅱ	プレゼンソフトを使用する	
10	ディスカッションの方法と実践Ⅰ	ディスカッションテーマを調べる	
11	ディスカッションの方法と実践Ⅱ	ディスカッションテーマを調べる	
12	沖縄県内産業の実態とその動向Ⅰ	沖縄県内産業の実態を調べる	
13	沖縄県内産業の実態とその動向Ⅱ	沖縄県内産業の実態を調べる	
14	ビジネス分野(経営・マーケティング・会計)の基礎知識Ⅰ	ビジネスに関する情報収集	
15	ビジネス分野(経営・マーケティング・会計)の基礎知識Ⅱ	ビジネスに関する情報収集	
16	期末試験・レポートの提出		
	テキスト・参考文献・資料など 随時、プリント資料等を配布する。 参考文献については、必要に応じて講義中に紹介する。		
	学びの手立て ・専門必修科目なので、休まず出席してください。 ・積極的に多様なメディア(新聞、TV、インターネット、書籍等)で情報を収集してください。		
	評価 授業への参加態度、課題提出、期末試験等によって総合評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 1年の終了次には「マーケティング」「経営」「会計」のいずれかのコースを選択しますので、1年次のうちに将来の職業や自身の興味・関心のあるテーマを決めるようにしてください。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	フレッシュマン・セミナー	前期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	原田 優也	1年	原田優也 (5号館5633号室) Email: mongkhol@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>大学での学習の始まりとして、基礎的な学習能力、コミュニケーション能力、表現力を高めることを目的とします。</p> <p>到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 目的・課題に対して適切に情報を収集することができる。</li> <li>2. プレゼンテーション能力を身につける。</li> <li>3. ビジネスに興味・関心を持ち、問題解決のためにディスカッションをすることができる。</li> </ol>	<p>フレッシュマン・セミナーは、4年間の大学生活が豊かで実りあるものになるための基礎的な学習能力を身につける授業です。また、4年間共に勉学に励む仲間との交流の場でもあるので、積極的に授業に参加してください。</p>

学びの実践	学びのヒント	授業計画	
		回	テーマ
		1	オリエンテーション
		2	新聞記事（経済記事）の読み方、捉え方
		3	レポート・小論文の書き方Ⅰ
		4	レポート・小論文の書き方Ⅱ
		5	図書館によるガイダンス
		6	キャリア支援課による就職ガイダンス
		7	学生相談室によるガイダンス
		8	プレゼンテーションの方法と実践Ⅰ
	9	プレゼンテーションの方法と実践Ⅱ	
	10	ディスカッションの方法と実践Ⅰ	
	11	ディスカッションの方法と実践Ⅱ	
	12	沖縄県内産業の実態とその動向Ⅰ	
	13	沖縄県内産業の実態とその動向Ⅱ	
	14	ビジネス分野（経営・マーケティング・会計）の基礎知識Ⅰ	
	15	ビジネス分野（経営・マーケティング・会計）の基礎知識Ⅱ	
	16	期末試験・レポートの提出	
	時間外学習の内容		
		履修ガイドやシラバス等を熟読する	
		新聞記事を読む	
		レポート・小論文を書く	
		レポート・小論文を書く	
		図書館を活用する	
		就職情報を調べる	
		学生生活について考える	
		プレゼンソフトを使用する	
		プレゼンソフトを使用する	
		ディスカッションテーマを調べる	
		ディスカッションテーマを調べる	
		沖縄県内産業の実態を調べる	
		沖縄県内産業の実態を調べる	
		ビジネスに関する情報収集	
		ビジネスに関する情報収集	
	テキスト・参考文献・資料など	<p>随時、プリント資料等を配布する。</p> <p>参考文献については、必要に応じて講義中に紹介する。</p>	
	学びの手立て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門必修科目なので、休まず出席してください。</li> <li>・積極的に多様なメディア（新聞、TV、インターネット、書籍等）で情報を収集してください。</li> </ul>	
	評価	課題提出、期末試験等によって総合評価する。	

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>1年の終了次には「マーケティング」「経営」「会計」のいずれかのコースを選択しますので、1年次のうちに将来の職業や自身の興味・関心のあるテーマを決めるようにしてください。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	フレッシュマン・セミナー	前期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	慶田花 英太	1年	e.kedahana@okiu.ac.jp 研究室：9号館503号室	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>大学での学習の始まりとして、また、産業情報学部・企業システム学科の学生としての基礎的な学習能力、コミュニケーション能力、表現力を高めることを目的とします。</p>	<p>フレッシュマン・セミナーは、4年間の大学生活が豊かで実りあるものになるための基礎的な学習能力を身につける授業です。また、4年間共に勉学に励む仲間との交流の場でもあるので、積極的に授業に参加してください。</p>
到達目標	<p>1. 目的・課題に対して適切に情報を収集することができる。 2. プレゼンテーション能力を身につける。 3. ビジネスに興味・関心を持ち、問題解決のためにディスカッションをすることができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	履修ガイドやシラバス等を熟読する
	2	新聞記事（経済記事）の読み方、捉え方	新聞記事を読む
	3	レポート・小論文の書き方Ⅰ	レポート・小論文を書く
	4	レポート・小論文の書き方Ⅱ	レポート・小論文を書く
	5	図書館によるガイダンス	図書館を活用する
	6	キャリア支援課による就職ガイダンス	就職情報を調べる
	7	学生相談室によるガイダンス	学生生活について考える
	8	プレゼンテーションの方法と実践Ⅰ	プレゼンソフトを使用する
	9	プレゼンテーションの方法と実践Ⅱ	プレゼンソフトを使用する
	10	ディスカッションの方法と実践Ⅰ	ディスカッションテーマを調べる
	11	ディスカッションの方法と実践Ⅱ	ディスカッションテーマを調べる
	12	沖縄県内産業の実態とその動向Ⅰ	沖縄県内産業の実態を調べる
	13	沖縄県内産業の実態とその動向Ⅱ	沖縄県内産業の実態を調べる
14	ビジネス分野（経営・マーケティング・会計）の基礎知識Ⅰ	ビジネスに関する情報収集	
15	ビジネス分野（経営・マーケティング・会計）の基礎知識Ⅱ	ビジネスに関する情報収集	
16	期末試験・レポートの提出		
テキスト・参考文献・資料など	<p>随時、プリント資料等を配布する。 参考文献については、必要に応じて講義中に紹介する。</p>		
学びの手立て	<p>・専門必修科目なので、休まず出席してください。 ・積極的に多様なメディア（新聞、TV、インターネット、書籍等）で情報を収集してください。</p>		
評価	<p>授業への参加態度、課題提出、期末試験等によって総合評価する。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>1年の終了次には「マーケティング」「経営」「会計」のいずれかのコースを選択しますので、1年次のうちに将来の職業や自身の興味・関心のあるテーマを決めるようにしてください。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	フレッシュマン・セミナー	前期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	李 相典	1年		

学びの準備	ねらい 大学での学習の始まりとして、また、産業情報学部・企業システム学科の学生としての基礎的な学習能力、コミュニケーション能力、表現力を高めることを目的とします。	メッセージ フレッシュマン・セミナーは、4年間の大学生活が豊かで実りあるものになるための基礎的な学習能力を身につける授業です。また、4年間共に勉学に励む仲間との交流の場でもあるので、積極的に授業に参加してください。
	到達目標 1. 目的・課題に対して適切に情報を収集することができる。 2. プレゼンテーション能力を身につける。 3. ビジネスに興味・関心を持ち、問題解決のためにディスカッションをすることができる。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	履修ガイドやシラバス等を熟読する
	2	新聞記事（経済記事）の読み方、捉え方	新聞記事を読む
	3	レポート・小論文の書き方Ⅰ	レポート・小論文を書く
	4	レポート・小論文の書き方Ⅱ	レポート・小論文を書く
	5	図書館によるガイダンス	図書館を活用する
	6	キャリア支援課による就職ガイダンス	就職情報を調べる
	7	学生相談室によるガイダンス	学生生活について考える
	8	プレゼンテーションの方法と実践Ⅰ	プレゼンソフトを使用する
	9	プレゼンテーションの方法と実践Ⅱ	プレゼンソフトを使用する
	10	ディスカッションの方法と実践Ⅰ	ディスカッションテーマを調べる
	11	ディスカッションの方法と実践Ⅱ	ディスカッションテーマを調べる
	12	沖縄県内産業の実態とその動向Ⅰ	沖縄県内産業の実態を調べる
	13	沖縄県内産業の実態とその動向Ⅱ	沖縄県内産業の実態を調べる
	14	ビジネス分野（経営・マーケティング・会計）の基礎知識Ⅰ	ビジネスに関する情報収集
	15	ビジネス分野（経営・マーケティング・会計）の基礎知識Ⅱ	ビジネスに関する情報収集
	16	期末試験・レポートの提出	
	テキスト・参考文献・資料など 随時、プリント資料等を配布する。 参考文献については、必要に応じて講義中に紹介する。		
	学びの手立て ・専門必修科目なので、休まず出席してください。 ・積極的に多様なメディア（新聞、TV、インターネット、書籍等）で情報を収集してください。		
	評価 授業への参加態度、課題提出、期末試験等によって総合評価する。		

学びの継続	次のステージ・関連科目 1年の終了次には「マーケティング」「経営」「会計」のいずれかのコースを選択しますので、1年次のうちに将来の職業や自身の興味・関心のあるテーマを決めるようにしてください。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	フレッシュマン・セミナー	前期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	菅森 聡	1年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>大学での学習の始まりとして、また、産業情報学部・企業システム学科の学生としての基礎的な学習能力、コミュニケーション能力、表現力を高めることを目的とします。</p>	<p>フレッシュマン・セミナーは、4年間の大学生活が豊かで実りあるものになるための基礎的な学習能力を身につける授業です。また、4年間共に勉学に励む仲間との交流の場でもあるので、積極的に授業に参加してください。</p>
到達目標	<p>1. 目的・課題に対して適切に情報を収集することができる。                  2. プレゼンテーション能力を身につける。                  3. ビジネスに興味・関心を持ち、問題解決のためにディスカッションをすることができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	履修ガイドやシラバス等を熟読する
	2	新聞記事（経済記事）の読み方、捉え方	新聞記事を読む
	3	レポート・小論文の書き方Ⅰ	レポート・小論文を書く
	4	レポート・小論文の書き方Ⅱ	レポート・小論文を書く
	5	図書館によるガイダンス	図書館を活用する
	6	キャリア支援課による就職ガイダンス	就職情報を調べる
	7	学生相談室によるガイダンス	学生生活について考える
8	プレゼンテーションの方法と実践Ⅰ	プレゼンソフトを使用する	
9	プレゼンテーションの方法と実践Ⅱ	プレゼンソフトを使用する	
10	ディスカッションの方法と実践Ⅰ	ディスカッションテーマを調べる	
11	ディスカッションの方法と実践Ⅱ	ディスカッションテーマを調べる	
12	沖縄県内産業の実態とその動向Ⅰ	沖縄県内産業の実態を調べる	
13	沖縄県内産業の実態とその動向Ⅱ	沖縄県内産業の実態を調べる	
14	ビジネス分野（経営・マーケティング・会計）の基礎知識Ⅰ	ビジネスに関する情報収集	
15	ビジネス分野（経営・マーケティング・会計）の基礎知識Ⅱ	ビジネスに関する情報収集	
16	期末試験・レポートの提出		
テキスト・参考文献・資料など	<p>随時、プリント資料等を配布する。                  参考文献については、必要に応じて講義中に紹介する。</p>		
学びの手立て	<p>・専門必修科目なので、休まず出席してください。                  ・積極的に多様なメディア（新聞、TV、インターネット、書籍等）で情報を収集してください。</p>		
評価	<p>授業への参加態度、課題提出、期末試験等によって総合評価する。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>1年の終了次には「マーケティング」「経営」「会計」のいずれかのコースを選択しますので、1年次のうちに将来の職業や自身の興味・関心のあるテーマを決めるようにしてください。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	プログラミング演習A	前期	火3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	又吉 光邦	2年	matayosi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 表計算ソフトを用い、実践的なデータ処理やデータ作成を行うための技術を習得する。	メッセージ 表計算ソフトの利用は、ビジネスの実践において必須です。利用できる技術を身につけましょう。 30分以上の遅刻は、欠席扱いとします。
	到達目標 基本的な表計算処理をマスターする。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	表の作成	教科書 基礎 第1～2章
	2	表の編集	教科書 基礎 第3章
	3	四則演算と関数	教科書 基礎 第4章
	4	グラフ	教科書 基礎 第5章
	5	データベース	教科書 基礎 第6章
	6	印刷&売り上げ実績表	教科書 基礎 第7章&総合
	7	印刷&売り上げ報告書	教科書 基礎 第7章&総合
	8	申し込み一覧の作成	教科書 基礎 第7章&総合
	9	入力作業をサポートする機能	教科書 応用 第1章
	10	関数を使用した入力サポート	教科書 応用 第2章
	11	データ配布について&データのビジュアル化	教科書 応用 第3～4章
	12	データ分析の準備とデータベース機能	教科書 応用 第5章
	13	ピボットテーブルとピボットグラフ	教科書 応用 第6章
	14	四半期売り上げ実績の制作	教科書 応用 総合
15	四半期売り上げ分析	教科書 応用 総合	
16	課題提出	教科書 全体	
テキスト・参考文献・資料など Microsoft Excel2010 セミナーテキスト問題集 (日経BP社)			
学びの手立て コンピュータルームや自宅のPCで、テキストに沿って、課題をしっかりとやること。 また、コンピュータルームによっては、テキストのバージョンとエクセルのバージョンが異なります。社会に出たときも、同じような状況に遭遇すると思います。バージョン間の差を学習して幅広く適応できるようになりましょう。			
評価 出席：規定通り。 提出物：10回程度の提出物。 授業態度：他の学生への迷惑、並びに授業を妨げるような言動がある場合不可とし、以降の授業の参加を認めない。(例：おしゃべり等)。			

学びの継続	次のステージ・関連科目 プログラミングB。簿記会計。
-------	-------------------------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	プログラミング演習B	後期	水1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	又吉 光邦	2年	matayosi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>本授業では、Android携帯端末のソフト開発を通してプログラミングについて学んでいくことを狙いとしています。授業では、MIT App Inventorを使ったアプリ制作を行います。プログラミングの基本である順次（逐次）、反復（繰り返し）、分岐（条件判断）などをブロックプログラミングで学びます。デザイナー画面によるインターフェイスの設計からアプリ開発まで学びます。</p>	<p>Android端末を持っていると授業で制作したアプリケーションを各自の端末で利用することができます。 30分以上の遅刻は、欠席扱いとします。</p>
到達目標	課題のすべてのアプリケーションを作成する。	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Android開発環境について	授業共有ファイル その1
	2	APP Inventor開発環境について	授業共有ファイル その1&その2
	3	ボタンの配置	授業共有ファイル その3
	4	レイアウト方法とGoogleマップの表示方法	授業共有ファイル その4
	5	リスト作成、リストからGoogleマップへのジャンプなどのActivityの設定方法	授業共有ファイル その5
	6	しゃべるAndroidアプリの作成 I	授業共有ファイル その6
	7	しゃべるAndroidアプリの作成 II	授業共有ファイル その7
	8	お絵かきAndroidアプリの製作	授業共有ファイル その8
	9	SNSへの写真&描画メッセージを送信するAndroidアプリの制作	授業共有ファイル その9
	10	タイマー処理を使ったAndroidアプリの作成 I	授業共有ファイル その10
	11	タイマー処理を使ったAndroidアプリの作成 II（ゲームの作成 I）	授業共有ファイル その11
	12	タイマー処理を使ったAndroidアプリの作成 III（ゲーム感覚のアラーム時計の作成）	授業共有ファイル その12
	13	シューティングゲームAndroidアプリの作成 I（スプライトの利用）	授業共有ファイル その13
14	シューティングゲームAndroidアプリの作成 II（タイマー処理の組み込み）	授業共有ファイル その14	
15	まとめ	授業共有ファイル その1～14	
16	課題提出	授業共有ファイル その1～14	
テキスト・参考文献・資料など	<p>APP InventorによるAndroidアプリケーション開発環境のバージョン・アップデートが激しいため、教科書を用いずにプリント(各自、授業共有ファイルよりダウンロード)で行います。また、それに伴い、講義内容に変更のある場合があります。 Android関連書籍。関連Webページ。</p>		
学びの手立て	<p>授業共有ファイルに毎時間の授業内容をアップロードします。それを参照しながら、実際にAndroidのアプリケーションを作成していきます。各自、PCがあれば、Java SDKとai starterをインストールして、自分のPCで開発することも可能です。</p>		
評価	<p>出席：規定通り。 提出物：10回程度の提出物。 授業態度：他の学生への迷惑、並びに授業を妨げるような言動がある場合不可とし、以降の授業の参加を認めない。（例：おしゃべり等）。</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>マルチメディア論。卒業研究。卒業論文。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	ベンチャー経営論 I	後期	木5	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	岩橋 建治	3年	kiwahashi@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい ベンチャー経営についての理解を深める。	メッセージ この授業では、ベンチャー経営に必要とされる基本的なイシューとして、アントレプレナーシップを中心に学ぶ。アントレプレナーシップは、起業を志す者に限らず、すべての産業人に、現状を乗り越えるための発想の転換を促す可能性をもつ。
	到達目標 アントレプレナーシップを理解し、ベンチャー企業の成長過程をイメージできること。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ベンチャー経営への視角	講義内容の復習
	2	アントレプレナーシップの基礎理論	同上
	3	アントレプレナーシップの社会的意義	同上
	4	アントレプレナーシップと倫理教育	同上
	5	独立アントレプレナー	同上
	6	ファミリー・アントレプレナー	同上
	7	コーポレート・アントレプレナー	同上
	8	ソーシャル・アントレプレナー	同上
	9	誕生・成長初期のベンチャー企業	同上
	10	成長期のベンチャー企業と外部資源	同上
	11	成長期のベンチャー企業と内部資源	同上
	12	長寿企業とアントレプレナーシップ	同上
	13	ベンチャー企業をとりまく環境	同上
	14	沖縄のベンチャー企業の事例	同上
15	グループディスカッション	同上	
16	まとめ	同上	
	テキスト・参考文献・資料など 山田幸三・江島由裕 編著 (2017) 『1からのアントレプレナーシップ』 碩学舎。		
	学びの手立て 国内外のベンチャー企業に対する関心を深めて欲しい。		
	評価 期末試験 (80%)、中間レポート (20%)		

学びの継続	次のステージ・関連科目 ベンチャー経営論Ⅱ、企業者史、および経営コースの各科目。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	貿易ビジネス論	後期	金1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-野原 寿加子	3年	講義終了後に教室で受け付けます	

学びの準備	ねらい ここ数年、企業のグローバル化が進み、貿易取引をはじめとする国際ビジネスがますます盛んになってきています。貿易取引には知識、スキルが必要となってきます。その基本的な知識の習得を目的とします。	メッセージ 貿易実務は、海外企業とのビジネスをサポートするグローバルな仕事です。貿易実務に関する専門的な知識を学ぶとともに国際ビジネス、海外情勢などに興味を持つなど視野を広げるきっかけにもなるよう、親しみのある事例などを取り入れわかりやすく説明できるように心掛けていきます。
	到達目標 ・貿易取引の「しくみ」と「流れ」を理解している	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	指定テキストをよく読む
	2	貿易取引とは	同上
	3	貿易の流れ	同上
	4	貿易取引に関する基礎知識	同上
	5	輸入実務の流れ	同上
	6	①取引相手とのやりとり	同上
	7	②おもな手続き	同上
	8	輸出実務の流れ	同上
	9	①取引相手とのやりとり	同上
	10	②おもな手続き	同上
	11	貨物の流れ	同上
	12	書類の流れ	同上
	13	貿易実務の基礎知識	同上
	14	トラブル対策	同上
15	まとめ	同上	
16	期末試験	同上	
テキスト・参考文献・資料など 【テキスト】片山立志「よくわかる貿易実務入門」日本能率協会マネジメントセンター 【参考文献】木村雅晴「はじめての貿易実務」ナツメ社 必要時にプリントを配布します			
学びの手立て ・出欠確認を毎回行います。やむおえず欠席する場合は必ず欠席届とそれを証明できるものをセットにして提出してください ・受動的に学ぶのではなく、能動的に学ぶ姿勢を期待しています。そのため自分で考える！ということが大切になってきます。質問や意見がある場合はその都度それを、どんどん述べて下さい			
評価 (1) 期末試験 70点 (2) 課題提出 20点 (3) 出席・授業態度 10点 (1)～(3)を統合的に踏まえた上で評価します			

学びの継続	次のステージ・関連科目
-------	-------------

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	簿記演習 I	後期	木2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	菅森 聡	1年		

学びの準備	ねらい	メッセージ
	この講義では、前期の「商業簿記 I」で学んだ内容を復習し、日商簿記検定試験 3 級取得を目指します。	日商簿記検定試験は11月と 2月に行われます。11月試験の合格を目指し、頑張ってください。

学びの準備	到達目標
	① 現金取引、商品売買取引、手形取引などの諸取引を仕訳（記録）できる。 ② 上記①の諸取引を現金出納帳、仕入帳・売上帳、商品有高帳などに記帳できる。 ③ 個人企業の損益計算書と貸借対照表を作成できる。

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	11月検定試験合格に向けて：試算表の作成	
	2	11月検定試験合格に向けて：試算表の作成	
	3	11月検定試験合格に向けて：試算表の作成	
	4	11月検定試験合格に向けて：試算表の作成	
	5	11月検定試験合格に向けて：試算表の作成	
	6	11月検定試験合格に向けて：試算表の作成	
	7	11月検定試験合格に向けて：試算表の作成	
	8	2月検定試験合格に向けて：試算表の作成	
	9	2月検定試験合格に向けて：精算表の作成	
	10	2月検定試験合格に向けて：財務諸表の作成	
	11	2月検定試験合格に向けて：財務諸表の作成	
	12	2月検定試験合格に向けて：財務諸表の作成	
	13	2月検定試験合格に向けて：財務諸表の作成	
	14	2月検定試験合格に向けて：帳簿・伝票	
15	2月検定試験合格に向けて：帳簿・伝票		
16	期末テスト		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など
	テキスト：未定

学びの実践	学びの手立て
	履修上の注意事項／心構え： ・「商業簿記 I」を履修済みの学生しか登録できません。 ・資格取得を目指す講義なので、多くの時間外学習が必要です。

学びの実践	評価
	・平常点……20点（講義中の取組みを評価します） ・テスト……80点（上記「到達目標」を評価します）

学びの継続	次のステージ・関連科目 ・関連科目：商業簿記、工業簿記など、会計コースの諸科目
-------	--

※ポリシーとの関連性

「国際的ビジネス感覚を有する企業人の育成」をするため、それに伴う英語力とグローバルな視点を待つことを目指す。

[ /演習]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	マーケティング英語	後期	火 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	上原 千登勢	3年	c. uehara@okiu.ac.jp 9号館502号室	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>様々なビジネスやマーケティング関連のトピックを通して英語の4つのスキル(Listening, Reading, Writing, Speaking)、語彙力、そして文法をバランスよく学習する。マーケティング関連のアクティビティやグループワークを行い、実践的な英語力を身につけていく。また、ビジネスマナー、外国人対応、異文化についての知識と理解を深める。</p> <p>到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>*ビジネスやマーケティングに必要な英単語や表現を身につけ、使うことができる。</li> <li>*英語を用いて、アンケートや資料を作成し、マーケティング調査を行うことができる。</li> <li>*英語を用いて調査結果を報告することができる。</li> <li>*異文化への知識・理解を深める。</li> </ul>	<p>近年沖縄もグローバル化が進んできました。皆さんは、外国人観光客向けの企画や商品開発などを任せられたらどうしますか？この授業ではそういったマーケティング的要素と実践的な英語を使いアクティビティを通して様々な課題に取り組みます。See you in class!</p> <p><b>【重要】</b>受講希望者は必ず初日(オリエンテーション)に出席すること。出席できない場合は教員に事前に連絡すること。</p>

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	Orientation & Guidance	Unit 1予習
	2	Unit 1 Companies	Unit 1復習、Unit 2予習
	3	Unit 2 Contacts	Unit 2復習、Unit 3予習
	4	Unit 3 Visitors	Unit 3復習、Unit 4予習
	5	Unit 4 New products	Unit 4復習、Unit 5予習
	6	Unit 5 Employment	Unit 5復習、Unit 6予習
	7	Unit 6 Customer services	Unit 6復習、Unit 7予習
	8	Unit 7 Travel	Unit 7復習、Unit 8予習
	9	Unit 8 Orders	Unit 8復習、Unit 9予習
	10	Unit 9 Selling	Unit 1-9復習
	11	Unit 1-9 Review	Unit 10予習
	12	Unit 10 New ideas	Unit 10復習、Unit 11予習
	13	Unit 11 Entertaining	Unit 11復習、Unit 12予習
	14	Unit 12 Performance	Unit 12復習、Unit 13予習
15	Unit 13 Future trends	Unit 13復習、Presentation準備	
16	Final Presentation		

学びの実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>テキスト・教科書: Business Result PreIntermediate Student Book Pack and DVD ROM (朝野書房・アマゾンなどで購入可)</p> <p>課題図書: 「マーケティング英語の教科書— 完璧でなくても、仕事で自信を持てる英語— (宣伝会議養成講座シリーズ)」 (アマゾンなどで購入可)</p> <p>その他参考書などは、必要に応じて授業で紹介する。</p>
-------	---

学びの実践	<p>学びの手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業に出席することは基本である。全体の1/3以上欠席した時点で単位は認められない。30分以上の遅刻を欠席、また2回の遅刻は1回の欠席とみなす。</li> <li>・私語、居眠り、他の教科の宿題など、授業に関係のないことを行った場合欠席扱い、または退室してもらうことがあるので注意してほしい。積極的に授業に取り組み、発言や質問をすること。</li> <li>・小テストやクイズなどで学習経過をチェックするので予習、復習は自主的、かつ積極的に行うこと。</li> <li>・スタディグループを作り、授業以外でも定期的に学習する環境作りをすること。欠席した際、クラスメートより授業内容を教えてもらい、配布物を預かってもらうようにすること。</li> </ul>
-------	---

学びの実践	<p>評価</p> <p>①授業態度、授業への参加・積極性、Self-Reflection (25%) ②課題 (25%) ④クイズ・テスト(25%) ⑤Final Presentation (25%) を総合的に判断して評価する。</p> <p>また、授業以外に積極的に英語活動を行ったもの、ゲーム等の勝者にはボーナスポイントを与える場合があるのでそれらも考慮する。</p>
-------	--

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>ネットなどを活用し、積極的に海外のビジネスやマーケティングに関する情報収集をすること。観光地などでは他言語のパンフレットや資料があるのでそういったものを教材とし、活用すること。また、英語VやVI (英検)、英語VII (TOEIC)などの英語資格試験対策の授業にも是非チャレンジしてほしい。異文化に興味を持った学生は国際理解課題研修I, IIを受講すればよりグローバルな知識や考え方が身につくだろう。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	マーケティング演習	後期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	原田 優也	2年	研究室 (5633) mongkhol@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい マーケティング調査活動および調査方法を学習する。	メッセージ 演習、実習の形式を併用して授業を行う。
	到達目標 マーケティング活動および応用について自分で考える力を身につける。	

学びの準備	到達目標 マーケティング活動および応用について自分で考える力を身につける。

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む) 第01回： 後期日程のガイダンス 第02回～第05回： マーケティング・ミックスとは 第06回～第10回： 企業のマーケティング活動の情報収集 第11回～第15回： 企業訪問の調査結果の報告・討論 第16回： 報告書の提出
	テキスト・参考文献・資料など テキスト： 恩蔵直人監修 (1999) 『コトラーのマーケティング入門』 ピアソンエデュケーション 参考文献： 講義中に紹介します。

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト： 恩蔵直人監修 (1999) 『コトラーのマーケティング入門』 ピアソンエデュケーション 参考文献： 講義中に紹介します。
	学びの手立て ①個人とグループ発表の時、自分の意見とディスカッションを行うことが大前提です。 ②授業に参加し、積極的に学ぶ姿勢 (パティシペーションなど) が必要である

学びの実践	学びの手立て ①個人とグループ発表の時、自分の意見とディスカッションを行うことが大前提です。 ②授業に参加し、積極的に学ぶ姿勢 (パティシペーションなど) が必要である
	評価 課題のレポート (40%)、企業調査の報告書 (40%)、平常点 (20%)

学びの実践	評価 課題のレポート (40%)、企業調査の報告書 (40%)、平常点 (20%)

学びの継続	次のステージ・関連科目 中小企業マーケティング、グローバルマーケティング、専門演習I・II、卒業論文演習I・II
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	マーケティング演習	後期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	李 相典	2年	sangjeon1120@gmail.com または授業終了後	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<ol style="list-style-type: none"> <li>多様なマーケティング事例を通じて、受講生の「マーケティングの重要性」についての理解力を向上させる。</li> <li>グループワークの活動を通じて、チームワークの重要性を理解する。</li> </ol>	<p>マーケティングの成功事例は大企業から小企業まで多様です。マーケティングによる成果は必ずしも高い利益を獲得することだけではありません。小さい町にある『定食店』にお客さんが並んでいることも、マーケティング視点から見ると、意味のあることです。本講義では、マーケティングの意味について、考え直せるきっかけになるような内容で学習します。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>マーケティング理論の多様性・拡張性について理解する。</li> <li>戦略的なマーケティング思考について理解する。</li> <li>これからのマーケティングの変遷について議論する。</li> </ol>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	基本プレゼンテーションの方法(レジュメの作成方法)、グループ分け	
	3	1次グループ・プレゼンテーション(指定課題)の選択と報告リハーサル	グループ内の役割の決定
	4	指定課題のプレゼンテーション①	グループ間ディスカッション
	5	指定課題のプレゼンテーション②	同上
	6	指定課題のプレゼンテーション③	同上
	7	指定課題のプレゼンテーション④	同上
	8	指定課題のプレゼンテーション⑤	同上
	9	2次グループ・プレゼンテーション(自由テーマ)の準備方法	グループ別自由テーマ討議
	10	2次グループ・プレゼンテーションのテーマを決定	
	11	自由テーマのプレゼンテーション①	グループ間ディスカッション
	12	自由テーマのプレゼンテーション②	同上
	13	自由テーマのプレゼンテーション③	同上
14	自由テーマのプレゼンテーション④	同上	
15	自由テーマのプレゼンテーション⑤	同上	
16	授業のまとめ		
実践	テキスト・参考文献・資料など <ol style="list-style-type: none"> <li>テキスト：栗木契・岩田弘三・矢崎和彦編著『ビジョナリー・マーケティング』碩学舎、2013年。</li> </ol>		
	学びの手立て <ol style="list-style-type: none"> <li>遅刻や無断欠席は成績評価に積極的に反映しますので、ご注意ください。(やむを得ず遅刻・欠席の場合、事前にメールで連絡してください)</li> </ol>		
	評価 <ol style="list-style-type: none"> <li>出席・受講態度50%： *5回以上の遅刻や無断欠席の場合は履修できません。授業中またはディスカッションへの積極的な参加には加点があります。</li> <li>1次プレゼンテーション20%</li> <li>2次プレゼンテーション30%</li> </ol>		

学びの継続	次のステージ・関連科目 関連科目：『グローバル観光ビジネス』のような、特別なマーケティングの視角を得られる科目を履修または聴講してください。 次のステージ：『セールス・プロモーション』や『中小企業マーケティング』のような科目を履修すると、さらにマーケティングの面白さを感じられると思います。
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	マーケティング情報処理 I	前期	水 3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	原田 優也	2年	原田研究室 (5号館5633号室) Email: mongkhol@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 情報の時代が到来し、マーケティング領域においてもデータを読み判断する能力が問われている。この授業は、膨大なデータから価値ある情報を読み取り、論理的思考に基づいて意思決定を行う能力を修得することを最終目標とし、データ分析の理論的基礎と分析技法について分析ソフトを操作しながら実践的に学ぶ。	メッセージ データの扱い方から基礎的分析までのマーケティング・リサーチの実際を、ビジュアル教材を用いてわかりやすく解説する。高度な数学知識がなくともよい。意欲と関心を持って最後まで取り組める人を歓迎する。
	到達目標 1) 調査データの種類と分析準備、 2) データの要約と探索的分析、 3) マーケティング課題のリサーチ化と基礎的分析などの項目が理解でき、実際に一人で分析が行えるようになること。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む) 1回 オリエンテーション (概要と授業の受け方) 2回 地域マーケティングとは 3回 マーケティング・リサーチとは 4回 マーケティングレポート作成と情報処理 1 5回 マーケティングレポート作成と情報処理 2 6回 RESASとは: 地域マーケティングへの活用 1 7回 RESASとは: 地域マーケティングへの活用 2 8回 マーケット分析課題 1 市場規模分析 9回 マーケット分析課題 1 実習 10回 マーケット分析課題 2 観光客の行動分析 11回 マーケット分析課題 2 実習 12回 マーケット分析課題 3 商圈分析 13回 マーケット分析課題 3 実習 14回 分析のまとめ方 15回 課題発表 16回 期末レポート
	テキスト・参考文献・資料など ○日経ビッグデータ (2016) 『RESASの教科書』日経BP社 ○分析の実習用に、RESASオンライン講座
	学びの手立て 1) 第1回目の授業に必ず出席すること。 2) Excelで集計表を作成した経験があること。 3) 意欲と関心を持って最後まで取り組める人を歓迎する。
	評価 発表・レポート (30%)とデータ分析課題の提出 (70%)を勘案し、総合的に評価する。

学びの継続	次のステージ・関連科目 ○関連科目: マーケティング情報処理II、市場調査論、消費者行動論、専門演習 ○次のステージ: マーケティング情報処理IIで、マーケティング課題の分析手法をより実践的に解説します。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	マーケティング情報処理II	後期	水3	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	原田 優也	2年	mongkhol@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>情報の時代が到来し、マーケティング領域においてもデータを読み判断する能力が問われている。この授業は、膨大なデータから価値ある情報を読み取り、論理的思考に基づいて意思決定を行う能力を修得することを最終目標とし、データ分析の理論的基礎と分析技法について分析ソフトを操作しながら実践的に学ぶ。</p>	<p>1) 前期【マーケティング情報処理I】の単位を修得できなかった場合、【マーケティング情報処理II】の科目を履修登録しないよう十分注意してください。 2) マーケティング情報処理Iに続き、マーケティング・リサーチの実際を、ビジュアル教材を用いてわかりやすく解説する。 3) 授業計画は学習状況によって変更することがある。</p>
到達目標	<p>データの計量的分析から解釈、報告書の作成までのプロセスを集中的に学ぶ。 1) マーケティング情報処理Iおよびマーケティング情報処理IIで学んだ統計的知識や分析テクニックを、実践的なマーケティング課題にあわせて、活用できるようになること。 2) より高度な分析手法について考え方や注意点を理解できるようになること。 3) 分析計画と適切な分析手法の選択、結果のまとめができるようになること。</p>	

学びの実践	<p>学びのヒント</p> <p>授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む)</p> <p>1回 オリエンテーション 2回 データ入力 3回 データの特徴をつかむには 4回 推定・検定の考え方 (1) 5回 推定・検定の考え方 (2) 6回 推定・検定の考え方 (3) 7回 データ分析： 関連性の検定 (1) 8回 データ分析： 関連性の検定 (2) 9回 分析事例： 顧客満足度 (CS) 分析 10回 仮説検定の考え方と手順 (1) 11回 仮説検定の考え方と手順 (2) 12回 仮説検定の考え方と手順 (3) 13回 分析のまとめ方1 14回 分析のまとめ方2 15回 発表 16回 発表およびレポート提出</p>
	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <p>○恩蔵 直人ほか『1からのマーケティング分析』碩学舎 ○分析の実習用に、アンケート・データを配布する。 ○分析の実習用に、RESASオンライン講座を活用する。</p>
	<p>学びの手立て</p> <p>履修条件： 1) 【必須条件：】 マーケティング情報処理Iの単位を修得したこと。前期「マーケティング情報処理I」の単位を修得できなかった場合、本科目を履修登録しないよう十分注意してください。 2) 第1週目から出席をとりますので、第1週目の授業に必ず出席してください。出席できない場合、本科目を履修登録しないよう十分注意してください。 3) 分析ソフトを用いた統計解析という専門性を修得するには、学習の積み重ねが必要である。授業はすべて分析実習をとまなうので、欠席はしないこと。 4) 出席日数が不足したり、途中で受講を放棄したりするような場合は、本科目の単位修得は認められません。</p>
評価	<p>平常点 (20%)、レポートの発表とデータ分析課題の提出 (80%) を勘案し、総合的に評価する。</p>

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>○必須科目： マーケティング情報処理I ○関連科目： マーケティング総論、市場調査論、消費者行動概論、専門演習、卒業論文演習など</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	マーケティング総論	前期	水2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	原田 優也	2年	原田優也研究室 (5633) mongkhol@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 戦略計画とマーケティングプロセスの関係性について学習する。	メッセージ 授業計画は学習状況によって変更することがある。
	到達目標 マーケティング活動および応用について自分で考える力を身につける。	

学びの準備	到達目標 マーケティング活動および応用について自分で考える力を身につける。

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む) 第1回 オリエンテーション：授業計画および評価の方法の説明 第2回 マーケティングとは 第3回 マーケティングプロセスとは 第4回 戦略計画とマーケティングプロセス (事業ポートフォリオの設計) 第5回 戦略計画とマーケティングプロセス (成長戦略) 第6回 マーケティング・プロセス 第7回 マーケティング環境分析 (SWOT分析の事例) 第8回 理解度テスト 第9回 マーケティング・リサーチと情報システム 第10回 消費者市場と消費者の購買行動 第11回 マーケティング戦略の展開とマーケティング・ミックス 第12回 市場細分化、標的市場の設定、ポジショニング (STP) 第13回 課題発表 1 第14回 課題発表 2 第15回 課題発表 3 第16回 期末試験・レポート提出
	テキスト・参考文献・資料など ◇恩蔵直人監修 (1999) 『コトラーのマーケティング入門』ピアソンエデュケーション

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など ◇恩蔵直人監修 (1999) 『コトラーのマーケティング入門』ピアソンエデュケーション
	学びの手立て ①個人とグループ発表の時、自分の意見とディスカッションを行うことが大前提です。 ②授業に参加し、積極的に学ぶ姿勢 (パティシペーションなど) が必要である。

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など ◇恩蔵直人監修 (1999) 『コトラーのマーケティング入門』ピアソンエデュケーション
	学びの手立て ①個人とグループ発表の時、自分の意見とディスカッションを行うことが大前提です。 ②授業に参加し、積極的に学ぶ姿勢 (パティシペーションなど) が必要である。

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など ◇恩蔵直人監修 (1999) 『コトラーのマーケティング入門』ピアソンエデュケーション
	学びの手立て ①個人とグループ発表の時、自分の意見とディスカッションを行うことが大前提です。 ②授業に参加し、積極的に学ぶ姿勢 (パティシペーションなど) が必要である。

学びの継続	次のステージ・関連科目 中小企業マーケティング、グローバルマーケティング、専門演習I・II、卒業論文演習I・II
-------	---

※ポリシーとの関連性 多様なマーケティング視角について学習することで、マーケティング分野で活躍できる人材を育成する。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	マーケティング総論	前期	月 2	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	李 相典	2年	sangjeon1120@gmail.com または授業終了後	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. マーケティング分野で活用されている「マーケティングの多様性」について学習する。</li> <li>2. 伝統的な「マーケティング理論」から拡張している「マーケティング視角」について学習する。</li> </ol>	<p>マーケティングはこれまでの製造業や、サービス産業、観光産業だけではなく、最近では都市のようなスペース(空間)創造などの公共政策分野にまで、拡張されてきました。本講義では、多様なマーケティング理論または新しく注目されているマーケティング視角について学習します。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. マーケティング理論の多様性・拡張性について理解する。</li> <li>2. 戦略的なマーケティング思考について理解する。</li> <li>3. これからのマーケティングの変遷について議論する。</li> </ol>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	マーケティングと戦略的思考Ⅰ	配布資料をよく読むこと
	3	マーケティングと戦略的思考Ⅱ	同上
	4	マーケティングと戦略的思考Ⅲ	同上
	5	戦略的ブランド・マーケティング&マネジメントⅠ	同上
	6	戦略的ブランド・マーケティング&マネジメントⅡ	同上
	7	戦略的ブランド・マーケティング&マネジメントⅢ	同上
	8	中間テスト	
	9	体験マーケティングⅠ	同上
	10	体験マーケティングⅡ	同上
	11	ストーリーテリング・マーケティングⅠ	同上
	12	ストーリーテリング・マーケティングⅡ	同上
	13	スペース・マーケティングⅠ	同上
14	スペース・マーケティングⅡ	同上	
15	マーケティング総論のまとめ	同上	
16	期末テスト		
実践	<p>テキスト・参考文献・資料など</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. テキスト：使用しません。配布資料で対応します。</li> </ol>		
学びの手立て	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 遅刻や無断欠席は成績評価に積極的に反映しますので、ご注意ください。(やむを得ず遅刻・欠席の場合、事前にメールで連絡してください)</li> </ol>		
評価	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 出席・受講態度50%： *5回以上の遅刻や無断欠席の場合は履修できません。授業中またはディスカッションへの積極的な参加には加点があります。</li> <li>2. 中間テスト20%</li> <li>3. 期末テスト30%</li> </ol>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>関連科目：『グローバル・マーケティング総論』や『グローバル観光ビジネス』など、より多様なマーケティングの視角を得られる科目を履修または聴講してください。</p> <p>次のステージ：『アジアの企業と文化』や『ソーシャル・マーケティング』のような科目を履修すると、マーケティングの面白さを感じられると思います。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	マーケティング入門 I	前期	金1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	原田 優也	1年	研究室 (5633) mongkhol@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 社会的におけるマーケティングの役割について理解できる。	メッセージ 演習、実習の形式を併用して授業を行う。 授業計画は学習状況によって変更することがある。
	到達目標 企業の商品戦略、価格戦略、広告戦略、流通チャネルが理解できる。 ビジネス課題に対して、自分で考える力を身につける。	

学びの準備	到達目標 企業の商品戦略、価格戦略、広告戦略、流通チャネルが理解できる。 ビジネス課題に対して、自分で考える力を身につける。

学びの実践	学びのヒント 授業計画 (テーマ・時間外学習の内容含む) 第01回 オリエンテーション 第02回 マーケティングとは 第03回 マーケティングプロセスとは 第04回 戦略計画とマーケティング・プロセス 第05回 BCGの手法、成長戦略 第06回 【理解度テスト】 第07回 マーケティング環境分析 (ミクロ環境) 第08回 マーケティング環境分析 (マクロ環境) 第09回 SWOT分析の事例 第10回 マーケティング・リサーチと情報システム 第11回 マーケティング・リサーチのプロセス 第12回 【理解度テスト】 第13回 消費者市場と消費者の購買行動 第14回 消費者行動のモデル 第15回 まとめ 第16回 期末試験・レポート提出
	テキスト・参考文献・資料など 適宜プリントを配布する。

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 適宜プリントを配布する。
	学びの手立て ・専門必修科目なので、休まず出席してください。 ・積極的に多様なメディア (新聞、TV、インターネット、書籍等) で情報を収集してください。

学びの実践	評価 理解度テスト (30%)、期末試験 (50%)、レポート (20%)

学びの継続	次のステージ・関連科目 マーケティング総論、マーケティング演習、グローバルマーケティング総論、グローバル・マーケティング演習、消費者行動概論、消費者行動演習
-------	---

※ポリシーとの関連性 学ぶ姿勢と学ぶ力を付ける。自分で考えて、自ら動いていく力を付ける。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	マーケティング入門 I	前期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮森 正樹	1年	miyamori@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この授業を通して、マーケティングとは何かを学ぶ、マーケティングの基本と社会における役割を知る。マーケティングという活動がいかに自分たちの生活に密着しているかを知る。	メッセージ 専門科目を単なる単位・学ぶべきものとするのではなく、授業を通してその科目の楽しさ、面白さ、社会への影響に気づくことが大切です。
	到達目標 1. マーケティングの理論を幅広く知る。 2. マーケティングの応用を考える。 3. マーケティング理論と社会での現象の関係を知る。 4. より高度なマーケティング理論を学ぶために基本をしっかりと身に付ける。	

学びの準備	到達目標 1. マーケティングの理論を幅広く知る。 2. マーケティングの応用を考える。 3. マーケティング理論と社会での現象の関係を知る。 4. より高度なマーケティング理論を学ぶために基本をしっかりと身に付ける。
-------	---

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	マーケティングとは	配布プリントの予習
	3	企業におけるマーケティングの役割	配布プリントの予習
	4	企業におけるマーケティングの位置づけ	配布プリントの予習
	5	マーケティングの概念とその拡張	配布プリントの予習
	6	マーケティング理念とその再検討	配布プリントの予習
	7	戦略思考と戦略体系 1	配布プリントの予習
	8	戦略思考と戦略体系 2	配布プリントの予習
	9	経営資源の配分とPPM	配布プリントの予習
	10	マーケティング戦略の策定 1	配布プリントの予習
	11	マーケティング戦略の策定 2	配布プリントの予習
	12	マーケティング戦略の方向付け	配布プリントの予習
	13	製品ライフサイクル	配布プリントの予習
	14	戦略的マーケティング	配布プリントの予習
	15	これまでの復習	
16	期末試験		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは特になし。授業の中でプリントを配布する。参考文献は必要な時に発表。
-------	--

学びの実践	学びの手立て 履修の心構え： ①出席・授業への積極的参加を強く求める、②自分から動く、③課題提出は期日を守る。  学びを深めるために： ①議論に積極的に参加する、②日経MJを読む。
-------	---

学びの実践	評価 評価は次の項目の総合的な観点から行われる。①出席、②期末試験、③レポート、④授業での態度、⑤課題提出物。
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 ビジネス関連科目を多く受講すること。マーケティングに関連した書籍を読むこと。一般教養科目をしっかりと学ぶこと。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	マーケティング入門 I	前期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	髭白 晃宜	1年	t.higeshiro@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>①マーケティングの全体像をおおまかにつかむことができる。                  ②現実の企業活動に関心を持つことができる。                  ③実際の経済現象について普段から考える契機を与える。</p>	<p>マーケティングとは、顧客がほしいものを生産して、顧客に届ける企業活動のことです。すなわち、メーカー等が「製品・サービスが売れる仕組みをつくる」ことがマーケティングと言えます。                  本講義は、マーケティングの全体像と特徴をおおまかにつかむことで、履修学生が「優れたマーケティングとは何か」を理解することを目的とします。</p>
到達目標	<p>①マーケティングの全体像をおおまかに把握できる。                  ②具体的な企業のマーケティング戦略への興味関心の喚起。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
2	マーケティングとは何か	マーケティングの定義について	
3	STP①	「STP」について	
4	STP②	「STP」について	
5	マーケティング環境分析	内部環境と外部環境について	
6	マーケティング・ミックス①	「4つのP」について	
7	マーケティング・ミックス②	「4つのP」について	
8	中間試験		
9	マーケティング・リサーチ①	市場調査の手順について	
10	マーケティング・リサーチ②	調査対象の選定について	
11	消費者行動①	購買意思決定プロセスについて	
12	消費者行動②	消費者行動モデルについて	
13	インターネット・マーケティング	口コミとマーケティングについて	
14	これからのマーケティング		
15	これまでのまとめ		
16	期末試験		
	テキスト・参考文献・資料など	<p>※以下のテキストを講義の際に必ず持参すること。                  使用テキスト：                  菊池宏之編著『現代マーケティング入門』同文館出版，2013年</p>	
	学びの手立て	<p>①テキストは必ず購入して、時間外に必ず予習・復習ができる態勢を整えてください。                  ②スーパーマーケット、コンビニエンスストアなどをよく観察し、マーケティングの身近さを知る。</p>	
	評価	<p>◆中間試験：30点                  ◆期末試験：40点                  ◆レポート課題：30点（15点×2回）                  合計：100点</p>	

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>2年次以降の専門科目履修に必要なマーケティングの基礎知識を習得する。                  関連科目として「マーケティング総論」および「マーケティング演習」がある。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	マーケティング入門Ⅱ	後期	金1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	原田 優也	1年	研究室(5633) mongkhol@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい 社会的におけるマーケティングの役割について理解できる。	メッセージ 演習、実習の形式を併用して授業を行う。 授業計画は学習状況によって変更することがある。
	到達目標 マーケティング活動および役割について理解できる。 ビジネス課題に対して、自分で考える力を身につける。	

学びの準備	到達目標 マーケティング活動および役割について理解できる。 ビジネス課題に対して、自分で考える力を身につける。

学びの実践	学びのヒント 授業計画(テーマ・時間外学習の内容含む) 第01回 オリエンテーション 第02回 マーケティング課題の選定 第03回 STPとは 第04回 商品戦略 第05回 商品ライフサイクル 第06回 価格戦略 第07回 流通チャネル戦略 第08回 広告戦略、販売促進 第09回 PR活動、人的販売、販売管理 第10回 【理解度テスト】 第11回 マーケティング課題報告1 第12回 マーケティング課題報告2 第13回 マーケティング課題報告3 第14回 マーケティング課題報告4 第15回 マーケティング課題報告5 第16回 期末試験・レポート提出
	テキスト・参考文献・資料など 製品ライフサイクル価格チャネル広告

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など 製品ライフサイクル価格チャネル広告
	学びの手立て ・専門必修科目なので、休まず出席してください。 ・積極的に多様なメディア(新聞、TV、インターネット、書籍等)で情報を収集してください。

学びの実践	学びの手立て ・専門必修科目なので、休まず出席してください。 ・積極的に多様なメディア(新聞、TV、インターネット、書籍等)で情報を収集してください。
	評価 理解度テスト(30%)、レポート(30%)、期末試験(40%)

学びの実践	評価 理解度テスト(30%)、レポート(30%)、期末試験(40%)

学びの継続	次のステージ・関連科目 マーケティング総論、マーケティング演習、グローバルマーケティング総論、グローバル・マーケティング演習、消費者行動概論、消費者行動演習など
-------	---

※ポリシーとの関連性 学ぶ姿勢と学ぶ力を付ける。自分で考えて、自ら動いていく力を付ける。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	マーケティング入門Ⅱ	後期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	宮森 正樹	1年	miyamori@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい この授業を通して、マーケティングとは何かを学ぶ、マーケティングの基本と社会における役割を知る。マーケティングという活動がいかに自分たちの生活に密着しているかを知る。	メッセージ 専門科目を単なる単位・学ぶべきものとするのではなく、授業を通してその科目の楽しさ、面白さ、社会への影響に気づくことが大切です。
	到達目標 1. マーケティングの理論を幅広く知る。 2. マーケティングの応用を考える。 3. マーケティング理論と社会での現象の関係を知る。 4. より高度なマーケティング理論を学ぶために基本をしっかりと身に付ける。	

学びの準備	到達目標 1. マーケティングの理論を幅広く知る。 2. マーケティングの応用を考える。 3. マーケティング理論と社会での現象の関係を知る。 4. より高度なマーケティング理論を学ぶために基本をしっかりと身に付ける。
-------	---

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	オリエンテーション	
	2	マーケティングとは	配布プリントの予習
	3	マーケティング環境 1	配布プリントの予習
	4	マーケティング環境 2	配布プリントの予習
	5	マーケティングタスク(市場需要)	配布プリントの予習
	6	マーケティングタスク(競争)	配布プリントの予習
	7	マーケティングタスク(流通)	配布プリントの予習
	8	消費者行動のシンプルモデル 1	配布プリントの予習
	9	消費者行動のシンプルモデル 2	配布プリントの予習
	10	マーケティング 4P(製品政策)	配布プリントの予習
	11	マーケティング 4P(流通政策)	配布プリントの予習
	12	マーケティング 4P(価格政策)	配布プリントの予習
	13	マーケティング 4P(販売促進政策)	配布プリントの予習
	14	マーケティングミクスによる統合	配布プリントの予習
	15	これまでの復習	
16	期末試験		

学びの実践	テキスト・参考文献・資料など テキストは特になし。授業の中でプリントを配布する。参考文献は必要な時に発表。
-------	--

学びの実践	学びの手立て 履修の心構え： ①出席・授業への積極的参加を強く求める、②自分から動く、③課題提出は期日を守る。  学びを深めるために： ①議論に積極的に参加する。②日経MJを読む。
-------	---

学びの実践	評価 評価は次の項目の総合的な観点から行われる。①出席、②期末試験、③レポート、④授業での態度、⑤課題提出物。
-------	--

学びの継続	次のステージ・関連科目 ビジネス関連科目を多く受講すること。マーケティングに関連した書籍を読むこと。一般教養科目をしっかりと学ぶこと。
-------	--

※ポリシーとの関連性 マーケティングの基礎的な知識を活用して、現実の企業活動が抱える課題を発見するための能力を身につける。

[ /一般講義]

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	マーケティング入門Ⅱ	後期	金 1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	髭白 晃宜	1年	t.higeshiro@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>①マーケティングの全体像をおおまかにつかむことができる。</p> <p>②現実の企業活動に関心を持つことができる。</p> <p>③実際の経済現象について普段から考える契機を与える。</p>	<p>マーケティングとは、顧客がほしいものを生産して、顧客に届ける企業活動のことです。すなわち、メーカー等が「製品・サービスが売れる仕組みをつくる」ことがマーケティングと言えます。</p> <p>本講義は、マーケティングの全体像と特徴をおおまかにつかむことで、履修学生が「優れたマーケティングとは何か」を理解することを目的とします。</p>
到達目標	<p>①マーケティングの全体像をおおまかに把握できる。</p> <p>②具体的な企業のマーケティング戦略への関心の喚起。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
	2	マーケティング入門Ⅰを振り返る	マーケティング入門Ⅰの復習
	3	マーケティング・ミックス①：製品戦略【前編】	製品戦略についての学習
	4	マーケティング・ミックス②：製品戦略【後編】	同上
	5	マーケティング・ミックス③：価格戦略【前編】	価格戦略についての学習
	6	マーケティング・ミックス④：価格戦略【後編】	同上
	7	マーケティング・ミックス⑤：チャネル戦略【前編】	チャネル戦略についての学習
	8	マーケティング・ミックス⑥：チャネル戦略【後編】	同上
	9	マーケティング・ミックス⑦：プロモーション戦略【前編】	プロモーション戦略についての学習
	10	マーケティング・ミックス⑧：プロモーション戦略【後編】	同上
	11	マーケティング事例研究①：グループ報告	研究報告とレポート作成
	12	マーケティング事例研究②：グループ報告	同上
	13	マーケティング事例研究③：グループ報告	同上
14	マーケティング事例研究④：グループ報告	同上	
15	これまでのまとめ		
16	期末試験		
テキスト・参考文献・資料など	<p>※以下のテキストを講義の際に必ず持参すること。</p> <p>使用テキスト： 菊池宏之編著『現代マーケティング入門』同文館出版，2013年</p>		
学びの手立て	<p>①テキストは必ず購入して、時間外に必ず予習・復習ができる態勢を整えてください。</p> <p>②スーパーマーケット、コンビニエンスストアなどをよく観察し、マーケティングの身近さを知ること。</p> <p>③時間外にグループ作業を行います。各自協力して作業に取り組むように。</p>		
評価	<p>◆グループによる研究報告（プレゼンテーション）：30点</p> <p>◆グループによる研究報告書の作成と提出：30点</p> <p>◆期末試験：40点</p> <p>合計：100点</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>2年次以降の専門科目履修に必要なマーケティングの基礎知識を習得する。関連科目として「マーケティング総論」および「マーケティング演習」がある。</p>
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	民法	前期	水1	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	-福里 芝人	3年	授業終了後に教室で受け付けます。	

学びの準備	ねらい 私たちの日常生活で起こる紛争を解決する手段としての民法について学ぶことにより、契約社会で生き抜く基礎的な力を養います。	メッセージ これまで民法について学んだことのない初学者にも、例えを交えながらわかりやすく教えます。この講義をきっかけに「法律って難しい」⇒「あれ？法律って結構たのしいぞ！」という考えになってくれたら嬉しいです。他学科の学生の受講も歓迎します。
	到達目標 契約や結婚・離婚・相続などについての基礎的仕組みや法律用語の意味を理解でき、さらに、六法の仕組みや条文を理解することができます。そのことによって、会社や地域社会、家庭において必要とされる法的センスを身に付け、これからの生活を賢く生き抜く力を磨くことができます。	

学びの実践	学びのヒント 授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	シラバスをよく読むこと
	2	民法とは何か	テキスト第1章I
	3	財産法の仕組み	テキスト第1章II
	4	契約の成立から効力発生まで①（契約の成立、契約の主体）	テキスト第2章I・II・III
	5	契約の成立から効力発生まで②（契約の成立・有効要件など）	同上
	6	物権①（物権の客体、物権変動）	テキスト第2章IV
	7	物権②（占有権、所有権、用益物権）	同上
	8	債権の発生から消滅	テキスト第2章V
9	債権の効力として問題が生じたときの処理①（特定物債権と不特定物債権）	テキスト第2章VI	
10	債権の効力として問題が生じたときの処理②（受領遅滞、危険負担）	同上	
11	債権の効力として問題が生じたときの処理③（債務不履行、担保責任）	同上	
12	債権の履行確保の手段①（特殊な債権回収手段、債権保全）	テキスト第2章VII	
13	債権の履行確保の手段②（債権の担保）	同上	
14	家族法①（親族、婚姻・離婚、親子）	テキスト第3章I	
15	家族法②（相続、遺言）	テキスト第3章II	
16	テスト	合計60点未満の人は再試	
実践	テキスト・参考文献・資料など テキスト：「伊藤真の民法入門」伊藤真（著）日本評論社。ポケット六法（平成28年版）必携。		
	学びの手立て 【履修の心構え】民法は分量が多いので、予習・復習をしっかりとすること。また、早めに教科書・六法を購入して民法に慣れること。そして、授業では私語・居眠りをしないで、真面目な態度で受講すること。		
	評価 期末試験70%、レポート20%、平常点10%		

学びの継続	次のステージ・関連科目 この授業では民法の概要について学ぶので、授業終了後に公務員試験対策や各種対策においてさらに細かな民法の授業があれば受講することを望む。また、「関連科目」としては、「商法」や「会社法」を学ぶことによって、卒業後のビジネス現場で必要とされる法的知識を習得して、企業で必要とされる人材へと成長することができます。
-------	--

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	流通政策論	後期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	髭白 晃宜	3年	t.higeshiro@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>①流通政策の変遷から、日本型流通の特徴を理解する。 ②個別の流通政策について理解を深め、社会での役割を確認する。 ③商業振興とまちづくりの関係性について理解する。</p>	<p>現実の経済制度がすべて順調に機能しているとは限りません。流通政策は、経済政策のうち流通部門にかかわる政策で、流通システムをうまく機能させるためのものです。 本講義では流通政策に焦点を当て、商業振興とまちづくりについて考えると同時に、都市の商業が抱える問題点を明らかにします。</p>
到達目標	<p>①流通政策の変遷から日本型流通の特徴を理解すると同時に、日本の流通制度が抱える問題を明らかにする。 ②個別の流通政策に関する理解を深めて、自身の購買行動への影響を身近に考えることができる。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
2	流通総論を振り返る	流通総論の復習	
3	中小小売業と商店街	商店街の発展と衰退について	
4	流通政策と小売商業政策	日本の商業構造が抱える問題	
5	流通政策研究①：グループ報告①		
6	独占禁止法	流通政策研究	
7	景品表示法と再販売価格維持制度	同上	
8	中間試験		
9	流通政策研究②：グループ報告②		
10	流通政策研究③：グループ報告③		
11	百貨店法と大規模小売店舗法	流通政策研究	
12	中小小売商業振興法	同上	
13	流通政策研究④：グループ報告④		
14	まちづくり三法	流通政策研究	
15	地域商店街活性化法	同上	
16	期末試験		
テキスト・参考文献・資料など	<p>※以下のテキストを講義の際に必ず持参すること。 使用テキスト： 番場博之編著『基礎から学ぶ流通の理論と政策(新版)』八千代出版、2016年</p>		
学びの手立て	<p>①テキストは必ず購入して、時間外に必ず予習・復習ができる態勢を整えてください。 ②欠席5回以上で成績評価は「不可」となります。また、30分以上の遅刻は欠席扱いとします。 ③時間外にグループ作業を行います。各自協力して作業に取り組むように。</p>		
評価	<p>◆グループ報告：25点 ◆中間試験：30点 ◆期末試験：30点 ◆平常点：15点 合計：100点</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>地域商業が抱える課題を発見して、課題解決のための流通政策のありかたを考えることができる。 流通政策の目的を理解することで、流通システムと都市・地域の発展の関係性を考えることができる。 事前に「マーケティング総論」ならびに「流通総論」を履修していることが望ましい。</p>
-------	---

科目基本情報	科目名	期別	曜日・時限	単位
	流通総論	前期	火4	2
	担当者	対象年次	授業に関する問い合わせ	
	髭白 晃宜	2年	t.higeshiro@okiu.ac.jp	

学びの準備	ねらい	メッセージ
	<p>①流通に関する基礎的な理論を学び、今日の流通実態を理解する。                  ②流通業態の発展を学ぶことで、流通業の役割を理解する。                  ③地域社会の発展と流通の関係について考える契機を与える。</p>	<p>流通は、生産と消費をつなぐことで商業活動を円滑に行う手助けをするという役割を持っています。流通チャンネルが多様であるがゆえに、私たちは便利で豊かな生活を送ることができます。本講義では、生活に密接に結び付いた流通の仕組みや役割を学ぶことで、日本型流通の特徴を明らかにしていきます。</p>
到達目標	<p>①流通に関する基礎的な知識を習得し、今日の流通実態について理解できる。                  ②小売業の業態についての理解を深めると同時に、日本型流通システムの特徴を知る。</p>	

学びの実践	学びのヒント		
	授業計画		
	回	テーマ	時間外学習の内容
	1	ガイダンス	
2	流通とは何か		流通の機能について
3	商圏とエリアマーケティング		商圏と購買圏について
4	卸売業		日本の卸売業の特徴について
5	小売業の役割と機能		小売業の役割について
6	物流とは何か		物流の定義について
7	中間試験		
8	無店舗小売業		無店舗小売業について
9	業種と業態		業種と業態について
10	百貨店①		百貨店成立史について
11	百貨店②		欧米と日本の百貨店比較について
12	GMSとスーパーマーケット①		スーパーマーケット成立史について
13	GMSとスーパーマーケット②		日本のスーパーの特徴について
14	コンビニエンス・ストア		コンビニの特徴について
15	これまでのまとめ		
16	期末試験		
テキスト・参考文献・資料など	<p>※以下のテキストを講義の際に必ず持参すること。                  使用テキスト：                  番場博之編著『基礎から学ぶ流通の理論と政策（新版）』八千代出版，2016年</p>		
学びの手立て	<p>①テキストは必ず購入して、時間外に予習・復習ができる態勢を整えてください。                  ②欠席5回以上で成績評価は「不可」となります。また、30分以上の遅刻は欠席扱いとします。                  ③スーパーマーケット、コンビニエンスストアなどをよく観察し、流通チャンネルの重要性を学ぶこと。</p>		
評価	<p>◆中間試験：40点                  ◆期末試験：40点                  ◆平常点：20点                  合計：100点</p>		

学びの継続	<p>次のステージ・関連科目</p> <p>地域社会における流通業の役割を理解して、小売業や卸売業が抱える課題を発見する。本講義履修後に「流通政策論」を履修することが望ましい。</p>
-------	--